

資料編

目次【資料編】

■1 環境行政全般	128	■4 化学物質関係(ダイオキシン類)	181
(1)環境行政のあゆみ	128	(1)大気環境	181
(2)環境保全に係る行政組織	129	(2)公共用水域(水質、底質)	181
(3)環境関係各種審議会	129	(3)地下水	181
(4)環境年表	133	(4)土壌(一般環境)	181
		(5)土壌(発生源周辺)	181
■2 大気関係	141	■5 騒音・振動・悪臭関係	182
(1)大気汚染常時監視局・測定結果一覧	141	(1)騒音規制法に基づく特定施設の届出状況	182
(2)ばい煙・粉じん発生施設設置状況(法律)	146	(2)騒音規制法に基づく特定建設作業の届出状況	182
(3)ばい煙・粉じん発生施設設置状況(条例)	147	(3)自動車交通騒音測定結果(市町村実施)	183
		(4)自動車交通騒音測定結果(面的評価)	184
		(5)振動規制法に基づく特定施設の届出状況	185
		(6)振動規制法に基づく特定建設作業の届出状況	185
■3 水質関係	148	■6 土壌・地下水・地盤関係	186
(1)健康項目測定地点数(河川)	148	(1)地下水質測定結果(概況調査)	186
(2)健康項目測定結果(河川)	148	(2)地下水質測定結果(継続監視調査)	187
(3)河川水質の環境基準達成状況	149	■7 赤土関係	188
(4)各河川の概況及び水質	150	(1)底質中懸濁物質含量(SPSS)測定結果	
(5)健康項目測定地点数(海域)	162	(定点観測調査結果)	188
(6)健康項目測定結果(海域)	162	(2)サンゴ調査結果概要	
(7)海域水質の環境基準達成状況	163	(定点観測調査結果)	189
(8)与那覇湾・伊佐海域の水質の経年変化	164	(3)底質中懸濁物質含量(SPSS)測定結果	
(9)各海域の概況及び水質	164	(重点監視海域調査結果)	190
(10)主要水浴場水質調査結果	172	(4)環境保全目標の達成状況	192
(11)魚類のへい死事故	174	(5)赤土等に係る環境保全目標類型	193
(12)県内の公共用水域で発生した魚類へい死			
事故の原因(過去5年分)	175		
(13)水質汚濁に係る環境基準の水域類型			
指定状況	176		
(14)水質汚濁防止法の特定事業場数			
(各保健所別)	179		
(15)水質汚濁防止法に基づく改善命令等の			
発動状況	180		

■8 基地公害関係 194

- (1)在日米軍施設・区域環境調査
(公共用水域調査結果) …… 194
- (2)基地周辺公共用水域監視調査
(公共用水域調査結果) …… 199
- (3)基地周辺公共用水域測定結果
(地下水調査結果) …… 202
- (4)米軍基地周辺公共用水域監視調査結果
(底質分析結果) …… 204
- (5)米軍基地周辺公共用水域監視調査結果
(魚類分析結果) …… 204
- (6)基地周辺公共用水域監視調査
(ダイオキシン類底質分析結果) …… 205
- (7)嘉手納飛行場及び普天間飛行場周辺航空機
騒音調査 …… 206
- (8)環境放射能調査結果の概要 …… 209

■9 廃棄物関係 213

- (1)粗大ごみ処理施設整備状況 …… 213
- (2)一般廃棄物最終処分場整備状況 …… 213
- (3)廃棄物再生利用施設整備状況 …… 214
- (4)し尿処理施設整備状況 …… 215

■10 自然環境関係 216

- (1)自然環境保全基礎調査一覧 …… 216
- (2)沖縄県自然環境保全地域の概要 …… 217
- (3)温泉利用状況 …… 218
- (4)特殊鳥類等生息環境調査 …… 219
- (5)国指定及び県指定鳥獣保護区 …… 220
- (6)鳥獣保護区位置図 …… 221
- (7)傷病鳥獣救護事業実績 …… 222
- (8)鳥獣保護管理員の配置状況 …… 222
- (9)野生鳥獣飼養登録状況 …… 222
- (10)国内希少野生動植物種 …… 223

- (11)狩猟免許取得状況及び狩猟者登録状況 …… 225
- (12)狩猟免許交付件数の内訳 …… 225
- (13)有害鳥獣捕獲実績 …… 225
- (14)オニヒトデの駆除実績 …… 226
- (15)本県の自然公園の概要 …… 227
- (16)市町村別自然公園面積 …… 230
- (17)自然公園施設等状況 …… 231
- (18)自然公園区域における許認可等の状況 …… 232
- (19)自然公園利用状況 …… 232

■11 共通的・基盤的施策関係 233

- (1)環境影響評価の実施状況 …… 233
- (2)公害苦情の受付状況等 …… 236

■12 用語の解説 238

■13 環境についての問い合わせ先 249

- (1)県の機関 …… 249
- (2)市町村環境担当部署一覧 …… 250

1 環境行政全般

(1) 環境行政のあゆみ

昭和47年 5月15日 本土復帰により、沖縄県庁が発足。

昭和48年 4月 企画部に環境保全室を新設。同室において公害行政の総合企画及び調整並びに自然保護行政を所管。公害の監視指導については厚生部環境衛生課(公害係)が所管。

昭和49年 4月 環境保健部を設置。企画部環境保全室と厚生部環境衛生課(公害係)を廃止し、新設された環境保健部に環境保全課、公害規制課、自然保護課を設置。

昭和50年 4月 環境整備課の新設。環境保全課と公害規制課を統合して公害対策課に改称。

昭和58年 4月 環境整備課が廃止。環境整備課環境整備係は公害対策課に移管。

昭和60年 4月 環境整備係を環境衛生課へ移管。

平成 5年 4月 公害対策課を環境保全課へ、環境衛生課を生活衛生課へ改称。

平成 8年 4月 環境保全課を環境保全室へ改称。

平成10年 4月 環境保健部を福祉保健部と文化環境部へ再編。福祉保健部には薬務衛生課、文化環境部には環境保全室、自然保護課及び廃棄物対策課を設置。

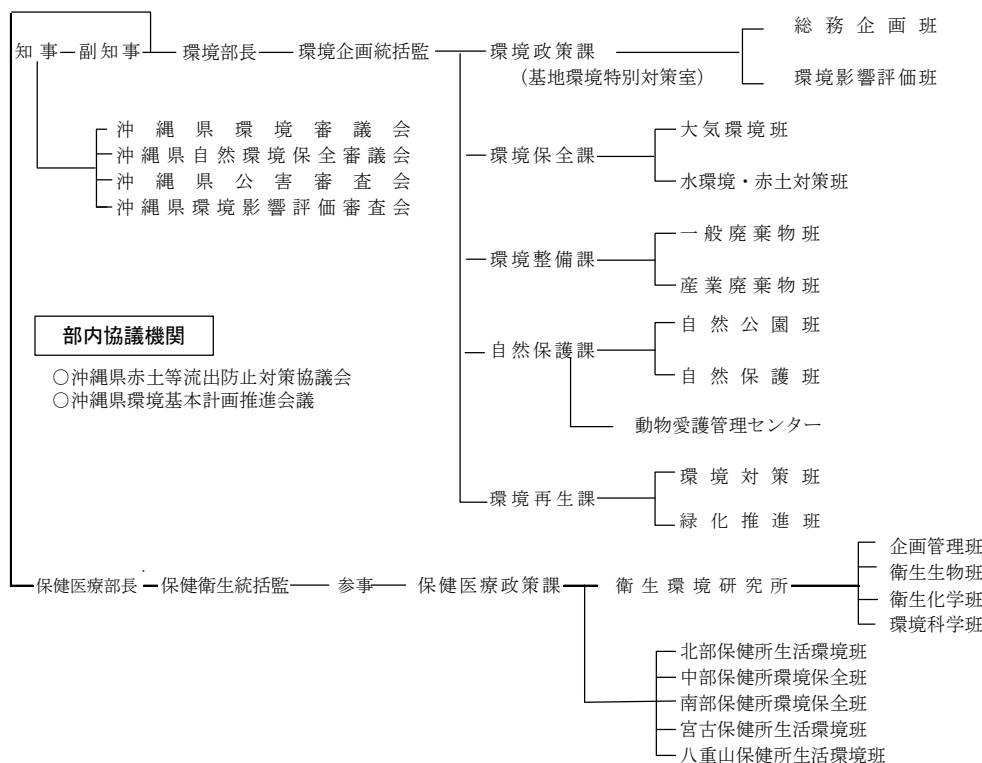
平成13年 4月 環境保全室を環境政策課と環境保全課へ改組。廃棄物対策課を環境整備課へ改称。

平成23年 4月 文化環境部を環境生活部に再編。

平成26年 4月 環境生活部を環境部と保健医療部及び子ども生活福祉部へ再編。基地環境特別対策室を設置。自然保護課を自然保護・緑化推進課へ再編。

平成28年 4月 環境政策課及び自然保護・緑化推進課を環境政策課、自然保護課及び環境再生課へ再編。

(2) 環境保全に係る行政組織（平成28年4月1日現在）



(3) 環境関係各種審議会

ア 沖縄県環境審議会

沖縄県環境審議会は、県における公害対策に関する基本的事項を調査審議するため、環境基本法（平成5年法律第91号）第43条第2項及び沖縄県環境審議会条例（昭和47年条例第103号）に基づき設置されています。

委員は、学識経験者5名、公益代表者3名、住民代表者2名、産業界代表者4名及び行政関係者2名の計16名が選任されており、任期は2年となっています。

イ 沖縄県自然環境保全審議会

沖縄県自然環境保全審議会は、自然環境保全法（昭和47年法律第85号）第51条及び沖縄県自然環境保全審議会条例（昭和48年沖縄県条例第55号）に基づき設置されています。審議事項は、自然公園法、鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律、温泉法、沖縄県自然環境保全条例、沖縄県自然公園条例の規定によりその権限に属せられた事項及び自然環境の保全に関する重要事項です。審議会組織は、学識経験者及び住民代表からなる15名の委員で構成し、自然環境・鳥獣部会、自然公園・温泉部会の2各部会があります。

ウ 沖縄県公害審査会

沖縄県公害審査会は、公害に係る紛争の迅速かつ適切な解決を図るため、公害紛争処理法（昭和45年法律第108条）及び沖縄県附属機関設置条例（昭和47年条例第50条）に基づき、昭和47年5月15日に設置されています。

現在、委員は弁護士3人、大学教授等5人、医師1人、薬剤師1人、保健師1人の計11人が任命されており、任期は3年となっています。

エ 沖縄県環境影響評価審査会

沖縄県環境影響評価審査会は、環境影響評価及び事後調査に関する技術的な事項を調査審議するため、沖縄県環境影響評価条例（平成12年沖縄県条例第77号）第51条に基づき設置されています。その組織及び運営に関し必要な事項は同条例及び沖縄県環境影響評価条例施行規則（平成13年沖縄県規則第87号）で定めております。

委員は、学識経験者のうちから13名以内で構成し任期は3年となっています。

沖縄県環境審議会委員名簿

任期（平成29年2月8日～平成31年2月7日）

No.	役職	氏名	現職名（専門分野等）	区分
1		あらかき たけみつ 新垣 雄光	琉球大学教授（環境分析化学）	学識経験者
2	会長	おがわ まもる 小川 護	沖縄国際大学教授（人文地理学）	
3		おの ひろこ 小野 尋子	琉球大学准教授（都市計画）	
4	副会長	たけむら あきひろ 竹村 明洋	琉球大学教授（サンゴ礁生物生理学）	
5		やまかわ あやこ 山川 彩子	沖縄国際大学准教授（基礎生物学）	
6		なかむら てるみ 中村 照美	沖縄弁護士会 会員	公益代表者
7		ひが みつこ 比嘉 光子	沖縄県婦人連合会 理事	
8		みやざと たつや 宮里 達也	沖縄県医師会 常任理事	
9		きんじょう まゆみ 金城まゆみ	NPO法人職員（環境カウンセラー）	住民代表者
10		しかたに まゆ 鹿谷 麻夕	しかたに自然案内 主宰	
11		あさと せいいち 安里 成一	沖縄県産業廃棄物協会 会長	産業界代表者
12		おおしろ つとむ 大城 勉	沖縄県農業協同組合 代表理事理事長	
13		こばやし れいこ 小林 玲子	沖縄経済同友会 準会員	
14		ふくじ つぐお 福治 嗣夫	沖縄県商工会議所連合会 常任幹事	
15		みやもと しんじ 宮本 伸二	第十一管区海上保安本部 警備救難部長	行政関係
16		やまたに ひでゆき 山谷 英之	内閣府沖縄総合事務局 総務部長	

沖縄県公害審査会会委員名簿

任期（平成28年8月9日～平成31年8月8日）

	役職	氏名	職名
1		あはれん ゆみこ 阿波連 由美子	沖縄県看護協会副会長（保健師）
2		だい もり たもつ 大 森 保	琉球大学名誉教授（分析化学）
3		さか い かず ひと 酒 井 一人	琉球大学教授（地域工業農学）
4		が き や み か 我喜屋 美香	沖縄県薬剤師会常任理事（薬剤師）
5	会 長	か と う ゆたか 加 藤 裕	弁護士
6		きん じょう ただ お 金 城 忠 雄	沖縄県医師会常任理事（医師）
7		と か し き たけし 渡嘉敷 健	琉球大学教授（音響工学）
8		はら だ い く み 原 田 育 美	弁護士
9		まえ どう し の 前 堂 志 乃	沖縄国際大学准教授（心理学）
10	会長代理	やま き ひ で お 山 崎 秀 雄	琉球大学准教授（環境生物学）
11		よこ え たかし 横 江 崇	弁護士

沖縄県環境影響評価審査会委員名簿

任期（平成28年10月27日～平成31年10月26日）

	役職	氏名	職名	区分
1	副会長	つつみ じゅんいちろう 堤 純一郎	琉球大学工学部教授	大気環境
2		さか い かず と 酒 井 一人	琉球大学農学部教授	水環境
3		お お で しげる 大 出 茂	元琉球大学教授	
4		なか ぎ えいぞう 仲 座 栄三	琉球大学工学部教授	
5		まえかど あきら 前 門 晃	琉球大学名誉教授	
6	会 長	みやぎ くにはる 宮 城 邦治	沖縄国際大学名誉教授	陸域動物
7		さ さ き たけし 佐 々 木 健志	琉球大学博物館（風樹館）学芸員	陸・海域動物
8		たちばら かつのり 立 原 一憲	琉球大学理学部准教授	
9		しんじょう かずはる 新 城 和治	元琉球大学教授	
10		でん だ てつ お 傳 田 哲郎	琉球大学理学部教授	
11		す だ しやういちろう 須 田 彰一郎	琉球大学理学部教授	海域植物
12		ひ だか みち お 日 高 道雄	琉球大学理学部名誉教授	海域動物
13		お の ひろ こ 小 野 尋子	琉球大学工学部准教授	景観

沖縄県自然環境保全審議会委員名簿

任期（平成27年5月27日～平成29年5月26日）

	氏名	代表区分	現職名	備考(専門分野)
1	宮里 達也 みやざと たつや	学識経験者	北部地区医師会病院医師	医学
2	大島 順子 おおしま じゆんこ	〃	琉球大学観光産業科学部准教授	環境教育学
3	渡久地 健 とぐち けん	〃	琉球大学法文学部准教授	地理学・サンゴ礁学
4	傳田 哲郎 でんた てつお	〃	琉球大学理学部教授	植物分類学
5	伊澤 雅子 いざわ まさこ	〃	琉球大学理学部教授	保全生物学
6	久保田 康裕 くぼた やすひろ	〃	琉球大学理学部准教授	群集生態学
7	藤村 弘行 ふじむら ひろゆき	〃	琉球大学理学部准教授	分析化学
8	神谷 大介 かみや だいすけ	〃	琉球大学工学部助教	土木計画学
9	植田 明浩 うえだ あきひろ	〃	環境省九州地方環境事務所那覇自然環境事務所長	自然保護行政
	西村 学 にしむら まなぶ		※人事異動に伴い平成27年8月3日より西村氏に変更	
10	清水 俊二 しみず しゆんじ	〃	林野庁九州森林管理局 沖縄森林管理署長	森林行政
11	大田 定 おおた さだむ	〃	内閣府沖縄総合事務局経済産業部 環境資源課長	鉱業行政
12	仲嶺 マチ子 なかみね まちこ	住民代表者	獣医師	獣医学
13	赤嶺 朝子 あかみね あさこ	〃	弁護士	法律
14	宮城 敦子 みやぎ あつこ	〃	沖縄県薬剤師会理事	薬学
15	加藤 淳一 かとう じゆんいち	〃	会社員	一般公募

(4) 環境年表

年 月 日	事 項
昭和47年 5月15日	○本土復帰により琉球政府が廃止され、沖縄県庁が発足
同年 9月4日	○沖縄県公害防止条例（沖縄県条例第58号）制定 ○沖縄県附属機関設置条例（沖縄県条例第50号）の制定により、沖縄県公害審査会を設置
同年 9月9日	○沖縄県公害防止条例施行規則（沖縄県規則第139号）制定 ○沖縄県公害の規制基準等に関する規則（沖縄県規則第140号）制定
昭和48年 4月1日	○沖縄県公害対策審議会条例（沖縄県条例第103号）制定 ○沖縄県水質審議会条例（沖縄県条例第104号）制定
同年 4月2日	○環境保全行政について、企画部の環境保全室が環境保全対策の総合企画及び調整を主な所掌事務とし、厚生部の環境衛生課が公害防止の所掌事務を行うこととなった。 また、公害の技術部である公害衛生研究所を沖縄県公害衛生研究所と改称して、公害防止のための調査、研究業務を行うこととなった。
同年 7月23日	○沖縄県放射能対策本部設置規程（沖縄県訓令第10号）制定
同年 9月7日	○沖縄県公害審査会の紛争処理の手續きに要する費用に関する条例（沖縄県条例第56号）制定
同年 11月15日	○赤土等流出防止対策協議会設置規程（沖縄県訓令第22号）制定 ○沖縄県公害審査会規則（沖縄県規則第87号）制定 ○沖縄県公害審査会の手数料の納付の方法及び減免等に関する規則（沖縄県規則第88号）制定
昭和49年 3月1日	○騒音規制法（昭和43年法律第98号）第3条第1項の規定により、特定工場等において発生する騒音、特定建設作業からの騒音を規制する地域の指定（沖縄県告示第73号）、同年4月1日施行（指定地域）名護市、具志川市、沖縄市、宜野湾市、浦添市、那覇市、糸満市、平良市、石垣市及び豊見城村 ○騒音規定法第4条第1項の規定により、昭和49年沖縄県告示第73号により指定された地域について特定工場等において発生する騒音の規制基準の設定（沖縄県告示第74号）、同年4月1日施行 ○特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準（昭和43年厚生省・建設省告示第1号）の別表第1号の規定に基づく区域の指定（沖縄県告示第75号）、同年4月1日施行
同年 3月4日	○公害対策基準法（昭和42年法律第132号）第9条の規定に基づき国場川及び比謝川の公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域の類型の指定（沖縄県告示第78号）
同年 4月1日	○多様化する環境行政に対応するために環境保全室と環境衛生課の公害係を廃止し、新設された環境保健部に環境保全課、公害規制課、自然保護課を新設して環境問題の解決にあたることになった。
同年 9月24日	○沖縄県行政組織規則（昭和49年沖縄県規則第18号）第107条第1項の規定に基づき設置された、沖縄県公害対策連絡協議会の運営規程（沖縄県訓令第33号）制定
同年 10月1日	○公害監視船（ひまわり）15t乗組員4人を公害規制課へ配置し、金武湾一帯の監視パトロールにあたる。
昭和50年 3月6日	○公害対策基本法第9条第2項及び環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令（昭和46年政令第159号）第1項の規定により、金武湾、中城湾、与勝海域、北部西海岸流入河川（満名川）及び福地川の公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定（沖縄県告示第79号）
同年 4月1日	○総合的・積極的かつ敏速適切に環境行政を推進、強化するため、環境保全課と公害規制課を統合して公害対策課に改称 又、新たに環境整備課を設置し、公害対策課に特殊公害係を設置

年 月 日	事 項
昭和50年 7月 9日	○水質汚濁防止法第3条第3項の規定に基づく排水基準を定める条例（沖縄県条例第37号）制定（国場川、比謝川に係る上乘せ排水基準の設定）
同年 9月18日	○公害対策基本法第9条第2項及び環境基準に係る水質及び地域の指定権限の委任に関する政令第1項の規定により、天願川（川崎川を含む）の公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定（沖縄県告示第395号）
昭和51年 3月15日	○沖縄県公害防止条例（昭和47年沖縄県条例第58号）の全部改正（沖縄県条例第2号）、同年9月14日施行
同年 3月18日	○公害対策基本法第9条第2項及び環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令第1項の規定により、那覇港海域、名護湾海域、漢那川、羽地大川及び我部祖河川水系の公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定（沖縄県告示第82号）
同年 4月 1日	○沖縄県行政組織規則第107条第2項に定める沖縄県米軍基地環境科学委員会の運営規程（沖縄県訓令第8号）制定
同年 8月 5日	○水質汚濁防止法第3条第3項の規定に基づく排水基準を定める条例の一部改正（沖縄県条例第27号）（天願川、中城湾、与勝海域、金武湾に係る上乘せ排水基準の設定）
同年 9月13日	○沖縄県公害防止条例施行規則（昭和47年沖縄県規則第139号）の全部改正（沖縄県規則第31号）、同年9月14日施行
同年 10月14日	○沖縄県公害防止条例施行規則の一部改正（沖縄県規則第38号）
昭和52年 4月25日	○公害対策基本法第9条第2項及び環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令第1項の規定により、北部東海岸流入河川（新川川、安波川、普久川）、汀良川、宮古海域（平良港海域）及び八重山海域（石垣港海域、川平湾海域）の公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定（沖縄県告示第193号）
同年 6月20日	○水質汚濁防止法第3条第3項の規定に基づく排水基準を定める条例の一部改正（沖縄県条例第24号）（羽地大川、我部祖河川、名護湾に係る上乘せ排水基準の設定）
昭和53年 3月 1日	○悪臭防止法（昭和46年法律第91号）第3条の規定による工場その他の事業場における事業活動に伴って発生する悪臭物質の排出を規制する地域の指定及び同法第3条の規定による当該規制地域について規制基準の設定（沖縄県告示第87号）、同年4月1日施行（規制地域）名護市、石川市、具志川市、沖縄市、宜野湾市、浦添市、那覇市、糸満市、平良市、石垣市、与那城村、北中城村、中城村及び西原村
同年 5月15日	○沖縄県公害の規制基準等に関する規則（昭和47年沖縄県規則第140号）の廃止
同年 5月15日	○公害対策基本法第9条第2項及び環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令第1項の規定により、久茂地川、安里川及び安謝川の公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定（沖縄県告示第233号）
同年 6月24日	○水質汚濁防止法第3条第3項の規定に基づく排水基準を定める条例の一部改正（沖縄県条例第24号）（那覇港海域に係る上乘せ排水基準の設定）
昭和54年 3月 1日	○昭和53年沖縄県告示第87号（悪臭規制地域の指定及び規制基準の設定）の一部を改正する告示（沖縄県告示第78号）制定、同年4月1日施行
同年 3月 8日	○沖縄県公害防止条例施行規則の一部改正（沖縄県規則第6号）、同年4月1日施行 ○騒音規制法に基づく規制地域及び特定工場において発生する騒音の規制基準、特定建設作業に伴って発生する騒音の規制基準に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める命令に基づく区域及び時間の指定並びに昭和49年沖縄県告示第73号、第74号、第75号の廃止（沖縄県告示第95号）、同年4月1日施行

年 月 日	事 項
昭和54年 3月 8日	○振動規制法（昭和51年法律第64号）第3条第1項の規定に基づく規制地域及び同法第4条第1項の規定に基づく規制基準、同法施行規則別表第1の付表に基づく指定区域並びに府令別表第2の規定に基づく区域及び時間の指定（沖縄県告示第96号）制定、同年4月1日施行
同年 4月 9日	○公害対策基本法第9条第2項及び環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令第1項の規定により、報得川の公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定（沖縄県告示第166号）
同年 9月29日	○水質汚濁防止法第3条第3項の規定に基づく排水基準を定める条例の一部改正（沖縄県条例第32号）（報得川に係る上乘せ排水基準の設定）
昭和55年 5月19日	○赤土等流出防止対策協議会設置規程（昭和48年沖縄県訓令第22号）の一部を改正する訓令（沖縄県訓令第24号）
同年 6月12日	○公害対策基本法第9条第2項及び環境基準に係る水域及び指定権限の委任に関する政令第1項の規定により、牧港川の公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定（沖縄県告示第377号）
昭和56年 4月18日	○新公害監視船（こんぺき）38.82 t 完成
昭和57年 3月25日	○騒音規制法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定（昭和54年沖縄県告示第9号）の一部改正（沖縄県告示第184号）、同年5月1日施行
同年 3月25日	○振動規制法に基づく規制地域の指定及び規制基準の指定（昭和54年沖縄県告示第96号）の一部改正（沖縄県告示第185号）、同年5月1日施行
	○悪臭規制地域の指定及び規制基準の設定（昭和53年沖縄県告示第87号）の一部改正（沖縄県告示第186号）、同年5月1日施行
同年 6月 3日	○公害対策基本法第9条第2項及び環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令第1項の規定により、羽地内海の公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定（沖縄県告示第318号）
同年 7月12日	○公害対策基本法第9条第2項及び環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令第1項の規定により、辺野喜川の公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準に水域類型の指定（沖縄県告示第373号）
同年 10月28日	○沖縄県行政組織規則の一部を改正する規則（沖縄県規則第51号）の公布（第107号第2項の表中沖縄米軍基地環境科学委員会の項を削る）、同年11月1日施行
同年 11月15日	○沖縄県米軍基地環境科学委員会規程を廃止する訓令（沖縄県訓令第20号）、同年11月15日施行
昭和58年 3月28日	○環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令第2項の規定に基づき、那覇空港周辺地域について、航空機騒音に係る地域類型あてはめの設定（沖縄県告示第209号）
同年 4月 1日	○国の行政改革との関連から県は昭和58年度組織定数の見直し及び組織の統廃合を実施、その結果環境整備課が廃止され、当該課の環境整備係が公害対策課に移管
昭和60年 4月 1日	○組織改正により、公害対策課の環境整備係が環境衛生課に移管
同年 4月 5日	○騒音規制法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定（昭和54年沖縄県告示第95号）の一部改正（沖縄県告示第327号）、同年5月1日から施行
	○振動規制法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定（昭和54年沖縄県告示第96号）の一部改正（沖縄県告示第328号）、同年5月1日から施行
	○悪臭防止法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定（昭和53年沖縄県告示第87号）の一部改正（沖縄県告示第329号）、同年5月1日から施行
昭和61年 1月12日	○沖縄県水質審議会を廃止する条例により沖縄県水質審議会を廃止、同年1月12日より施行

年 月 日	事 項
昭和61年 2月28日	○騒音規制法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定に係る告示（昭和54年沖縄県告示第95号）の一部改正（沖縄県告示第129号）、同年4月1日から施行
同年 3月13日	○振動規制法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定に係る告示（昭和54年沖縄県告示第96号）の一部改正（沖縄県告示第130号）、同年4月1日から施行 ○赤土等流出防止対策協議会設置規程に基づき、沖縄県赤土等流出防止対策協議会を設置、同年4月1日発足
同年 7月8日	○沖縄県放射能対策本部設置規程（沖縄県訓令第10号）を廃止、沖縄県部内協議機関設置規程に基づき、沖縄県放射能対策本部を設置、同年4月1日発足 ○騒音規制法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定に係る告示（昭和54年沖縄県告示第95号）の一部改正（沖縄県告示第467号）、同年8月8日施行 ○悪臭防止法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定に係る告示（昭和53年沖縄県告示第87号）の一部改正（沖縄県告示第468号）、同年8月8日施行 ○振動規制法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定に係る告示（昭和54年沖縄県告示第96号）の一部改正（沖縄県告示第469号）、同年8月8日施行
昭和62年 3月31日	○沖縄県河川浄化対策連絡協議会の設置（同年4月1日発足）
同年 4月1日	○特殊公害係を環境管理係に名称変更
同年 10月2日	○騒音規制法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定に係る告示（昭和54年沖縄県告示第95号）の一部改正（沖縄県告示第735号）、同年11月2日施行 ○振動規制法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定に係る告示（昭和54年沖縄県告示第96号）の一部改正（沖縄県告示第936号）、同年11月2日施行 ○悪臭防止法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定に係る告示（昭和53年沖縄県告示第87号）の一部改正（沖縄県告示第937号）、同年11月2日施行
同年 11月5日	○第53回全国公害行政協議会の開催
昭和63年 2月16日	○環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令第2項の規定に基づき、嘉手納飛行場及び普天間飛行場周辺地域について、航空機騒音に係る環境基準に係る地域の類型あてはめの設定（沖縄県告示第107号）
同年 3月25日	○環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令第1項の規定により、源河川の公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定（沖縄県告示第269号）
同年 6月9日	○沖縄県公害対策審議会委員（15名）発令
同年 7月15日	○水質汚濁防止法第3条第3項の規定に基づく排水基準を定める条例の一部改正（沖縄県条例第24号）（源河川水域に係る上乗せ排水の基準の設定）
同年 8月16日	○「新石垣空港建設に係る埋立事業環境影響評価準備書」に対する知事意見公表
同年 10月4日	○環境管理計画策定に係る意見を求める為、沖縄県環境管理計画基本構想懇談会を設置
平成元年 2月10日	○沖縄県環境管理計画基本構想懇談会委員（15名）委嘱
同年 3月28日	○公害対策基本法第9条第2項及び環境基準に係る水質及び地域の指定権限の委任に関する政令第2項の規定により、騒音に係る環境基準の地域類型の指定（沖縄県告示第274号）（那覇市及び浦添市）
同年 4月8日	○沖縄県公害審査委員会（9名）発令
同年 4月25日	○環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令第1項の規定により、平南川、大保川の公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域類型指定（沖縄県告示第368号）
同年 10月18日	○水質汚濁防止法第3条第3項の規定に基づく排水基準を定める条例の一部改正（沖縄県条例第31号）（平南川、大保川水域に係る上乗せ排水基準の設定）

年 月 日	事 項
平成元年12月15日	○悪臭防止法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定に係る告示の一部改正（沖縄県告示第883号）、平成2年1月15日施行 ○騒音規制法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定に係る告示の一部改正（沖縄県告示第884号）、平成2年1月15日施行 ○振動規制法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定に係る告示の一部改正（沖縄県告示第885号）、平成2年1月15日施行
平成2年1月16日	○環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令第1項の規定により、宮良川、名蔵川の公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域類型指定（沖縄県告示第51号）
同年 2月2日	○沖縄県部内協議機関設置規程の一部を改正、沖縄県環境管理計画策定連絡協議会を設置（同日発足）
同年 3月15日	○沖縄県環境保全基金条例（沖縄県条例第2号）の制定、同日施行、同年3月30日当該基金（4億円）造成
同年 3月23日	○環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令第2項の規定により、騒音に係る環境基準の地域類型指定（沖縄県告示第329号）（沖縄市、宜野湾市、具志川市、石川市及び糸満市）
平成3年3月20日	○沖縄県公害対策審議会委員（15名）委嘱
同年 3月27日	○地域環境センター開所 ○環境アドバイザー（1名）及び地域環境保全活動推進員（10名）委嘱
平成4年1月14日	○「中城湾港公有水面埋立事業に係る環境影響評価準備書」に対する知事意見公表
同年 2月4日	○環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令第2項の規定により、騒音に係る環境基準の地域類型指定（沖縄県告示第120号）（名護市、平良市、石垣市、南風原町、佐敷町、東風平町、与那原町、西原町、豊見城村及び読谷村）
同年 8月4日	○沖縄県公害審査会委員（10名）発令
同年 8月18日	○沖縄県環境影響評価規程告示、平成5年2月1日施行
同年 9月22日	○水質汚濁防止法第14条の6第1項の規定により生活排水対策重点地域の指定（沖縄県告示第768号） 国場川流域生活排水対策重点地域 那覇市、南風原町、東風平町、豊見城村及び大里村の全域（下水道処理区域を除く） 天願川流域生活排水対策重点地域 具志川市の全域（下水道処理区域を除く）
同年 10月12日	○沖縄県環境影響評価規程実施要領策定
平成5年1月29日	○沖縄県環境影響評価技術指針策定
平成5年3月31日	○沖縄県環境管理計画基本構想策定
同年 4月1日	○公害対策課が環境保全課に、環境衛生課が生活衛生課に改組
平成6年3月31日	○沖縄県環境管理計画策定
同年 4月1日	○公害衛生研究所が衛生環境研究所に改組
同年 7月22日	○沖縄県公害対策審議会条例及び沖縄県公害防止条例の一部を改正する条例制定により、公害対策審議会が環境審議会へ改称、同年8月1日施行
同年 10月20日	○沖縄県赤土等流出防止条例（沖縄県条例第36号）制定 ○沖縄県行政組織規則の一部を改正する規則（沖縄県規制第56号）の公布（第50条第16号、第241号第1号表中の公害対策審議会を環境審議会へ改称）
平成7年8月4日	○沖縄県公害審査会委員（15名）発令
同年 10月9日	○沖縄県赤土等流出防止条例施行規則（沖縄県規則第64号）制定
同年 10月15日	○沖縄県赤土等流出防止条例施行

年 月 日	事 項
平成8年2月23日	○水質汚濁防止法第14条の6第1項の規定により生活排水対策重点地域の指定（沖縄県告示第169号） 糸満市 糸満市の全域（下水道処理区域を除く）
同年 2月29日	○沖縄県環境審議会委員（16名）発令
同年 4月1日	○環境保全課が環境保全室へ改組
平成9年3月25日	○水質汚濁防止法第14条の6第1項の規定により生活排水対策重点地域の指定（沖縄県告示第272号） 牧港川・宇地泊川流域生活排水対策重点地域 浦添市、宜野湾市、西原町及び中城村の全域（下水道処理区域を除く）
平成10年2月27日	○水質汚濁防止法第14条の7第1項の規定により生活排水対策重点地域の指定（沖縄県告示第160号） 比謝川流域生活排水対策重点地域 沖縄市、嘉手納町及び読谷村の全域（下水道処理区域を除く） 雄樋川流域生活排水対策重点地域 東風平町、大里村、具志頭村及び玉城村の全域（下水道処理区域を除く）
同年4月1日	○環境保健部が福祉保健部と文化環境部へ組織再編され、福祉保健部には薬務衛生課、文化環境部には環境保全室、自然保護課及び廃棄物対策課を設置
平成11年5月27日	○沖縄県環境率先実行計画策定
平成12年3月31日	○沖縄県環境基本条例制定
同年12月27日	○沖縄県環境影響評価条例制定
平成13年4月1日	○環境保全室が環境政策課と環境保全課に、廃棄物対策課が環境整備課に改組
同年7月10日	○沖縄県環境影響評価審査会委員（13名）委嘱
同年11月1日	○沖縄県環境影響評価条例全面施行
平成14年3月30日	○ちゅら島環境美化条例（沖縄県条例第13号）公布
同年7月1日	○ちゅら島環境美化条例施行（但し、第8条、第15条及び第16条（罰則に係る規定）を除く。）
同年8月24日	○復帰30周年記念事業「ちゅら島うちなー環境フェア」の開催、入場者数37,000人 県内のイベントで初めてゴミの分別を実施
同年10月24日	○おきなわアジェンダ21県民会議設立
平成15年1月1日	○沖縄県環境保全実施計画策定（沖縄振興推進計画の分野別計画）
同年4月1日	○ちゅら島環境美化条例全面施行
同年8月1日	○沖縄県環境基本計画策定
同年11月17日	○沖縄県地球温暖化対策地域推進計画策定
平成16年7月21日	○沖縄県地球温暖化防止活動推進センター指定
平成17年2月16日	○沖縄県環境影響評価審査会委員（13名）委嘱
同年2月25日	○沖縄県地球温暖化防止活動推進員（35名）委嘱
同年7月26日	○本庁行政棟においてISO14001を認証取得
同年10月26日	○沖縄県産業廃棄物税条例（沖縄県条例第37号）公布
平成18年3月3日	○沖縄県産業廃棄物税基金条例（沖縄県条例第54号）公布
同年3月29日	○沖縄県産業廃棄物税条例施行規則（沖縄県規則第5号）公布
同年4月1日	○沖縄県環境教育推進方針策定
平成19年8月4日	○産業廃棄物税導入
同年9月5日	○沖縄県公害審査会委員（12名）委嘱
同年9月14日	○沖縄県環境影響評価審査会委員（13名）委嘱 ○沖縄県環境審議会委員（15名）委嘱

年 月 日	事 項
平成20年 3月26日	○第3次沖縄県環境保全実施計画策定
同年12月26日	○公害防止条例の全部を改正し、沖縄県生活環境保全条例（沖縄県条例第43号）公布
平成21年 9月30日	○沖縄県公害防止条例施行規則の全部を改正し、沖縄県生活環境保全条例施行規則（沖縄県規則第31号）公布
同年10月 1日	○沖縄県生活環境保全条例及び施行規則施行
平成22年 2月 1日	○沖縄県環境審議会委員（16名）委嘱
同年 8月 4日	○沖縄県公害審査会委員（12名）委嘱
同年 9月10日	○沖縄県環境影響評価審査会委員（13名）委嘱
平成23年 3月25日	○騒音規制法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定に係る告示の一部改正（沖縄県告示第181号）、平成23年 7月 1日施行
	○振動規制法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定に係る告示の一部改正（沖縄県告示第182号）、平成23年 7月 1日施行
	○騒音に係る環境基準の地域類型の指定の一部改正（沖縄県告示第183号）、平成23年 7月 1日施行
	○悪臭防止法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定に係る告示の一部改正（沖縄県告示第184号）、平成23年 7月 1日施行
平成23年 3月28日	○沖縄県地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定
同年 4月 1日	○文化環境部から環境生活部へ組織再編
平成24年10月 1日	○沖縄県環境審議会委員（16名）委嘱
平成25年 3月28日	○第2次沖縄県環境基本計画策定
同年 3月29日	○生物多様性おきなわ戦略策定
同年 3月30日	○沖縄県環境影響評価条例の一部を改正する条例（沖縄県条例第15号）、平成26年 2月 1日施行。主な改正点は、配慮書手続、風力発電所の追加等
同年 4月 1日	○那覇市が中核市に移行したことに伴い、沖縄県中央保健所が廃止され、那覇市保健所が設置
同年 8月 5日	○沖縄県公害審査会委員（12名）委嘱
同年 9月 2日	○沖縄県赤土等流出防止対策基本計画策定
同年 9月12日	○沖縄県環境影響評価審査会委員（13名）委嘱
同年12月27日	○沖縄県環境影響評価条例施行規則の一部を改正する規則（沖縄県規則第96号）、平成26年 2月 1日施行
同年12月27日	○沖縄県環境影響評価技術指針の一部を改正する告示（沖縄県告示第665号）、平成26年 2月 1日施行
平成26年 3月 5日	○慶良間諸島及びその周辺海域が慶良間諸島国立公園として指定
同年 4月 1日	○環境生活部が環境部へ組織再編
	○基地環境特別対策室を環境政策課内に設置
	○自然保護課が自然保護・緑化推進課へ組織再編
同年 6月27日	○沖縄県環境教育等推進行動計画策定
同年 8月28日	○九州ブロック環境担当部局長会議の沖縄開催
同年12月25日	○沖縄県環境審議会委員（16名）委嘱
同年12月26日	○沖縄県再生可能エネルギー等導入推進基金条例制定
平成27年 3月	○沖縄県自然環境再生指針策定
同年 3月26日	○沖縄県赤土等流出防止対策行動計画策定
同年 5月27日	○沖縄県自然環境保全審議会委員（15名）委嘱

年 月 日	事 項
平成27年 7月17日	○沖縄県生活環境保全条例の一部を改正する条例（沖縄県条例第38号）及び同施行規則の一部を改正する規則（沖縄県規則第55号）、平成28年 4月 1日施行。主な改正点は、非飛散性石綿の規制の追加
同年11月 1日	○公有水面埋立事業における埋立用材に係る外来生物の侵入防止に関する条例（平成27年沖縄県条例第39号）施行
平成28年 4月 1日	○環境政策課及び自然保護・緑化推進課を環境政策課、自然保護課及び環境再生課へ組織再編
同年 8月 9日	○沖縄県公害審査会委員（11名）委嘱
同年 9月 2日	○沖縄県、米国ハワイ州、韓国済州特別自治道間において「グリーンアイランドパートナーシップ設立に関する合意書」に署名
同年 9月15日	○国頭村、大宜味村、東村の一部及びその周辺海域がやんばる国立公園として指定
同年10月27日	○沖縄県環境影響評価審査会委員（13名）委嘱
平成29年 2月 8日	○沖縄県環境審議会委員（16名）委嘱
同年 3月	○沖縄県米軍基地環境調査ガイドライン策定

2 大気関係

(1) 大気汚染常時監視局・測定結果一覧

ア 二酸化硫黄

二酸化硫黄の測定結果

(平成28年度)

測定局名	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	1時間値が0.1ppmを越えた時間数		日平均値が0.04ppmを越えた日数、その割合及び2日以上連続したことの有無			日平均値の2%除外値	長期的評価による環境基準の適否	
				(時間)	(%)	(日)	(%)	(有・無)			(ppm)
一般環境大気測定局	那 覇	8,613	0.000	0.025	0	0	0	0	無	0.001	○
	西 原	8,588	0.001	0.018	0	0	0	0	無	0.002	○
	与那城	8,597	0.000	0.021	0	0	0	0	無	0.001	○
	名 護	8,037	0.001	0.020	0	0	0	0	無	0.002	○
	沖 縄	8,499	0.001	0.015	0	0	0	0	無	0.001	○
	石 垣	8,430	0.001	0.046	0	0	0	0	無	0.005	○

(注) 1. 長期的評価は測定時間6,000時間以上の測定局が対象となるため、6,000時間未満の測定局の評価は「-」と表示している。

二酸化硫黄の経年変化

(単位:ppm)

測定局名	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		
	年平均値	2%除外値	年平均値	2%除外値	年平均値	2%除外値	年平均値	2%除外値	年平均値	2%除外値	
一般環境大気測定局	那 覇	0.002	0.012	0.002	0.007	0.001	0.002	0.000	0.002	0.000	0.001
	浦 添										
	西 原	0.002	0.006	(0.004)	(0.007)	(0.001)	(0.002)	0.001	0.002	0.001	0.002
	与那城	0.002	0.005	0.002	0.016	0.000	0.002	0.000	0.001	0.000	0.001
	金 武										
	名 護	0.000	0.001	0.000	0.001	0.001	0.003	0.000	0.001	0.001	0.002
	沖 縄	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000	0.001	0.001	0.002	0.001	0.001
	糸 満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	平 良	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石 垣	0.003	0.009	0.001	0.003	0.002	0.006	0.000	0.002	0.001	0.005	

(注) 1. ()は測定時間が6,000時間未満を、-は欠測を示す。
 2. 浦添測定局は、平成19年3月に廃止。
 3. 西原測定局は、平成20年4月に西原町役場から西原町社会福祉センターに移設。
 4. 金武測定局は、平成19年9月に廃止。
 5. 石垣測定局は、平成20年9月に石垣市役所から八重山福祉保健所に移設。

イ 二酸化窒素

二酸化窒素の測定結果

(平成28年度)

測定局名	有効測定日数 (日)	測定時間 (時間)	年平均値 (ppm)	1時間値の最高値 (ppm)	日平均値が0.06ppmを越えた日数とその割合		日平均値が0.04ppm以上、0.06ppm以下の日数とその割合		日平均値の年間98%値 (ppm)	長期的評価による環境基準の適否 (○・×)	
					(日)	(%)	(日)	(%)			
一般環境大気測定局	那覇	328	7,855	0.006	0.046	0	0	0	0	0.013	○
	西原	355	8,557	0.004	0.037	0	0	0	0	0.009	○
	与那城	356	8,584	0.001	0.024	0	0	0	0	0.003	○
	名護	290	7,078	0.003	0.035	0	0	0	0	0.007	○
	沖縄	359	8,579	0.004	0.051	0	0	0	0	0.010	○
	平良	349	8,464	0.002	0.047	0	0	0	0	0.008	○
	石垣	348	8,419	0.002	0.048	0	0	0	0	0.007	○
自排局	牧港	206	4,937	0.010	0.069	0	0	0	0	0.022	—
	松尾	358	8,577	0.016	0.074	0	0	2	0.6	0.035	○

(注) 1. 長期的評価は測定時間6,000時間以上の測定局が対象となるため、6,000時間未満の測定局の評価は「—」と表示している。

二酸化窒素の経年変化

(単位: ppm)

測定局名	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		
	年平均値	年間98%値	年平均値	年間98%値	年平均値	年間98%値	年平均値	年間98%値	年平均値	年間98%値	
一般環境大気測定局	那覇	0.003	0.008	0.008	0.019	0.008	0.015	0.007	0.013	0.006	0.013
	浦添										
	西原	0.006	0.016	0.005	0.013	0.005	0.011	0.004	0.011	0.004	0.009
	与那城	0.001	0.003	0.001	0.003	0.001	0.003	0.001	0.002	0.001	0.003
	金武										
	名護	(0.003)	(0.007)	0.003	0.007	0.003	0.008	0.003	0.008	0.003	0.007
	沖縄	0.007	0.014	0.005	0.016	0.005	0.012	0.005	0.010	0.004	0.010
	糸満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	平良	0.002	0.010	0.002	0.014	0.003	0.011	0.002	0.011	0.002	0.008
	石垣					(0.003)	(0.014)	0.002	0.006	0.002	0.007
自動車排出局	知花										
	与儀										
	牧港	(0.009)	(0.023)	(0.009)	(0.022)	—	—	(0.011)	(0.025)	(0.010)	(0.022)
	松尾	0.018	0.038	(0.018)	(0.038)	0.020	0.041	0.018	0.038	0.016	0.035

- (注) 1. ()は測定時間が6,000時間未満を、—は欠測を示す。
 2. 浦添測定局は、平成19年3月に廃止。
 3. 西原測定局は、平成20年4月に西原町役場から西原町社会福祉センターに移設。
 4. 金武測定局は、平成19年9月に廃止。
 5. 石垣測定局は、平成20年9月に石垣市役所から八重山福祉保健所に移設。
 6. 知花測定局、与儀測定局は、平成20年4月に廃止

ウ 浮遊粒子状物質

浮遊粒子状物質の測定結果

(平成28年度)

測定局名	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	1時間値が0.20mg/m ³ を越えた時間数		日平均値が0.10mg/m ³ を越えた日数、その割合及び2日以上連続したことの有無			日平均値の2%除外値	長期的評価による環境基準の適否	
				(時間)	(%)	(日)	(%)	(有・無)			
一般環境大気測定局	那 覇	8,655	0.021	0.078	0	0	0	0	無	0.043	○
	西 原	8,632	0.017	0.084	0	0	0	0	無	0.037	○
	与那城	8,333	0.017	0.070	0	0	0	0	無	0.037	○
	名 護	7,985	0.014	0.089	0	0	0	0	無	0.030	○
	沖 縄	8,653	0.017	0.060	0	0	0	0	無	0.036	○
	平 良	8,508	0.015	0.132	0	0	0	0	無	0.035	○
	石 垣	8,399	0.018	0.128	0	0	0	0	無	0.034	○
自排局	牧 港	6,528	0.015	0.066	0	0	0	0	無	0.031	○

(注) 1. 長期的評価は測定時間6,000時間以上の測定局が対象となるため、6,000時間未満の測定局の評価は「-」と表示している。

浮遊粒子状物質の経年変化

(単位:mg/m³)

測定局名	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		
	年平均値	2%除外値	年平均値	2%除外値	年平均値	2%除外値	年平均値	2%除外値	年平均値	2%除外値	
一般環境大気測定局	那 覇	-	-	0.020	0.050	0.022	0.051	0.022	0.047	0.021	0.043
	浦 添	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	西 原	0.014	0.038	0.013	0.028	(0.017)	(0.040)	0.018	0.036	0.017	0.037
	与那城	-	-	0.019	0.040	0.020	0.048	0.017	0.036	0.017	0.037
	金 武	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	名 護	0.020	0.049	0.018	0.039	0.019	0.043	0.017	0.032	0.014	0.030
	沖 縄	0.018	0.043	0.018	0.037	0.019	0.046	0.018	0.038	0.017	0.036
	系 満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	平 良	0.027	0.051	(0.023)	(0.043)	0.018	0.047	0.016	0.035	0.015	0.035
石 垣	-	-	0.022	0.044	0.021	0.042	0.019	0.033	0.018	0.034	
局ガ排出自動車測定	知 花	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	与 儀	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	牧 港	0.018	0.046	(0.017)	(0.034)	-	-	-	-	0.015	0.031

- (注) 1. ()は測定時間が6,000時間未満を、-は欠測を示す。
 2. 浦添測定局は、平成19年3月に廃止。
 3. 西原測定局は、平成20年4月に西原町役場から西原町社会福祉センターに移設。
 4. 金武測定局は、平成19年9月に廃止。
 5. 石垣測定局は、平成20年9月に石垣市役所から八重山福祉保健所に移設。
 6. 知花測定局、与儀測定局は、平成20年4月に廃止

エ 一酸化炭素

一酸化炭素の測定結果

(平成28年度)

測定局名	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	1時間値の8時間平均値が20ppmを越えた回数とその割合		日平均値が10ppmを越えた日数、その割合及び2日以上連続したことの有無			日平均値の2%除外値	長期的評価による環境基準の適否
	(時間)	(ppm)	(ppm)	(時間)	(%)	(日)	(%)	(有・無)	(ppm)	(○・×)
那 覇	7,932	0.2	1.5	0	0	0	0	無	0.5	○
松 尾	5,557	0.4	1.9	0	0	0	0	無	0.8	-

- (注) 1. 那覇測定局は一般環境大気測定局。松尾測定局は自動車排出ガス測定局。
 2. 長期的評価は測定時間6,000時間以上の測定局が対象となるため、6,000時間未満の測定局の評価は「-」と表示している。

一酸化炭素の経年変化

(単位:ppm)

測定局名	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	年平均値	2%除外値	年平均値	2%除外値	年平均値	2%除外値	年平均値	2%除外値	年平均値	2%除外値
那 覇	0.4	0.7	0.3	0.6	0.4	0.7	0.2	0.5	0.2	0.5
知 花	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
与 儀	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
牧 港	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
松 尾	0.6	1.1	0.5	1.0	0.5	0.9	0.4	0.9	(0.4)	(0.8)

- (注) 1. ()は測定時間が6,000時間未満を、-は欠測を示す。
 2. 知花測定局、与儀測定局は、平成20年4月に廃止。

オ 光化学オキシダント

光化学オキシダントの測定結果

(平成28年度)

測定局名	昼間の測定 日数と時間		昼間の1 時間値の 年平均値	昼間の1 時間値の 最高値	昼間の1時間値が0.06ppm を越えた日数と時間		昼間の1時間値が0.12ppm を越えた日数と時間		環境基準の 適否
	(日数)	(時間)	(ppm)	(ppm)	(日数)	(時間)	(日数)	(時間)	(○・×)
那 覇	362	5,392	0.029	0.085	16	94	0	0	×
与那城	362	5,399	0.031	0.088	20	115	0	0	×
名 護	319	4,707	0.030	0.079	16	104	0	0	×
沖 縄	359	5,308	0.031	0.090	22	129	0	0	×
糸 満	362	5,400	0.032	0.088	30	178	0	0	×
平 良	349	5,123	0.031	0.090	24	143	0	0	×
石 垣	271	4,016	0.032	0.084	16	86	0	0	×

光化学オキシダントの経年変化

(単位:ppm)

測定局名	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	年平均値	昼間の1時 間値の最高 値	年平均値	昼間の1時 間値の最高 値	年平均値	昼間の1時 間値の最高 値	年平均値	昼間の1時 間値の最高 値	年平均値	昼間の1時 間値の最高 値
那 覇	0.029	0.076	0.026	0.074	0.030	0.089	0.030	0.088	0.029	0.085
与那城	0.036	0.076	0.028	0.087	0.035	0.085	0.034	0.084	0.031	0.088
名 護	0.035	0.087	0.031	0.073	0.035	0.094	0.031	0.078	0.030	0.079
沖 縄	0.037	0.085	0.029	0.087	0.031	0.094	0.035	0.096	0.031	0.090
糸 満	0.027	0.075	0.030	0.071	0.036	0.101	0.036	0.096	0.032	0.088
平 良	0.031	0.077	0.026	0.066	0.028	0.080	0.031	0.076	0.031	0.090
石 垣	0.033	0.084	0.025	0.072	0.027	0.071	0.029	0.082	0.032	0.084

- (注) 1. 名護測定局、平良測定局、石垣測定局は、平成21年度から測定開始。
2. 「昼間」とは5時から20時までの時間帯をいう。

(3) ばい煙・粉じん発生施設設置状況（県条例）

平成29年3月末現在

施設種別	施設名	設置場所		設置年月		設置面積		設置容量		設置台数		設置台数		設置台数		設置台数		設置台数		計			
		市	町	市	町	市	町	市	町	市	町	市	町	市	町	市	町	市	町				
ばい煙発生施設	ボイラ	16	4	21	6	21	69	8	6	17	13	4	3	1	6	5	1	1	6	3	1	256	
	溶剤	23	6	22	6	28	89	10	9	26	22	5	3	1	3	7	7	1	4	6	8	339	
	焼落																					3	
	焼落																					6	
	焼落																					4	
	焼落																					5	
	焼落																					4	
	焼落																					7	
	焼落																					28	
	焼落																					29	
粉じん発生施設	焼落	17	8	23	7	22	72	12	9	21	18	4	0	3	1	6	5	0	1	0	0	295	
	焼落	24	10	24	7	29	95	15	12	34	26	5	0	3	1	3	7	0	1	0	0	386	
	焼落	6	7	7	1	10	1	4	15	8	6	1	1	1	1	2	2	2	2	4	4	82	
	焼落	8	9	8	2	11	1	4	19	11	6	2	1	1	1	3	3	3	3	4	4	103	
	焼落	5	9	6	1	1	5	9	14	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	67	
	焼落	5	23	10	1	1	3	33	37	7	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	153	
	焼落	2	1	1	1	1	1	1	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	11
	焼落	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	21
	焼落	2	8	5	4	8	10	4	8	10	4	8	10	4	8	10	4	8	10	4	8	10	46
	焼落	2	13	8	4	9	15	4	9	15	4	9	15	4	9	15	4	9	15	4	9	15	63
焼落	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	26		
焼落	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	44		
焼落	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	21		
焼落	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	29		
焼落	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4		
焼落	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	8		
焼落	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2		
焼落	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	12		
焼落	13	32	20	1	4	10	2	15	42	47	17	2	0	0	0	2	3	0	1	0	259		
焼落	15	60	40	2	6	11	2	14	76	85	22	3	0	0	0	4	4	0	1	0	433		

※ 平成21年10月1日に沖縄県公害防止条例は沖縄県生活環境保全条例に改正された。

3 水質関係

(1) 健康項目測定地点数（河川）

番号	河川名	調査地点数
1	比謝川	3
2	国場川	3
3	満名川	2
4	福地川	1
5	天願川	3
6	漢那川	1
7	羽地大川	2
8	我部祖河川	4
9	新川川	2
10	安波川	2
11	普久川	2
12	汀間川	2
13	久茂地川	2
14	安里川	2

番号	河川名	調査地点数
15	安謝川	2
16	報得川	1
17	牧港川	2
18	辺野喜川	2
19	饒波川	2
20	源河川	1
21	平南川	1
22	大保川	2
23	宮良川	1
24	名蔵川	1
25	雄樋川	2
26	億首川	1
合計		49

(2) 健康項目測定結果（河川）

測定項目	調査地点数	環境基準超過地点数
カドミウム	42	0
全シアン	42	0
鉛	42	0
六価クロム	42	0
砒素	42	0
総水銀	42	0
アルキル水銀	42	0
P C B	42	0
ジクロロメタン	42	0
四塩化炭素	42	0
1,2-ジクロロエタン	42	0
1,1-ジクロロエチレン	42	0
シス-1,2-ジクロロエチレン	42	0
1,1,1-トリクロロエタン	42	0

測定項目	調査地点数	環境基準超過地点数
1,1,2-トリクロロエタン	42	0
トリクロロエチレン	42	0
テトラクロロエチレン	42	0
1,3-ジクロロプロペン	42	0
チウラム	42	0
シマジン	42	0
チオベンカルブ	42	0
ベンゼン	42	0
セレン	42	0
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	42	0
ふっ素	39	0
ほう素	39	0
1,4-ジオキサン	42	0
合計	1,127	0

(3) 河川水質の環境基準達成状況

河川 No	水域 No	環境基準 類型指定 水域名	類 型	基 準 値	環 境 基 準 点												
						H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28		
1	1	比謝川(1)	B	3	比謝川ポンプ場	1.3	1.1	1.1	0.8	1.1	1.3	0.8	0.9	1.1	0.9		
	2	比謝川(2)	C	5	トニー橋	1.6	1.5	1.1	1.4	1.6	1.8						
	3	比謝川(3)	C	5	与那原川合流点	1.9	2.1	2.4	1.6	2.0	2.5	1.8	2.2	2.2	2.1		
2	4	国場川(1)	C	5	那覇大橋	2.2	2.0	1.4	1.2	1.5	1.9	2.0	2.1	2.4	2.0		
	5	国場川(2)	E	10	真玉橋	5.2	5.7	3.5	4.7	2.8	3.8	5.2	3.5	4.2	3.4		
3	6	満名川(1)	A	2	渡久地橋	1.1	0.6	0.9	1.3	0.7	0.8	0.9	0.5	1.6	1.7		
	7	満名川(2)	A	2	伊野波川合流点	0.6	0.8	1.4	1.1	0.7	0.6	0.7	0.7	1.6	1.1		
4	8	福地川	A	2	福地ダム	<0.5	0.5	<0.5	<0.5	0.6	0.5	0.7	0.7	0.6	0.6		
5	9	天願川(1)	B	3	河口	1.1	1.1	1.1	1.2	0.6	0.9	1.2	1.1	1.3	1.5		
	10	天願川(2)	B	3	合流点下流100m	2.5	2.1	1.9	1.9	2.6	2.3	2.8	3.6	5.2	2.4		
6	11	漢那川	A	2	漢那ダム	1.0	<0.5	0.8	1.1	0.7	0.5	1.2	0.6	0.6	<0.5		
7	12	羽地大川	A	2	名護市取水場	1.4	1.1	0.7	1.0	0.9	1.0	0.7	0.6	0.8	1.0		
8	13	我部祖河川(1)	A	2	石橋	3.4	2.8	3.1	2.2	1.4	1.6	2.4	2.9	3.6	3.5		
	14	我部祖河川(2)	A	2	奈佐田川合流点～上流100m	2.3	1.4	1.9	1.2	1.2	1.3	1.1	1.1	1.6	1.0		
	15	我部祖河川(3)	A	2	奈佐田川合流点～支川100m	<0.5	0.8	1.4	0.9	0.6	<0.5	0.5	0.8	1.1	1.1		
9	16	新川川(1)	A	2	下流の高江橋	<0.5	<0.5	0.7	<0.5	0.6	0.5	<0.5	0.6	<0.5	0.6		
	17	新川川(2)	A	2	新川ダム	0.7	1.2	1.3	0.9	1.1	0.8	1.7	1.0	0.9	1.1		
10	18	安波川(1)	A	2	安波大橋	<0.5	<0.5	0.9	<0.5	0.6	0.7	<0.5	0.6	<0.5	<0.5		
	19	安波川(2)	A	2	安波小中校後方	<0.5	<0.5	0.7	<0.5	1.0	0.6	<0.5	0.5	0.5	<0.5		
11	20	普久川(1)	A	2	御拝橋	<0.5	<0.5	0.6	<0.5	0.6	<0.5	<0.5	0.5	0.8	0.5		
	21	普久川(2)	A	2	御拝橋上流420mの沢	0.5	0.9	<0.5	<0.5	0.8	<0.5	<0.5	0.5	<0.5	<0.5		
12	22	汀間川(1)	A	2	嘉手苜橋から上流200m	1.5	0.9	0.8	0.8	0.7	0.8	0.8	0.8	2.8	2.7		
	23	汀間川(2)	A	2	三原小中学校前堰堤上流50m	0.8	1.1	1.1	1.4	0.8	0.9	0.6	0.7	0.9	1.9		
13	24	久茂地川	C	5	泉崎橋	2.7	1.6	1.4	1.4	1.1	1.9	1.4	1.2	0.6	1.1		
14	25	安里川	D	8	蔡温橋下流200mの橋	3.1	3.0	1.6	2.6	1.4	2.3	3.1	1.4	1.0	1.2		
15	26	安謝川	C	5	安謝橋	2.1	1.6	1.9	2.7	1.6	2.5	1.1	1.0	1.0	1.6		
16	27	報得川	E	10	水位計設置点	5.3	8.6	4.8	4.8	3.7	6.0	4.9	4.5	4.3	4.4		
17	28	牧港川	C	5	境橋上流50m(旧牧港取水場跡)	7.0	5.4	3.6	2.4	1.5	1.7	2.0	1.5	0.8	1.7		
					大謝名橋上流200m(旧宇地泊川取水場跡)	2.8	1.7	1.2	1.7	1.1	1.6	1.5	1.3	1.0	1.1		
18	29	辺野喜川	A	2	辺野喜橋	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	0.6	0.6	<0.5	0.6	<0.5	0.5		
19	30	饒波川	D	8	石火矢橋	4.1	2.7	2.8	3.2	3.8	3.2	2.7	3.7	4.3	2.3		
20	31	源河川	A	2	取水場	0.6	<0.5	0.8	1.0	0.6	<0.5	<0.5	0.6	1.5	1.6		
21	32	平南川	A	2	アザガ橋下流30m	0.7	0.7	1.0	1.1	0.8	1.2	1.0	<0.5	1.1	1.6		
22	33	大保川	A	2	田港橋	1.0	0.7	1.5	1.1	1.3	0.9	1.3	0.9	1.7	1.2		
23	34	宮良川	A	2	平喜名橋	0.6	0.7	0.7	0.7	0.8	0.9	0.7	0.7	0.8	0.7		
24	35	名蔵川	A	2	石糖取水場前	0.9	0.7	0.7	0.7	0.5	0.6	0.7	0.7	0.7	1.0		
25	36	雄樋川	D	8	前川	2.5	2.7	1.8	2.8	5.5	2.7	1.7	1.5	2.0	3.6		
					石川橋	17	3.7	5.5	3.6	5.5	4.6	3.5	3.6	3.9	6.1		
環境基準未達成水域数						4	2	1	1	0	0	1	2	2	2		
環境基準類型指定水域数						36	36	36	36	36	36	36	35	35	35		
達成率%(環境基準達成水域数/指定水域数×100)						89	94	97	97	100	100	97	94	94	94		

* 太字かつ網掛けの地点は、環境基準未達成の地点です。

(4) 各河川の概況及び水質

ア 比謝川

比謝川は、沖縄島の中部に位置し、その源を沖縄市の緩やかな丘陵地帯に発し、沖縄市市街地を南北に貫流し、沖縄市美里地先においてカフンジャー川を合流した後、流れを西方に変え与那原川（二級河川）等の支川を合流しながら、国道58号付近で長田川と合流し、読谷村と嘉手納町の境界で東シナ海に注ぐ幹線流路延長21.8km（比謝川15.4km、与那原川6.4km）、流域面積50.9km²の沖縄島最大の二級河川です。

昭和48年度に、比謝橋下流の堰^{えんてい}堤からトニー橋までと長田川を水質環境基準のB類型（BOD 3 mg/L）、トニー橋から与那原川合流点までをC類型（BOD 5 mg/L）、与那原川合流点から上流とハンザ川の昭和橋までをD類型（BOD 8 mg/L）に指定しました。その後、上流域の水質が改善傾向にあったことから、平成15年度末に与那原川合流点から上流の類型を見直し、平成16年度以降はC類型としています。

環境基準点における水質の経年変化は、図1のとおりです。比謝川ポンプ場地点では平成13年度以降継続して環境基準を達成しています。トニー橋地点では平成8年度から継続して環境基準を達成しています。与那原川合流点地点では昭和63年度から継続して環境基準を達成しており、平成16年度にD類型からC類型に見直しましたが、その後も環境基準を達成しています。平成24年度に3水域の水域類型指定を2水域に改正し、それに伴って、平成25年度以降はトニー橋での測定を終了しています。

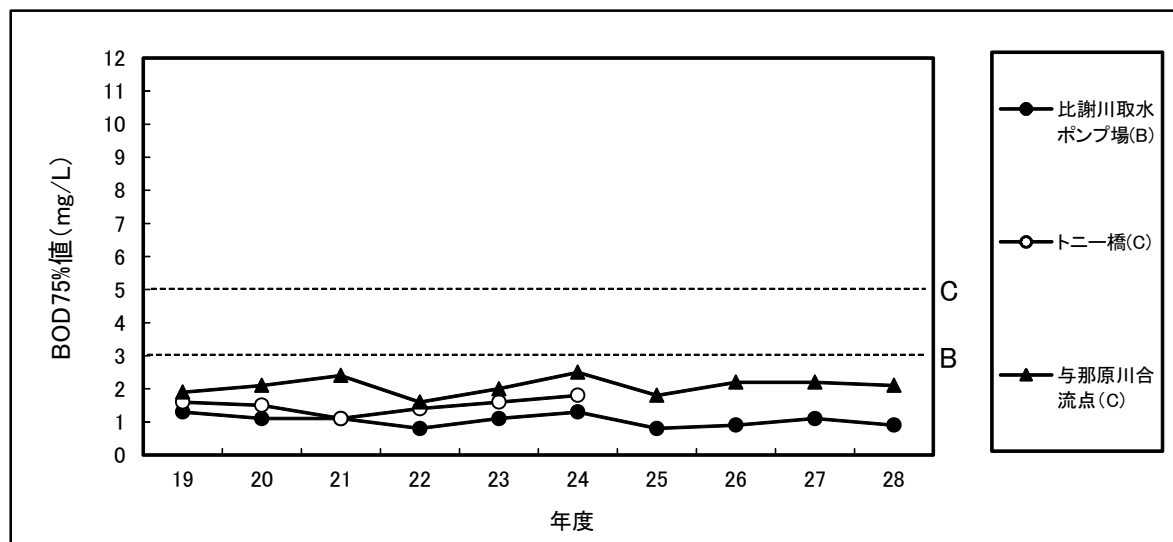


図1 比謝川の水質（BOD75%値）経年変化

イ 国場川

国場川は、与那原町と西原町の境界にある運玉森に源を発し、準用河川の宮平川、普通河川の宮城川と合流し、那覇市と南風原町の市街地を貫流したのち、2級河川の長堂川・饒波川と合流し、河口部で2級河川の久茂地川と合流後那覇港へ注ぐ、流域面積43.1km²、幹線

流路延長11.3kmの二級河川です。昭和48年度に明治橋から真玉橋をC類型（BOD 5 mg/L）、真玉橋から上流の一部をE類型（BOD 10mg/L）に指定しています。

環境基準点における水質の経年変化は、那覇大橋及び真玉橋の両地点で改善しており、那覇大橋では平成14年度以降は環境基準を達成し、改善傾向が見られます。真玉橋地点では平成12年度以降継続して環境基準を達成し、ここ数年は横ばいとなっています。

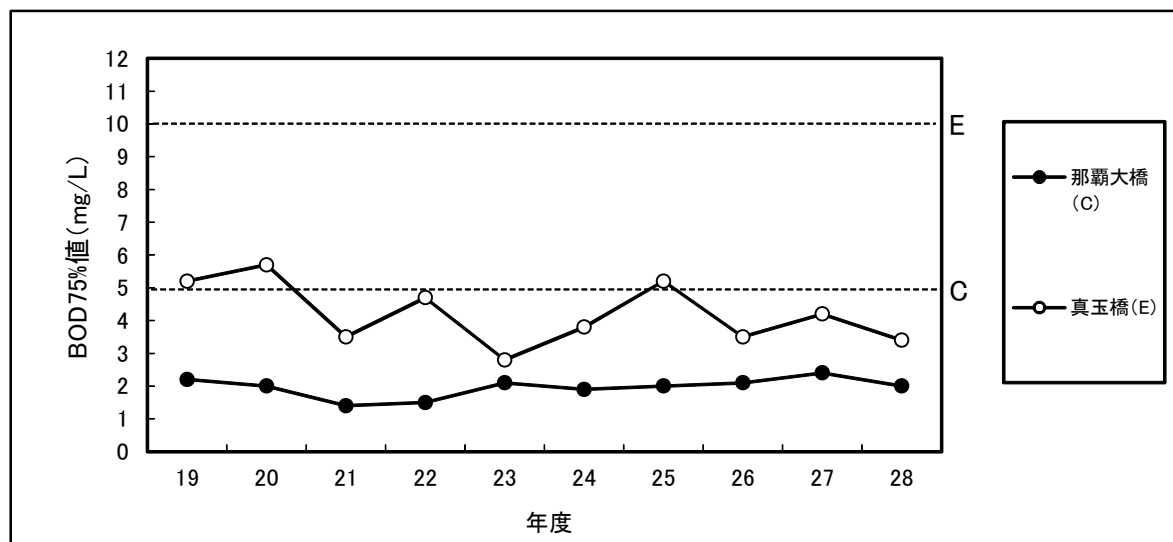


図2 国場川の水質（BOD75%値）経年変化

ウ 満名川

満名川は、沖縄島北部の本部町に位置し、その源を八重岳と伊豆味の山中に発し、普通河川の笹川、佐伊土間川、伊野波川（準用河川）、尻無川、ウナジャラ川の支川を合わせつつ、本部町の市街地を西に向かって流下し、東シナ海に注ぐ、流域面積12.1km²、幹線流路延長4.4kmの二級河川です。

昭和49年度に伊野波川合流点から渡久地橋までをB類型（BOD 3 mg/L）に、伊野波川合流点から上流をA類型（BOD 2 mg/L）に指定し、翌年度から適用しました。その後、水質が改善傾向にあったことから、平成16年度以降は伊野波川合流点から渡久地橋までの類型を見直し、B類型からA類型としています。

環境基準点における水質の経年変化は、伊野波川合流点地点で昭和58年度は未達成となりましたが、それ以外はすべて基準を達成しています。

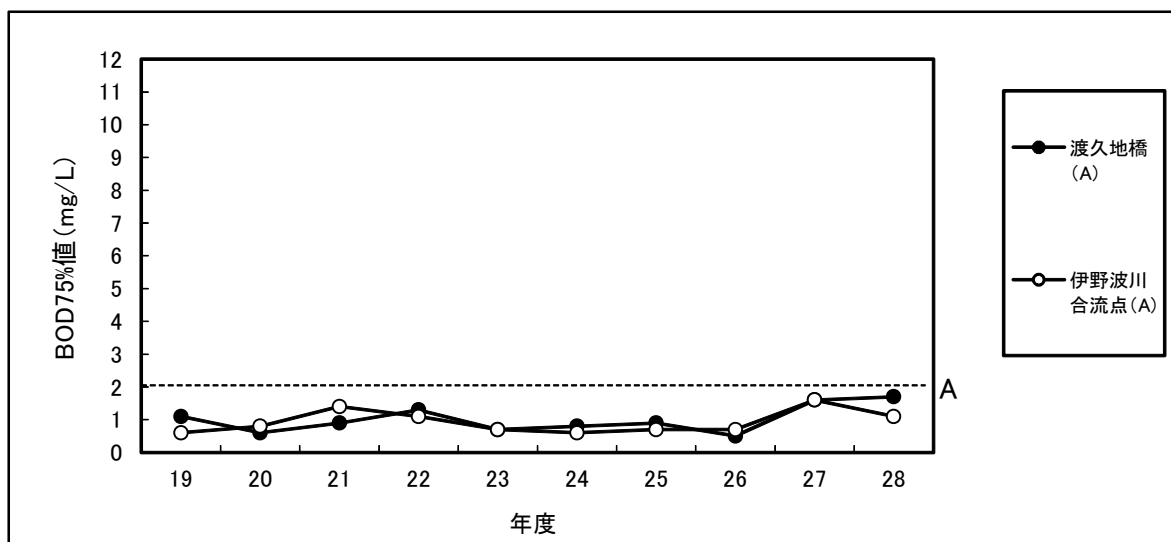


図3 満名川の水質（BOD75%値）経年変化

エ 天願川

天願川は、沖縄島中部のうるま市に位置し、その源を読谷山岳に発し、川崎川(二級河川)やヌーリ川(準用河川)等を合わせ、金武湾(太平洋)に注ぐ、流域面積31km²、幹川流路延長10.7kmの二級河川で、水道水源として取水されるなど利水上重要な河川です。

昭和50年度に企業局取水場から上流をB類型 (BOD 3 mg/L)、下流をC類型 (BOD 5 mg/L) に指定していましたが、その後、水質が改善傾向にあったことから、平成16年度以降は取水場から下流河口までの類型を見直し、B類型としています。

環境基準点における水質の経年変化は、図4のとおりです。河口地点では昭和62年度より継続して環境基準を達成しています。支流の川崎川との合流点下流地点では、平成19年度以降環境基準を達成していましたが、平成26及び27年度は未達成となっています。

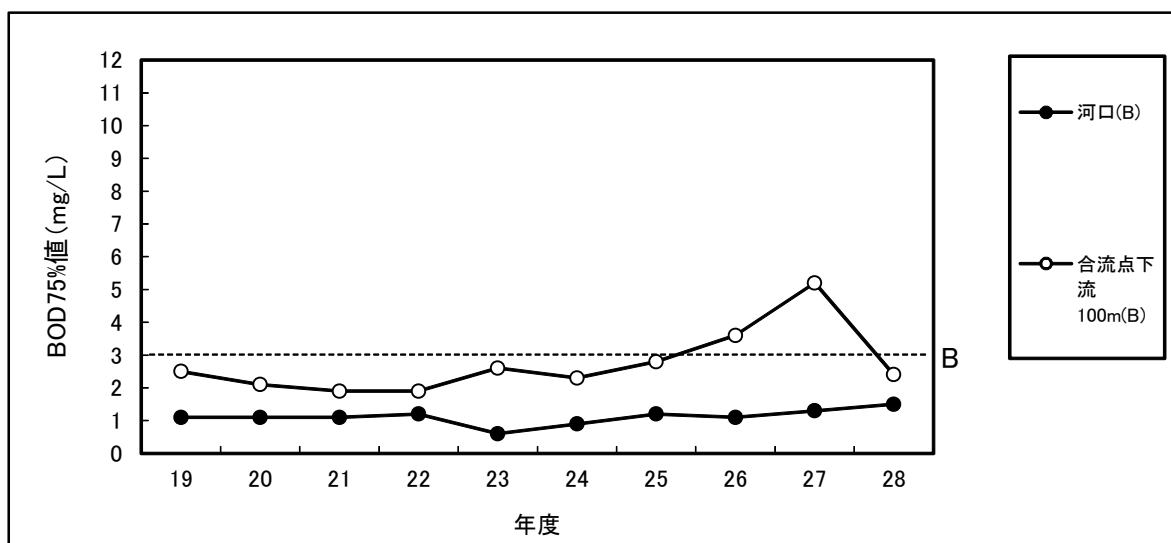


図4 天願川の水質（BOD75%値）経年変化

オ 我部祖河川

我部祖河川は、沖縄島北部の名護市に位置し、その源を名護岳(345.2m)に発し、北西に流下した後、喜知留川(普通河川)と合流し、平地に広がる畑の中を直線的に流れ、奈佐田川(普通河川)と合流した後は、流れを北東に転じ、河口部で蛇行して羽地内海に注ぐ、幹川流路延長6.1km、流域面積14.7km² の二級河川です。

昭和50年度に上流をA類型 (BOD 2mg/L)、中流をD類型 (BOD 8mg/L)、支流の奈佐田川をA類型に指定していましたが、その後、水質が改善傾向にあったことから、平成16年度以降は中流域の類型を見直し、A類型としています。

環境基準点における水質の経年変化は、図5のとおりです。支流の奈佐田川は平成4年度以降、環境基準を達成しています。我部祖河川中流(奈佐田川との合流点から上流)はD類型の環境基準は達成していましたが、平成16年度からA類型の基準を適用したところ、平成16、18及び19年度は環境基準を達成しませんでした。しかし、平成20年度以降は環境基準を達成しています。

上流地点の石橋(山田橋)地点では、昭和51年度の測定以降、平成8、23、24年度以外は環境基準を達成しておらず、平成27年度も未達成となっています。平成22年度に行われた汚濁負荷量調査によると、生活排水がその原因とされています。

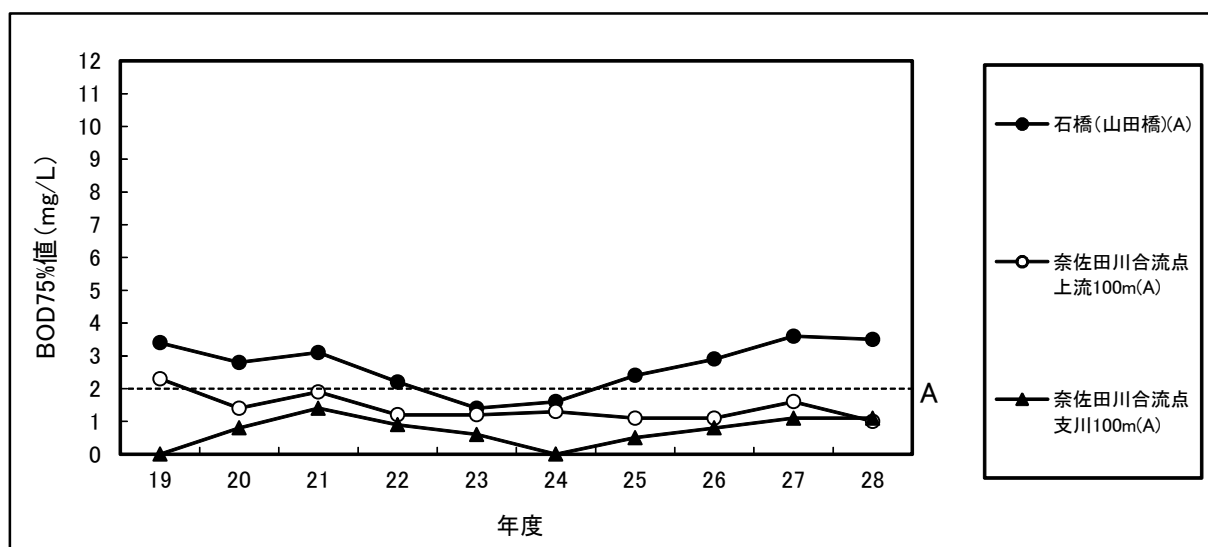


図5 我部祖河川の水質 (BOD75%値) 経年変化

カ 汀間川

汀間川は、沖縄島北部の名護市に位置し、東海岸の大浦湾に注ぐ流域面積12.7km²、指定延長4kmの河川です。昭和52年度に三原小中学校前堰堤から上流をA類型 (BOD 2mg/L)、下流をB類型 (BOD 3mg/L) に指定していましたが、その後、水質が改善傾向にあったことから、平成16年度以降は下流域の類型を見直し、A類型としています。環境基準点における水質の経年変化は、三原小中校前堰堤上流50mの橋では類型指定以降、昭和56年度以外は環境基準を達成しており、嘉手苜橋から上流200m地点においては平成2年度、平成4年度以外

は環境基準を達成していましたが、平成27年度以降は原因は不明ですが水質の悪化が生じており、基準を達成していません。

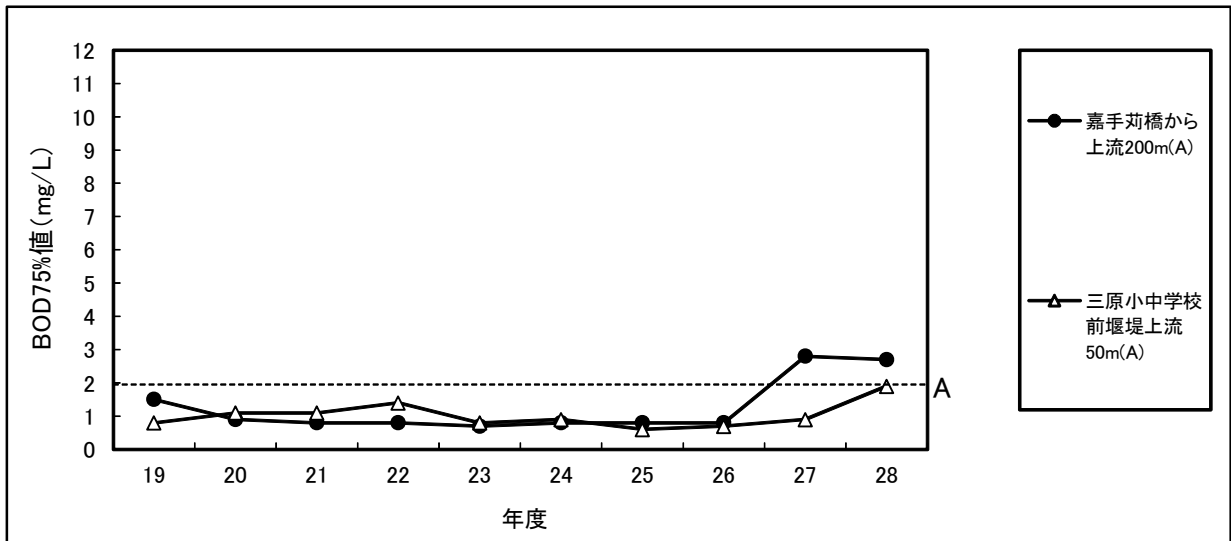


図6 汀間川の水質 (BOD75%値) 経年変化

キ 久茂地川・安里川・安謝川

久茂地川は、那覇市泊の崇元寺付近で安里川から分岐し、明治橋を經由して那覇港に注ぐ流域面積3.3km²、指定延長2kmの典型的な都市河川です。昭和53年度にE類型 (BOD 10mg/L) に指定していましたが、その後、水質が改善傾向にあったことから、平成16年度以降は類型を見直し、C類型 (BOD 5mg/L) としています。環境基準点における水質の経年変化は、平成9年度以降継続して環境基準を達成しています。

安里川は、那覇市東部の弁ヶ嶽 (標高166m) に水源を發し、南風原町新川地先を南西方向に向かい、那覇市に入って流れを北西方向に変え、真嘉比川等の支川を合わせ、久茂地川を分流し東シナ海に注ぐ、流路延長13.6km (安里川7.3km、真嘉比川3.3km、久茂地川2km、潮渡川1km)、流域面積13.2km²の二級河川です。久茂地川と同様、昭和53年度にE類型に指定しましたが、平成16年度以降は類型を見直し、D類型 (BOD 8mg/L) としています。環境基準点における水質の経年変化は、平成9年度以降継続して環境基準を達成しています。

安謝川は、那覇市及び浦添市に位置し、その源を那覇市首里石嶺町の標高100～160mの丘陵地に發し、丘陵に広がる住宅地の中を南西に流下し支川石嶺川 (普通河川) を合わせ、中流域の末吉公園の中を流下した後に、支川沢岷川 (普通河川)、銘苧川 (普通河川) を合わせ東シナ海に注ぐ、幹川流路延長5.7km、流域面積8.1km²の二級河川です。昭和53年度にE類型に指定しましたが、平成16年度以降は類型を見直し、C類型としています。環境基準点における水質の経年変化は、平成9年度以降継続して環境基準を達成しています。

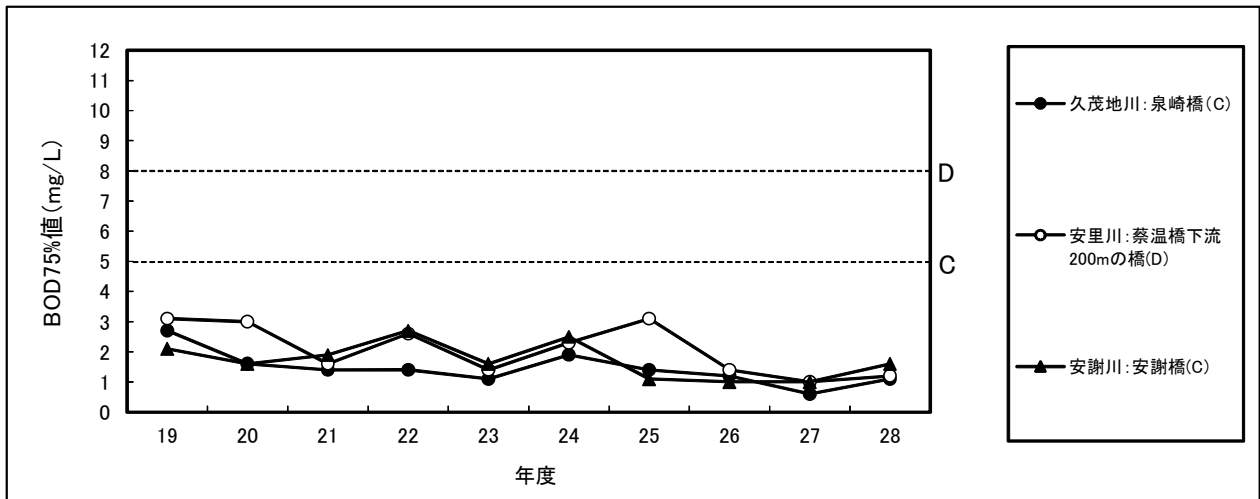


図7 久茂地川・安里川・安謝川の水質 (BOD75%値) 経年変化

むくえ
ク 報得川

報得川流域は、沖縄島南部に位置し、南城市大里稲嶺で耕作地の水を集めた小さな溝を源として、南西方向に向かい流れ、南城市、八重瀬町、糸満市をまたぎ兼城にて流路を北に向け東シナ海に注ぐ、幹線流路延長10.8km、流域面積19.2km² の二級河川です。

昭和54年度にE類型 (BOD 10mg/L) に指定しています。環境基準点における水質の経年変化は、平成18年度まで多くの年で環境基準を達成していませんでしたが、平成19年度以降は環境基準を達成しており、改善傾向が見られます。

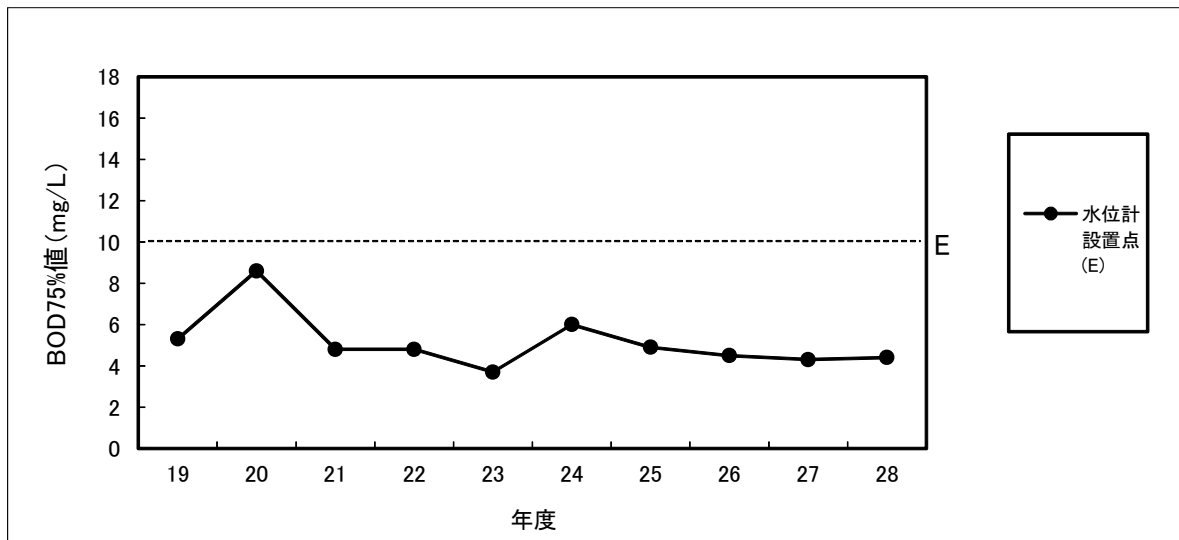


図8 報得川の水質 (BOD75%値) 経年変化

ケ 牧港川

牧港川は、西原町を源とする牧港川と宇地泊川がそれぞれ、浦添市、宜野湾市を経て国道58号線の付近で合流ののち牧港湾に注ぐ、流域面積23.2km²、指定延長9.3km(牧港川3.3km、宇治泊川6km)の河川で、昭和55年度にC類型 (BOD 5mg/L) に指定しています。環境基準

点における水質の経年変化は、牧港川取水場跡では昭和59年度より環境基準を達成していませんでしたが、平成21年度以降、環境基準を達成しています。宇地泊川取水場跡では平成10年度以降継続して環境基準を達成しており、両地点とも改善傾向が見られます。

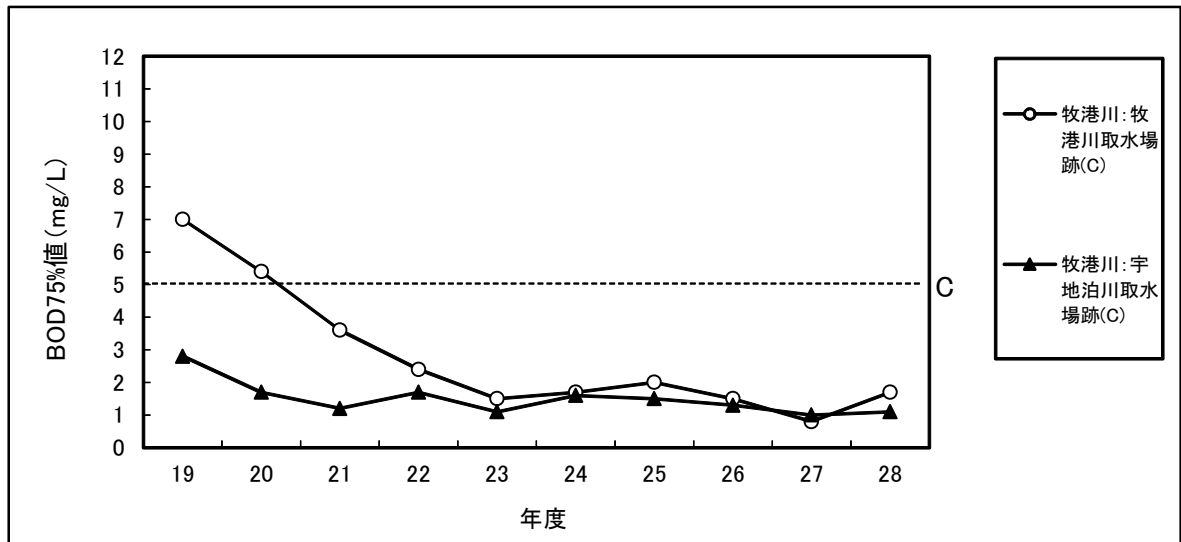


図9 牧港川の水質 (BOD75%値) 経年変化

コ ^のは 饒波川

国場川流域の南側に位置する饒波川は、大里城跡付近に源を發し、普通河川の轟川、根差部川と合流し、河口の漫湖で国場川に合流する流域面積14.6km²、幹川流路延長15.6kmの二級河川で、昭和58年度にD類型 (BOD 8 mg/L) に指定しています。

環境基準点においては、平成12年度以降継続して環境基準を達成しています。

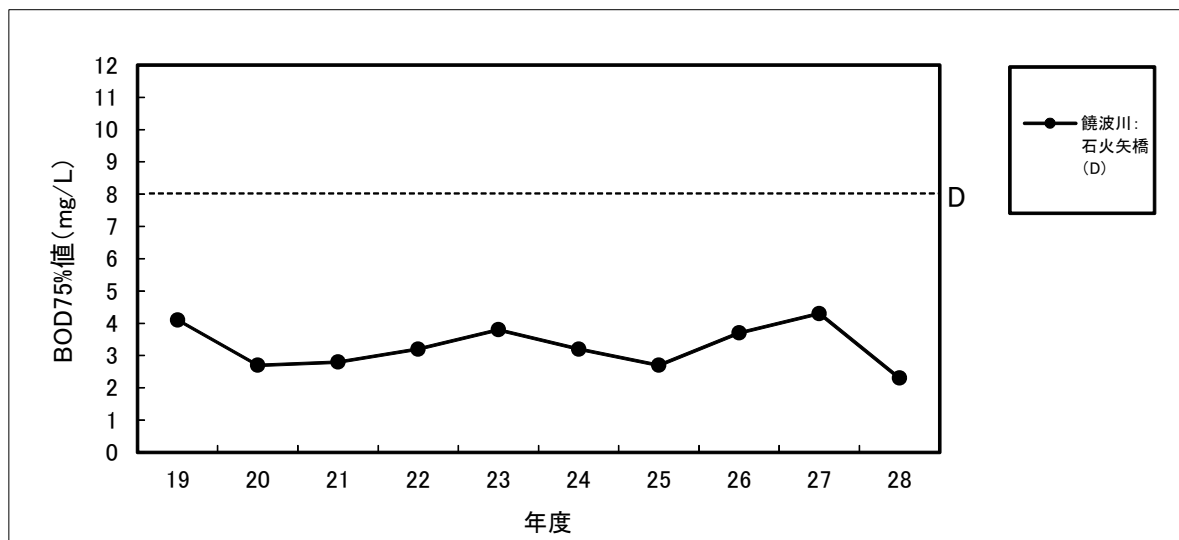


図10 饒波川の水質 (BOD75%値) 経年変化

サ ^{へなん}源河川・^{たいほ}平南川・大保川

源河川は、名護市字源河の大湿帯と一ツ岳に源を發し、源河集落内を経て東シナ海に注ぐ、

流域面積20.0km²、指定延長13.5kmの河川で、昭和62年度にA類型に指定しています。環境基準点における水質の経年変化はきわめて良好な状態で安定的に推移しており、類型指定以降、環境基準を達成しています。

平南川は、名護市と大宜味村に連なる山岳地帯を源として東シナ海に注ぐ流域面積11.1km²、河川延長5.3kmの河川で、平成元年度にA類型に指定しています。平成5年度より継続して環境基準を達成しています。

大保川は、沖縄島北部の大宜味村に位置し、その源を幸地山※(海拔295m)付近に発し、普通河川の大工又川、江洲川と合流して塩屋湾に注ぐ、流域面積23.7km²、幹川流路延長 10.3kmの二級河川で、平成元年度にB類型 (BOD 3mg/L) に指定していましたが、平成16年度以降は、A類型 (BOD 2mg/L) としています。平成5年度より継続して環境基準を達成しています。(※地元での呼称)

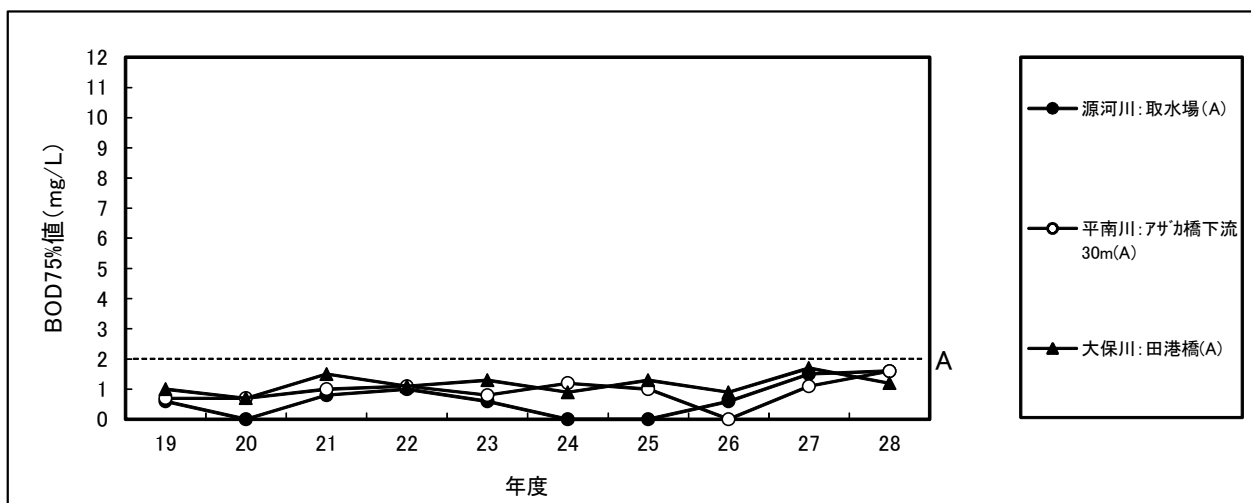


図11 源河川・平南川・大保川の水質 (BOD75%値) 経年変化

シ 宮良川・名蔵川

宮良川は、石垣島の於茂登岳山系に源を発し南下して宮良湾に注ぐ流域面積47.9km²、指定延長16.5km (宮良川12km、底原川4.5km)の河川で、河口付近にマングローブが繁茂する石垣島最大の河川です。平成元年度にA類型 (BOD 2mg/L) に指定しています。環境基準点における水質の経年変化は図12のとおりで、平成12年度以降継続して環境基準を達成しています。

名蔵川は、沖縄島の南西約400kmの東シナ海にある石垣島の西側に位置し、その源を於茂登岳山系に発し、白水川 (普通河川) や於茂登岳を源とするブネラ川 (二級河川) を合わせ、石垣市元名蔵において名蔵湾へ注ぐ、幹川流路延長約5.3km、流域面積16.1km²の二級河川です。河口付近は「アンパル」と呼ばれる広大な泥湿地帯となっており、マングローブ林が発達しています。平成元年度に宮良川と同様にA類型に指定しています。環境基準点における水質の経年変化は平成12年度以降、環境基準を達成しています。

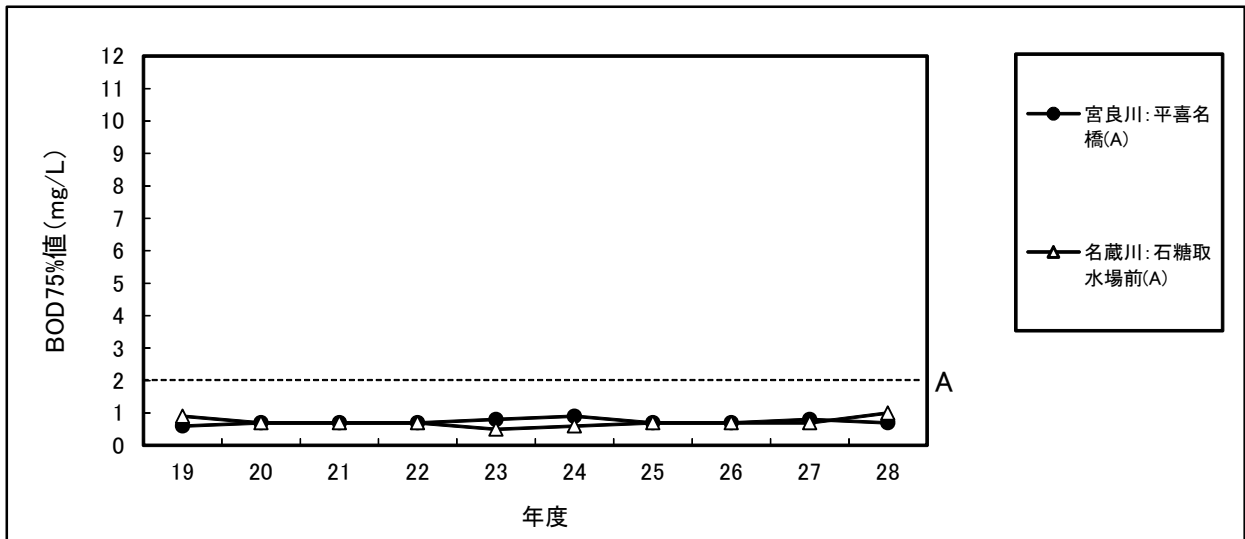


図12 宮良川・名蔵川の水質（BOD75%値）経年変化

ス 雄樋川

雄樋川は、南城市大里の大城ダムを源に、南城市玉城、八重瀬町を流れ、港川漁港に注ぐ流域面積13.7km²、指定延長2.5kmの河川で、平成8年度にD類型（BOD 8 mg/L）に指定しています。前川（前川橋）地点は平成15年度以降継続して環境基準を達成しています。また、石川橋地点では平成19年度まで多くの年で環境基準を達成していませんでしたが、平成20年度以降は環境基準を達成しています。

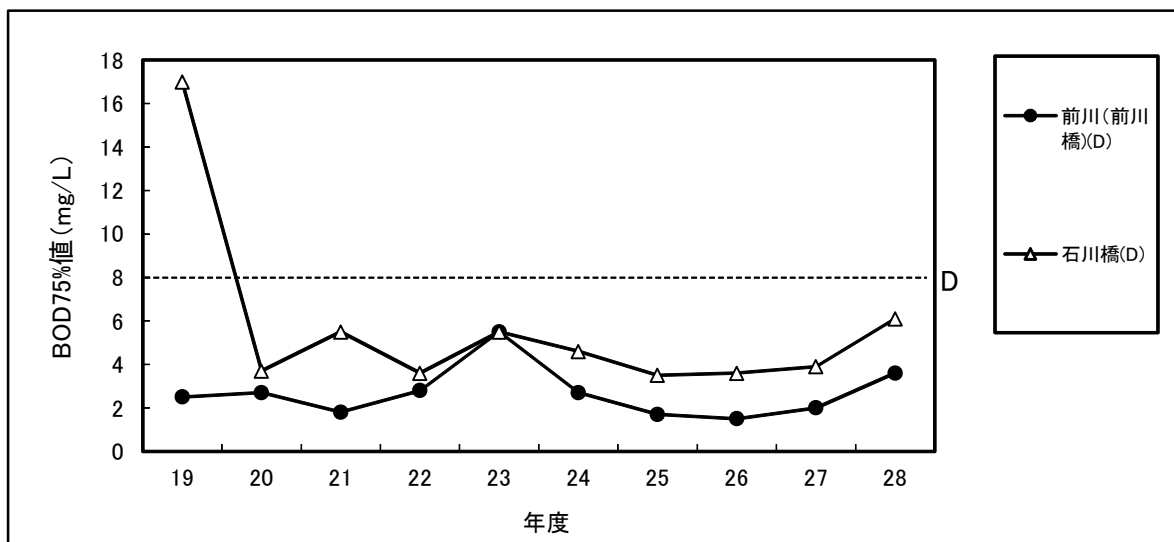


図13 雄樋川の水質（BOD75%値）経年変化

セ 福地川・漢那川・羽地大川・新川川・安波川・普久川・^{ふん}辺野喜川

福地川、漢那川、羽地大川、新川川、安波川、普久川及び辺野喜川は、沖縄島北部に位置し、上流は国管理ダム湖で、県民の水甕となっています。

福地川：太平洋に注ぐ流域面積52.1km²、指定延長25.1kmの河川で昭和49年度にA類型に指定。

漢那川：太平洋に注ぐ流域面積9km²、指定延長3.5kmの河川で昭和50年度に企業局取水場跡地から上流をA類型に指定。

羽地大川：羽地内海に注ぐ流域面積32.8km²、指定延長15.3kmの河川で、昭和50年度にA類型に指定。

新川川：太平洋に注ぐ流域面積11.3km²、指定延長6.2kmの河川で昭和52年度にA類型に指定。

普久川：太平洋に注ぐ流域面積17km²、指定延長7kmの河川で昭和52年度に上流をA類型、下流をB類型に指定。平成15年度に下流をA類型に見直し。

安波川：太平洋に注ぐ流域面積49km²（普久川を除く）、指定延長10.8km（同左）で昭和52年度に上流をA類型、下流をB類型に指定。平成15年度に下流をA類型に見直し。

辺野喜川：東シナ海に注ぐ流域面積13.2km²、指定延長8kmの河川で、昭和57年度にA類型に指定。

環境基準点における水質の経年変化は、図14から図17のとおりで、ここ10年では全ての地点で継続して環境基準を達成しています。

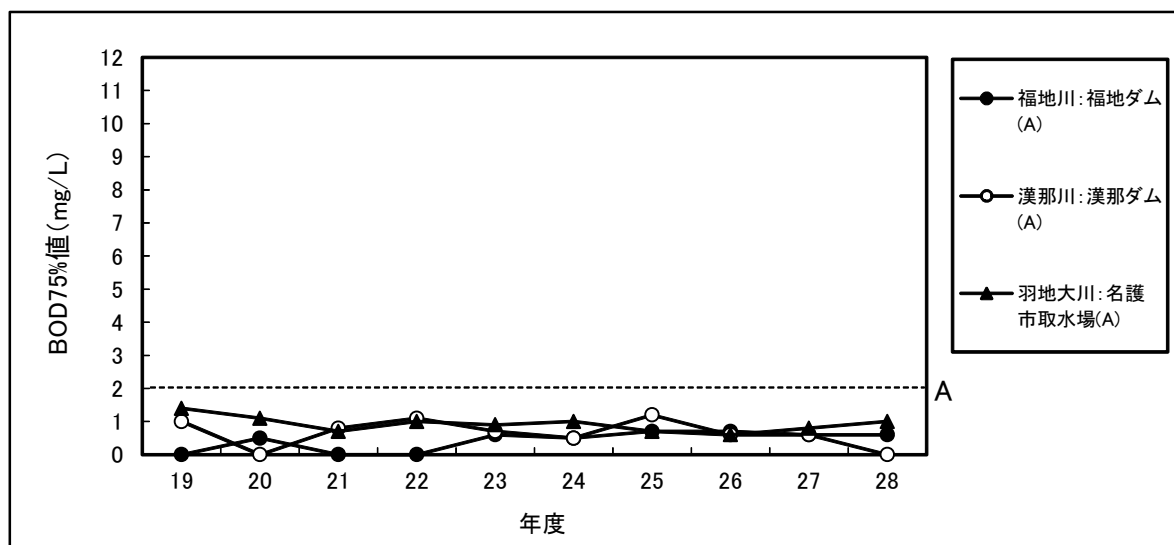


図14 福地川・漢那川・羽地大川の水質（BOD75%値）経年変化

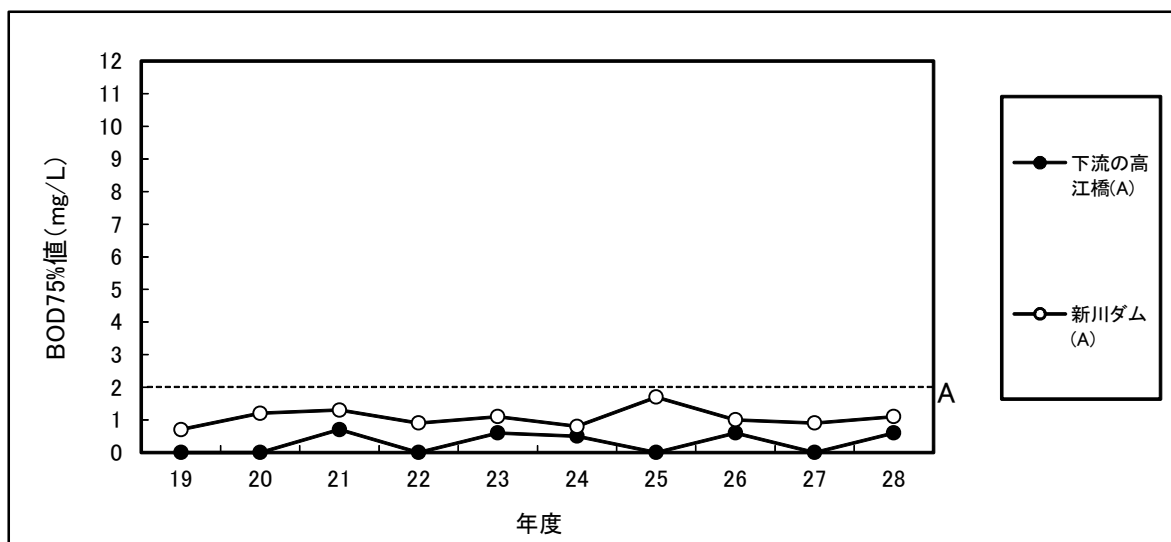


図15 新川川の水質 (BOD75%値) 経年変化

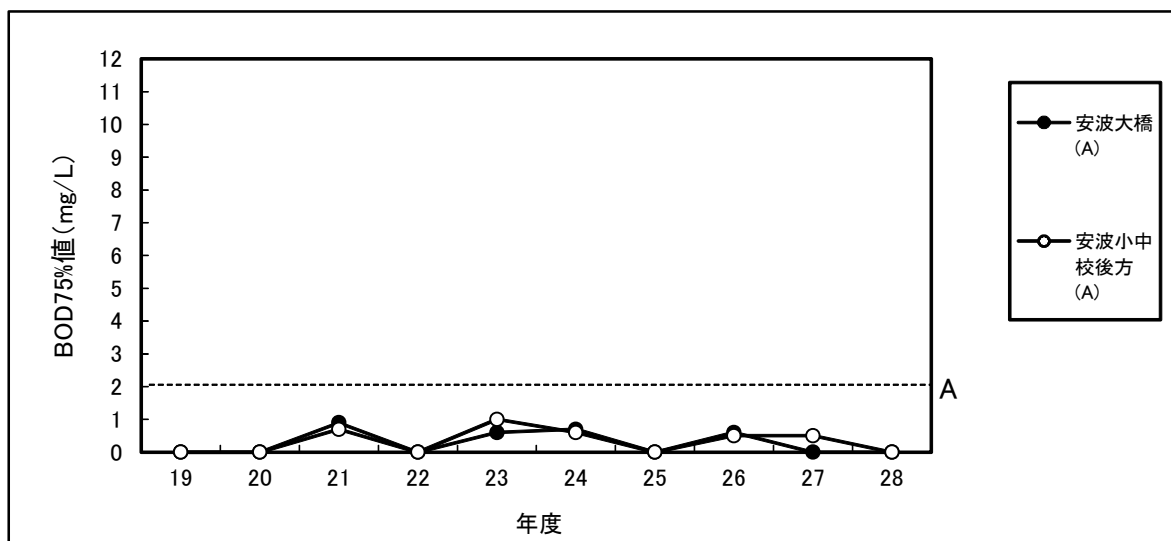


図16 安波川の水質 (BOD75%値) 経年変化

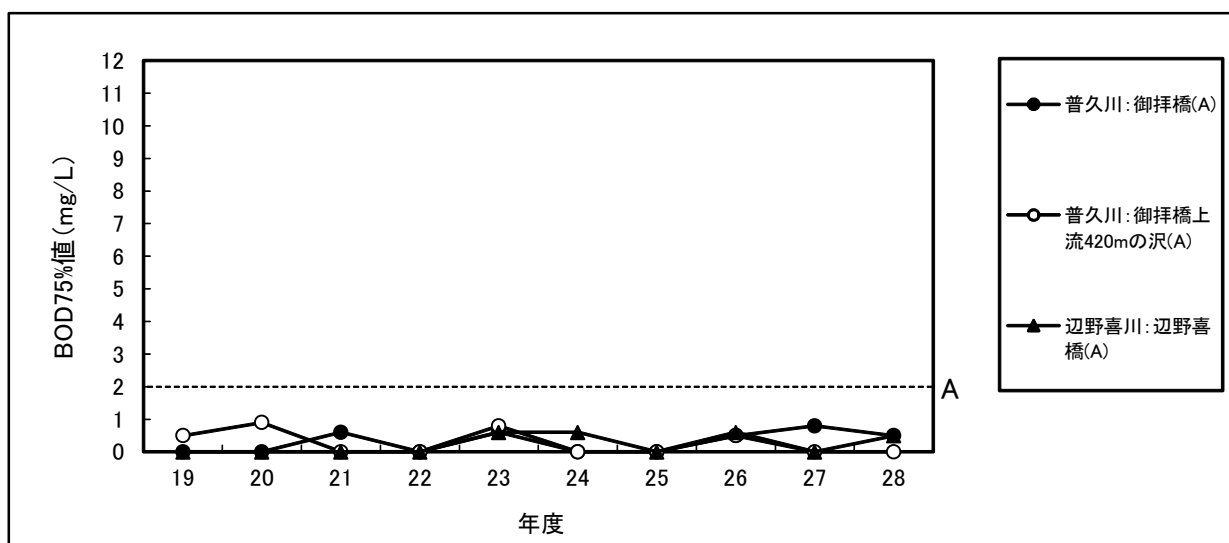


図17 普久川、辺野喜川の水質 (BOD75%値) 経年変化

ソ 億首川

億首川は、沖縄島中央部の国頭郡金武町及び恩納村に位置し、その源を恩納村山中に発し、
喜瀬武原^{きせんばる} 盆地を南に貫流して、幸地川等の支川と金武ダム貯水池で合流し、金武町において太平洋に注ぐ流路延長8.0km、流域面積16.4km² の二級河川です。

平成25年度に金武ダムが完成したことを受けて、平成26年度より水質の状況を確認しているところですが、平成27年度末時点で類型の指定はまだされていません。なお、過去3年間の結果ではA類型の基準を達成しています。

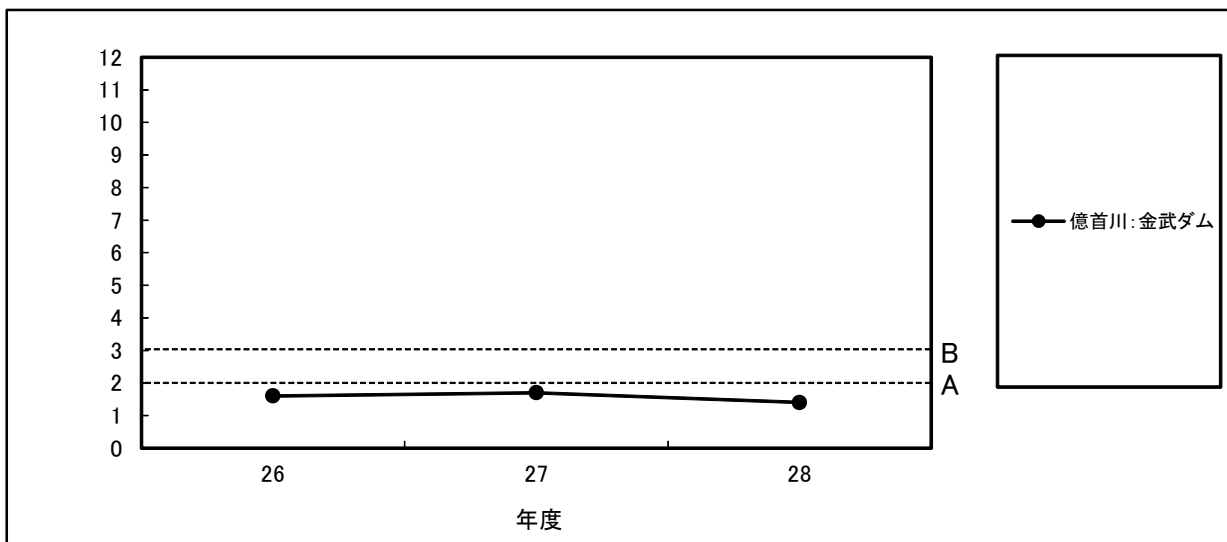


図18 億首川の水質

(5) 健康項目測定地点数（海域）

番号	海 域 名	調査地点数
1	中 城 湾	1
2	与 勝 海 域	1
3	金 武 湾	1
4	那 覇 港 海 域	1
5	名 護 湾	1
6	平 良 港	1
7	与 那 覇 湾	1

番号	海 域 名	調査地点数
8	石 垣 港	1
9	川 平 湾	1
10	羽 地 内 海	2
11	糸 満 海 域	1
12	恩 納 海 域	1
13	伊 佐 海 域	1
	合 計	14

(6) 健康項目測定結果（海域）

測 定 項 目	調 査 地点数	環 境 基 準 超過地点数
カドミウム	14	0
全 シ ア ン	14	0
鉛	14	0
六 価 ク ロ ム	14	0
砒 素	14	0
総 水 銀	14	0
アルキル水銀	14	0
P C B	14	0
ジクロロメタン	14	0
四 塩 化 炭 素	14	0
1, 2-ジクロロエタン	14	0
1, 1-ジクロロエチレン	14	0
トリス-1, 2-ジクロロエチレン	14	0

測 定 項 目	調 査 地点数	環 境 基 準 超過地点数
1, 1, 1-トリクロロエタン	14	0
1, 1, 2-トリクロロエタン	14	0
トリクロロエチレン	14	0
テトラクロロエチレン	14	0
1, 3-ジクロロプロペン	14	0
チ ウ ラ ム	14	0
シ マ ジ ン	14	0
チオベンカルブ	14	0
ベ ン ゼ ン	14	0
セ レ ン	14	0
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	14	0
1, 4-ジオキサン	14	0
合 計	350	0

(7) 海域水質の環境基準達成状況

海域 No	水域 No	環境基準 類型指定 水域名	類 型	基 準 値	環 境 基 準 点	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
1	1	中城湾	A	2	当添海岸	1.8	2.8	1.4	1.2	1.0	1.2	1.4	1.0	1.4	1.4
					湾内2	1.8	1.0	1.4	1.1	0.8	1.0	1.6	1.0	1.2	1.2
					湾内3	1.6	0.6	0.8	1.0	1.2	1.6	1.2	1.0	1.2	1.2
2	2	与勝海域	A	2	埋立地西海域	1.0	1.0	0.6	1.1	1.2	1.1	1.2	1.6	0.7	0.7
3	3	金武湾	A	2	天願川河口地先	2.0	0.9	1.5	1.4	1.3	1.7	1.2	1.2	1.1	1.1
					石川ビーチ沖	1.4	1.0	0.8	1.3	1.6	1.8	1.5	1.1	0.8	0.8
					湾口中央	0.9	0.6	1.1	1.1	1.3	1.4	1.2	0.6	1.1	1.1
4	4	那覇港海域	A	2	那覇港沖	1.8	0.5	0.6	1.2	0.6	1.2	1.8	1.9	1.9	1.9
					那覇港内	3.2	1.2	2.0	3.2	1.2	1.4	3.3	2.3	2.2	2.2
					那覇新港入口	1.6	0.8	0.8	1.2	0.6	0.8	1.8	1.9	1.9	1.9
					泊港内	1.8	2.0	1.6	2.0	0.7	1.2	2.5	2.3	2.2	2.2
					自謝加瀬東	2.4	0.6	0.8	0.6	0.4	0.8	1.9	1.9	2.1	2.1
5	5	名護湾	A	2	名護海岸	1.6	1.6	1.6	1.8	1.3	1.5	1.8	1.8	1.8	1.8
					湾内	1.4	1.7	1.5	1.4	1.0	1.3	1.9	1.8	1.8	1.8
					部間海岸	1.0	1.7	1.2	1.1	1.2	1.5	1.8	1.8	1.8	1.8
6	6	平良港	A	2	第3埠頭北岸から北300m	1.8	1.0	1.2	1.6	1.4	1.2	1.4	1.4	1.5	1.5
7	7	石垣港	A	2	浜崎地区南埠頭埋立予定地から西へ300m	1.2	0.8	1.2	1.2	1.6	1.8	1.3	1.0	1.2	1.2
8	8	川平湾	A	2	小島南先端と双葉地先を結ぶ線上の中心点	1.2	0.8	0.9	0.8	1.4	1.3	1.4	1.7	1.1	1.1
9	9	羽地内海(1)	B	3	仲尾次漁港西埠頭から北西100m	1.8	1.8	1.5	1.7	1.7	1.6	1.8	1.9	1.8	1.8
					呉我船揚場から北へ400m	1.8	1.5	1.5	1.6	1.4	1.7	1.8	1.8	1.8	1.8
	10	羽地内海(2)	A	2	羽地内海中央	1.5	1.7	1.3	1.4	1.2	1.6	1.8	1.8	1.8	1.8
					内海北水路南端	1.4	1.7	1.1	1.6	1.1	1.3	1.7	1.9	1.8	1.8
10	11	糸満海域	A	2	糸満漁港	1.3	1.8	1.7	1.3	1.1	1.6	1.8	1.9	1.9	1.9
					糸満漁港沖	1.4	1.6	1.6	0.9	1.1	1.7	1.8	1.8	1.8	1.8
					岡波岩東	1.5	1.1	1.5	1.1	1.2	1.7	1.9	1.9	1.9	1.9
11	12	恩納海域	A	2	伊武部海岸地先	1.6	1.6	1.5	1.0	0.9	1.3	1.8	1.7	1.7	1.7
					恩納漁港地先	1.3	1.8	1.4	1.0	0.8	1.5	1.8	1.7	1.6	1.6
					富着海岸地先	1.7	1.7	1.4	1.2	1.0	1.3	1.7	1.8	1.9	1.9
					長浜海岸地先	1.7	1.6	1.5	1.1	1.0	1.4	1.7	1.7	1.9	1.9
環境基準未達成水域数						1	1	0	1	0	0	1	1	1	1
環境基準類型指定水域数						12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
達成率%(環境基準達成水域数/指定水域数×100)						92	92	100	92	100	100	92	92	92	92

* 網掛けは、環境基準未達成。

(8) 与那覇湾・伊佐海域の水質の経年変化

海域No.	水域No.	環境基準 類型指定 水域名	類 型	基 準 値	測定地点	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
						12	13	与那覇湾	-	-	松原地先	1.2	1.2	1.8	1.6
					沖縄製糖旧さん橋北端	2.8	2.0	3.4	1.8	4.0	2.4	2.0	2.0	2.7	2.9
					与那覇地先	1.6	2.2	2.6	1.8	3.2	1.8	1.4	1.8	2.4	1.7
13	14	伊佐海域	-	-	残波岬南	1.1	1.5	1.6	0.8	1.0	1.7	1.6	1.9	1.8	1.9
					比謝川河口北	1.4	1.7	1.4	1.1	0.8	1.7	1.8	1.8	1.7	1.9
					比謝川河口南	1.4	1.9	1.9	1.2	0.7	1.8	1.8	1.9	1.5	1.9
					水釜地先	1.4	1.8	1.4	0.8	0.8	1.6	1.7	1.9	1.4	1.9
					砂辺地先	1.4	1.8	1.6	0.9	0.7	1.2	1.9	1.8	1.6	1.9
					白比川地先	1.4	1.7	1.5	0.9	1.0	1.5	1.8	1.9	1.7	1.8
					大山地先	1.4	1.8	1.6	0.7	0.8	1.6	1.5	1.9	1.7	1.9
					沖電地先	1.3	1.7	1.4	1.0	0.9	1.3	1.7	1.8	1.6	1.9
					港川地先	1.5	1.9	1.3	0.8	0.7	1.5	1.8	1.7	1.5	1.6
					キャンプキナー地先	1.7	1.8	1.0	1.0	0.8	1.8	1.6	1.8	1.8	1.8

(9) 各海域の概況及び水質

ア 中城湾

中城湾は、沖縄島中南部の東海岸に位置し、勝連半島、津堅島、久高島及び知念半島に囲まれた面積約240km²の水域で、昭和49年4月には、重要港湾に指定されています。

昭和49年度に環境基準のA類型（COD 2 mg/L）に指定しており、環境基準点における水質の経年変化は昭和58年度以降各地点とも環境基準を達成していましたが、平成20年度に当添海岸において基準を達成しませんでした。平成21年度からは環境基準を達成しています。

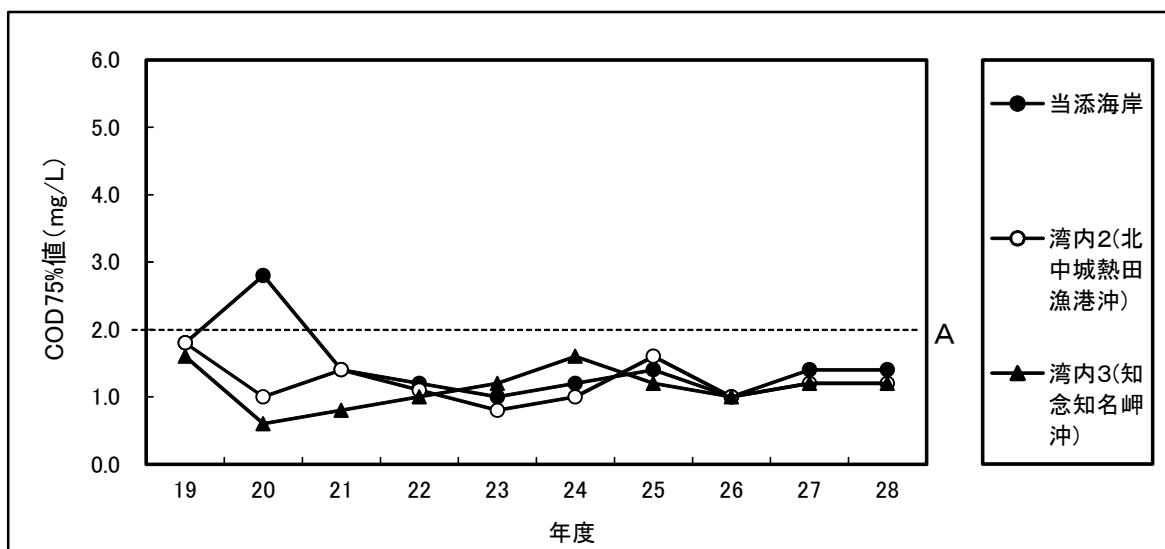


図1 中城湾の水質（COD75%値）経年変化

イ 与勝海域

与勝海域は、沖縄島中部東側に位置し、平安座島、宮城島、伊計島、浜比嘉島及び勝連半島周辺の面積約66km²の金武湾に接した水域で、陸域には、石油貯蔵基地が立地しています。

昭和49年度に環境基準のA類型に指定していますが、環境基準点における水質の経年変化は各地点とも良好な状態を維持し、指定以来継続して環境基準を達成しています。

ウ 金武湾

金武湾は、金武岬と勝連半島に囲まれた面積約150km²の水域で、湾口は狭く湾奥に向かって入江を形成しており、湾口から湾中央にかけては水深が深いことから、周辺石油及び電力企業への原油等の運搬のために大型タンカー船が航行します。また、同湾は勝連半島と平安座島間の海中道路、平安座島、宮城島及び伊計島で外海と隔てられており、海水の交換は、もっぱら湾口に頼っています。

昭和49年度に環境基準のA類型に指定していますが、環境基準点における水質の経年変化は各地点とも良好な状態を維持しており、平成5年度より継続して環境基準を達成しています。

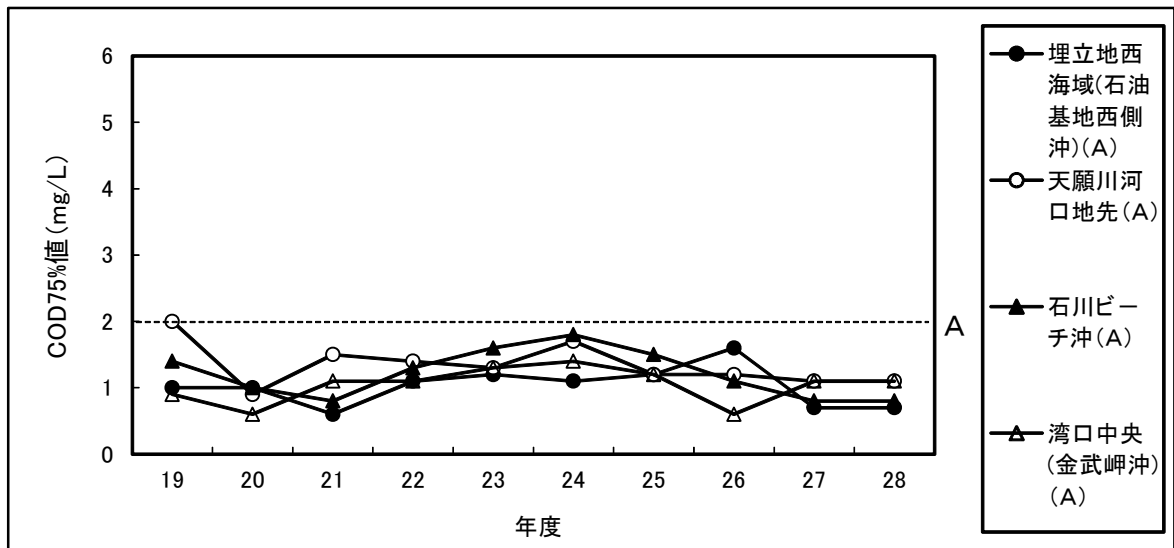


図2 与勝海域、金武湾の水質 (COD75%値) 経年変化

エ 那覇港海域

那覇港海域は、那覇新港埠頭の伊奈武瀬いなんせから沖合いの自謝加瀬じじゃかせ、干ノ瀬かん びせのサンゴ礁を経て那覇空港北岸に囲まれる面積約11km²の水域で、那覇港、泊港及び那覇新港が立地しており、背後には、那覇市街地が広がっています。

昭和50年度に環境基準のA類型に指定しています。最近10年間においては那覇港内は平成20、21年度及び23、24年度で環境基準を達成しましたが、それ以外の年度は未達成となっています。泊港内では平成19～24年度、自謝加瀬東では平成19及び27年度を除く年度で環境基準を達成しました。那覇港沖と那覇新港入口では最近10年は基準超過はありません。

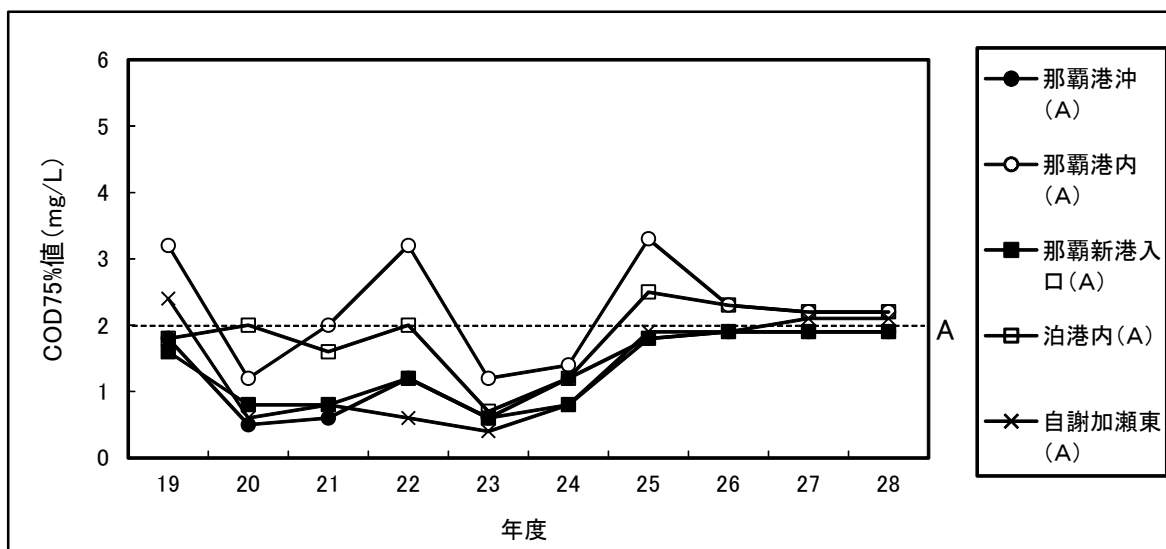


図3 那覇港海域の水質 (COD75%値) 経年変化

オ 名護湾

名護湾は、沖縄島北部西海岸に位置し、部瀬名岬と本部半島を結ぶ海岸線に囲まれた面積約47.6km²の水域で湾奥には名護市の市街地域が広がっています。また、名護市世富慶以南は昭和47年に沖縄海岸国定公園に指定されています。

昭和50年度に環境基準のA類型に指定していますが、環境基準点における水質の経年変化は各地点とも良好に推移し、昭和54年度以降継続して環境基準を達成しています。

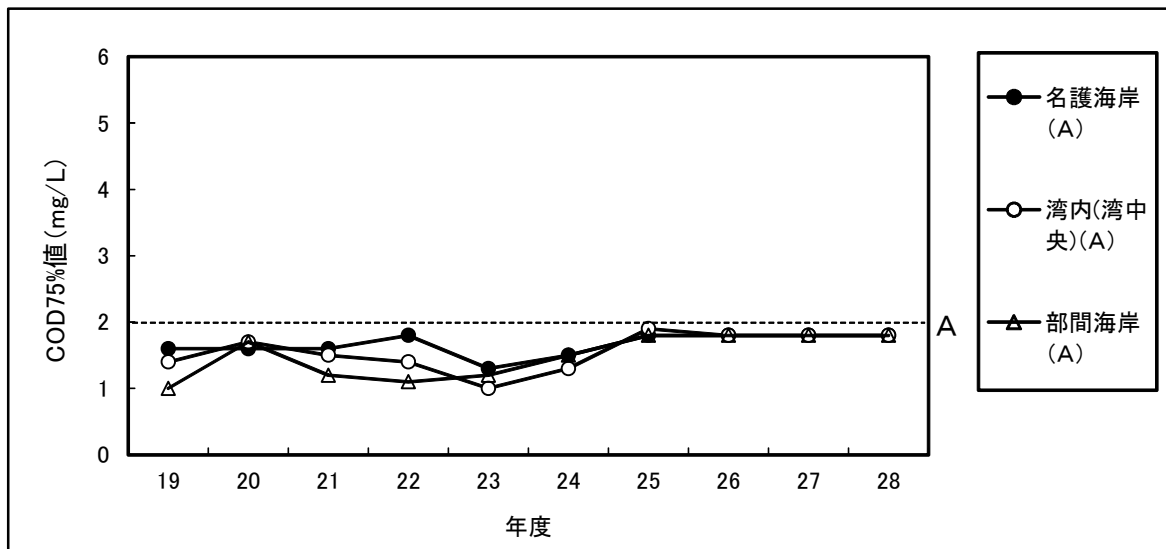


図4 名護湾の水質 (COD75%値) 経年変化

カ 平良港

平良港は、宮古島西方に位置し、宮古島市の市街地に面しています。

昭和52年度に環境基準のA類型に指定しており、環境基準点における水質の経年変化は良好に推移し、継続して環境基準を達成しています。

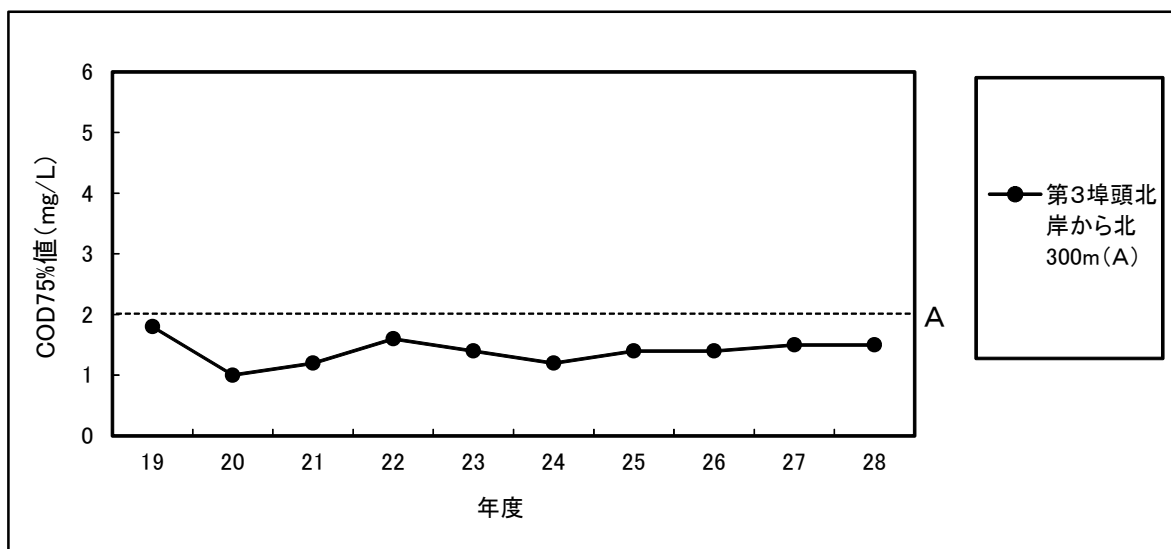


図5 平良港の水質 (COD75%値) 経年変化

キ 石垣港、^{かびら}川平湾

石垣港は、石垣島南部に位置し、面積約19km²の海域で石垣市街地に面し、八重山地域の流通港としての中核をなしています。昭和52年度に環境基準のA類型に指定しています。

川平湾は、石垣島北西に位置する風光明媚な入江で、昭和49年度に水産資源保護法に基づく水産動物の繁殖、保護、培養のために必要な措置を講ずるべき保護水面として指定されており、昭和52年度に環境基準のA類型に指定しています。また、平成19年に西表国立公園が拡張され西表石垣国立公園となった際に、国立公園の区域に編入されています。

両海域の環境基準点における水質は良好に推移し、直近の15年間は環境基準を達成しています。

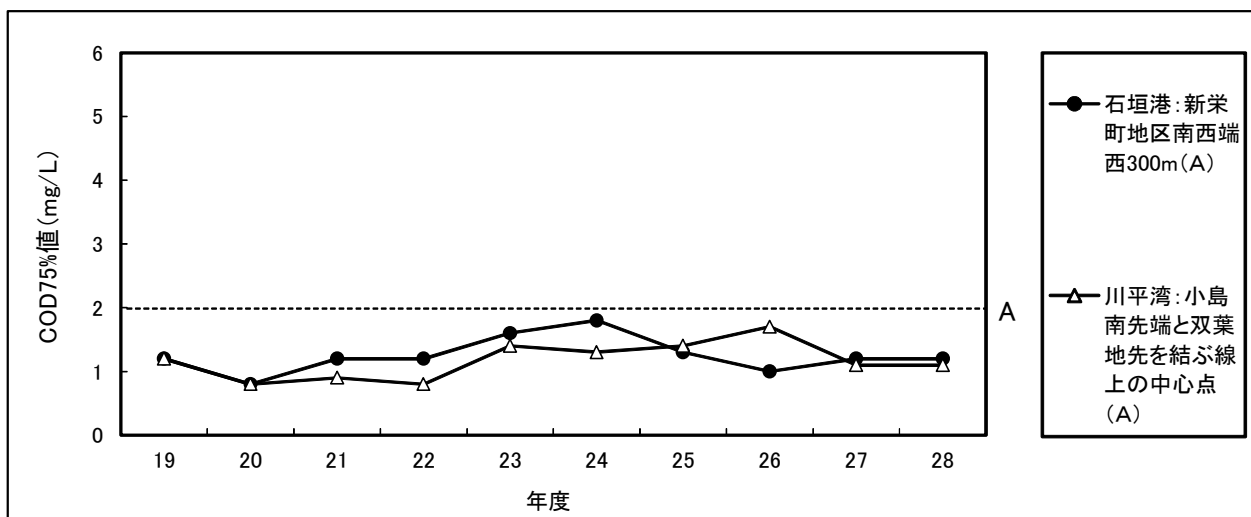


図6 石垣港、川平湾の水質 (COD75%値) 経年変化

ク 羽地内海

羽地内海は、沖縄島北部海岸に位置し、本部半島及び屋我地島に囲まれた面積約12km²の風光明媚な内海で、沖縄海岸国定公園及び国設鳥獣保護区に指定されています。

環境基準を昭和57年度に湾奥部の羽地内海、我部祖河川の河口域をB類型（COD 3mg/L）に指定し、その他の海域部をA類型に指定していますが、環境基準点における水質の経年変化は、各地点とも良好に推移しており、昭和63年度より継続して環境基準を達成しています。

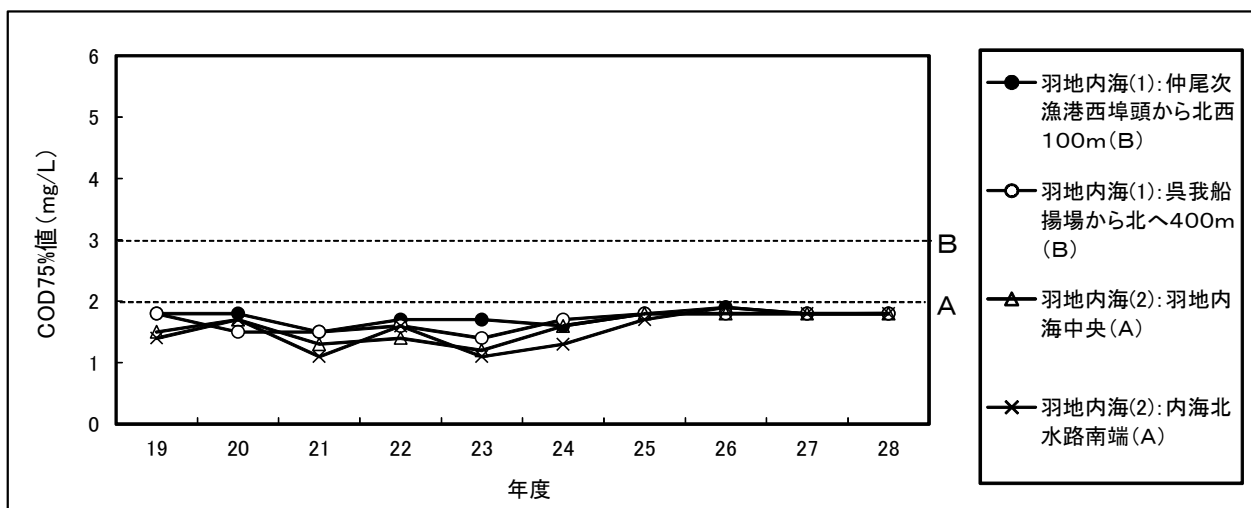


図7 羽地内海(1)、(2)の水質 (COD75%値) 経年変化

ケ 糸満海域

糸満海域は、沖縄島南部海岸に位置した海域で、糸満市糸満から潮平にかけての西側約27.4 km²を埋立て、糸満臨海工業団地、中小企業団地、沖合側の漁港後背地には水産食品加工団地が建設されているほか、埋め立て地北側は新興住宅地となっています。

昭和60年度に環境基準のA類型に指定していますが、環境基準点における水質の経年変化は各地点とも良好に推移しており、指定以来、継続して環境基準を達成しています。

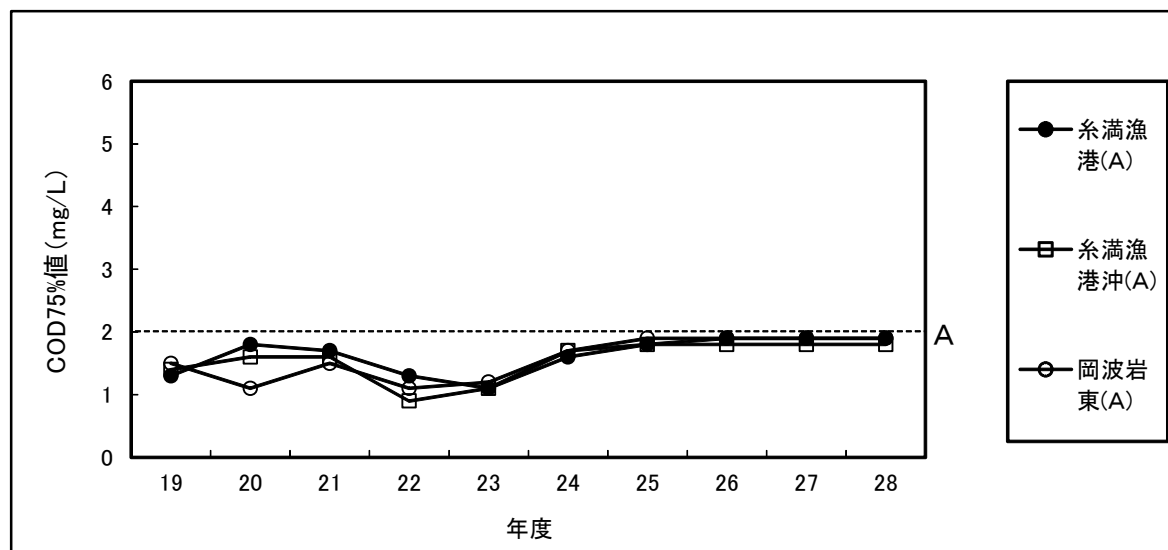


図8 糸満海域の水質 (COD75%値) 経年変化

コ 恩納海域

恩納海域は、沖縄島北部西海岸に位置し、30数キロに及ぶ風光明媚な海岸線は、白い砂浜とエメラルド色に輝く海、切り立った海蝕崖など変化に富み、昭和47年に沖縄海岸国定公園に指定されています。また、一帯は沖縄を代表する観光・リゾート地として賑わっており、大型リゾートホテル等の関連施設が数多く立地しています。

平成6年度に環境基準のA類型に指定していますが、環境基準点における水質の経年変化は各地点とも良好に推移し、指定以来、継続して環境基準を達成しています。

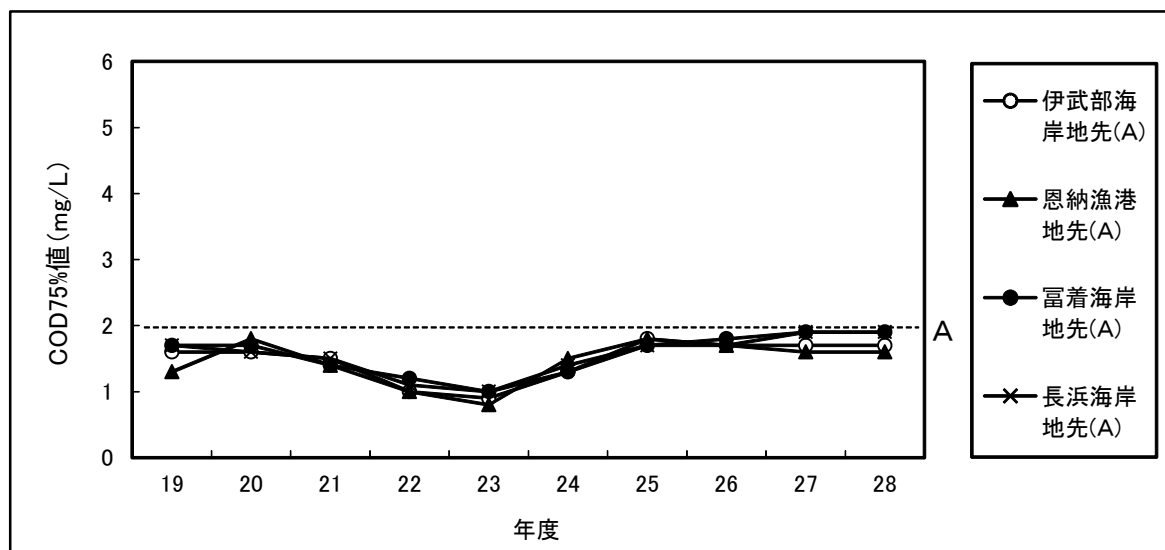


図9 恩納海域の水質（COD75%値）経年変化

サ 与那覇湾、伊佐海域

閉鎖性海域である宮古島の与那覇湾及び、沖縄島中部西海岸の伊佐海域は、水質環境基準の類型指定を行っておりませんが、水質の状況を把握するために昭和55年度より与那覇湾3地点、平成7年度より伊佐海域10地点で水質測定を実施しています。

与那覇湾においては、年度によりCOD値が3mg/Lを超えることがありますので、B類型として評価しても基準を達成できない可能性があります。

伊佐海域においては、水質の経年変化は良好に推移し、測定以来継続してCOD値2mg/L以下となっており、A類型として評価しても基準を達成できる良好な結果となっています。

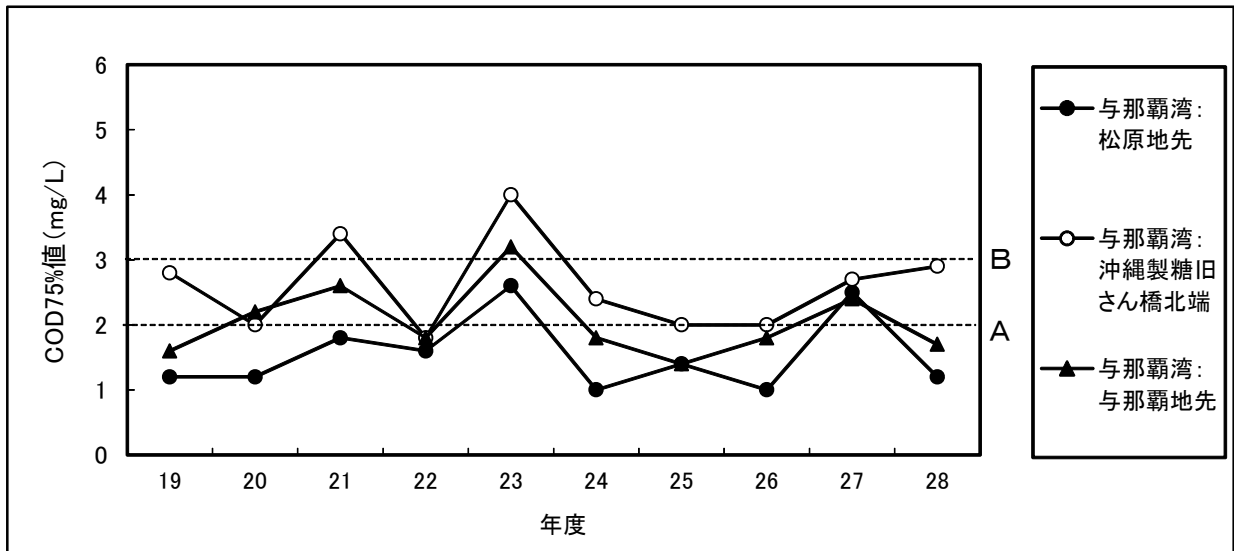


図10 与那覇湾の水質 (COD値) 経年変化

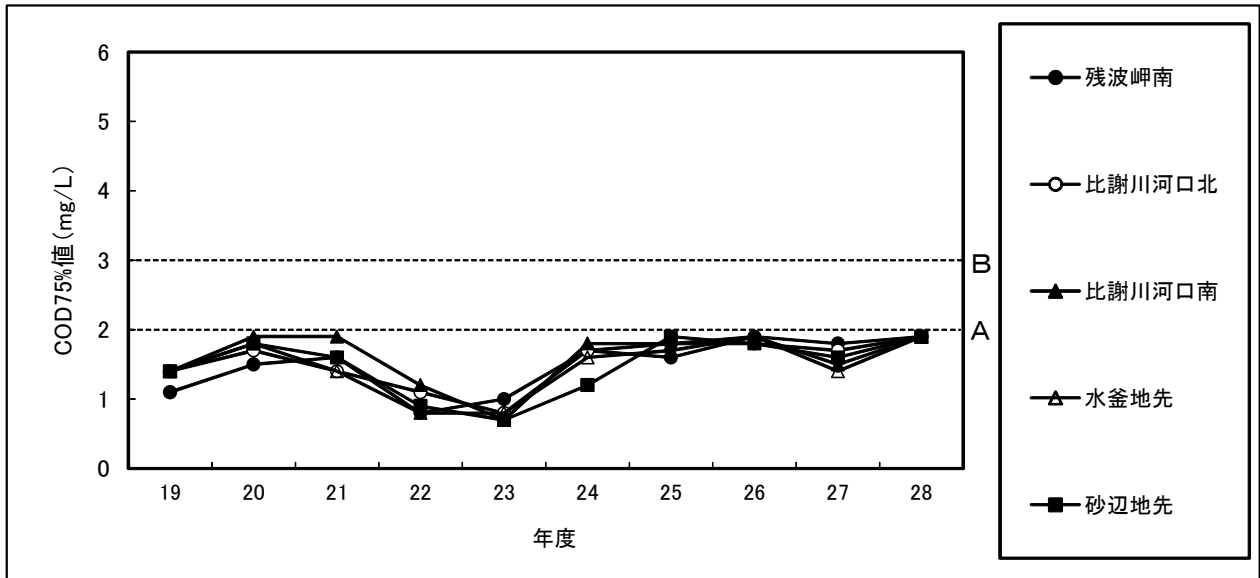


図11-1 伊佐海域の水質 (COD値) 経年変化

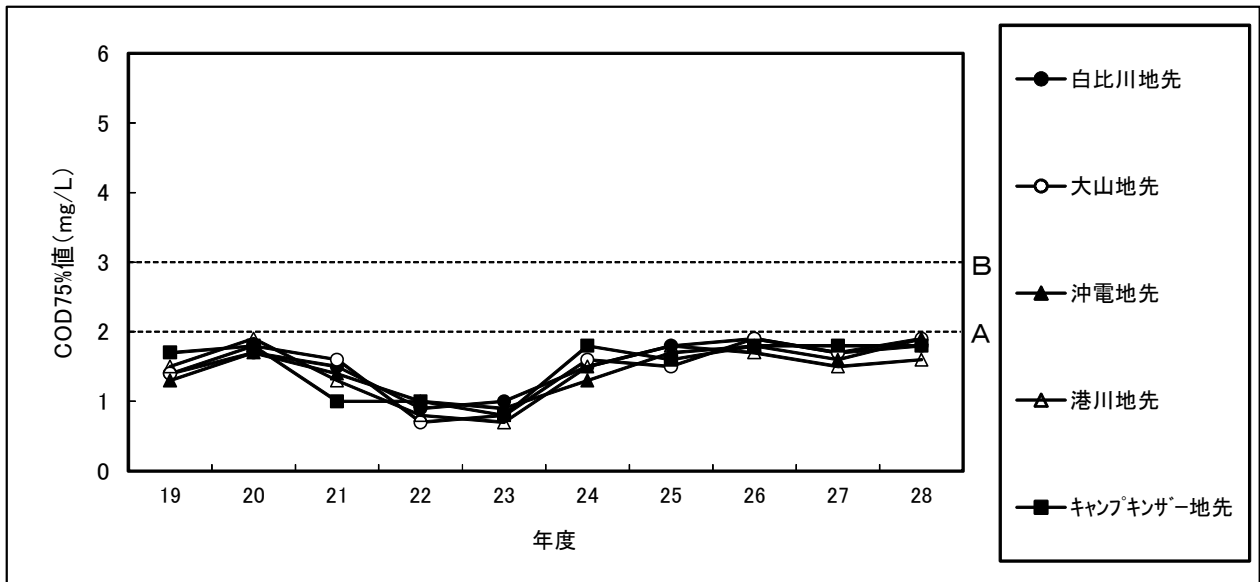


図11-2 伊佐海域の水質（COD値）経年変化

(10)平成28年度 主要水浴場水質調査結果

番号	(ふりがな) 水浴場名	調査月 日	遊						泳						期						間						判定	
			ふん便性 大腸菌群数 (個/100mL)		COD (mg/L)		pH		透明度(m)		油膜の有無		判定		調査月 日		ふん便性 大腸菌群数 (個/100mL)		COD (mg/L)		pH		透明度(m)		油膜の有無		判定	
			最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	H28	H27
1	奥間ビーチ	4/21, 4/27	2	42	<0.5	1.6	1.2	8.0	8.1	>1	>1	なし	水質A	水質AA	7/27, 8/4	<2	22	7	0.5	1.1	0.9	8	8.1	>1	>1	なし	水質A	水質A
2	エマルドビー	4/21, 4/27	<2	4	0.8	1.2	1.0	7.9	8.0	>1	>1	なし	水質AA	水質A	7/27, 8/4	2	18	8	0.6	1.7	1.1	8	8	>1	>1	なし	水質A	水質A
4	かりゆしビーチ	4/21, 4/27	<2	4	<0.5	1.0	0.7	8.0	8.1	>1	>1	なし	水質A	水質A	7/27, 8/4	<2	10	3	0.8	1.1	0.9	7.9	8	>1	>1	なし	水質A	水質A
5	ブセナビーチ	4/21, 4/27	<2	30	0.6	1.6	1.0	8.0	8.0	>1	>1	なし	水質A	水質AA	7/27, 8/4	<2	2	<2	0.5	1.2	0.9	7.8	8.1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA
8	万座ビーチ	4/15, 4/27	<2	<2	<0.5	0.5	0.5	8.2	8.2	>1	>1	なし	水質AA	水質AA	7/26, 7/28	<2	12	4	<0.5	0.8	0.6	8.0	8.1	>1	>1	なし	水質A	水質A
9	リザンシーバー ク	4/15, 4/27	<2	<2	<0.5	0.7	0.6	8.2	8.3	>1	>1	なし	水質AA	水質AA	7/26, 7/28	<2	26	9	0.5	0.9	0.8	8.0	8.1	>1	>1	なし	水質A	水質A
10	サンマリーナ	4/15, 4/27	<2	<2	<0.5	0.5	0.5	8.2	8.3	>1	>1	なし	水質AA	水質AA	7/26, 7/28	<2	2	2	<0.5	1.0	0.6	8.1	8.2	>1	>1	なし	水質A	水質A
11	タイガービーチ	4/15, 4/27	<2	<2	<0.5	0.5	0.5	8.2	8.3	>1	>1	なし	水質AA	水質AA	7/26, 7/28	<2	14	5	<0.5	2.3	1.0	8.2	8.3	>1	>1	なし	水質A	水質A
12	ムーンビーチ	4/15, 4/27	<2	<2	<0.5	0.7	0.6	8.2	8.2	>1	>1	なし	水質AA	水質AA	7/26, 7/28	<2	2	<2	<0.5	0.8	0.6	8.1	8.2	>1	>1	なし	水質AA	水質A
13	ルネッサンス	4/15, 4/27	<2	<2	<0.5	0.5	0.5	8.2	8.2	>1	>1	なし	水質AA	水質A	7/26, 7/28	<2	4	2	<0.5	0.7	0.6	8.0	8.1	>1	>1	なし	水質A	水質A
14	伊計ビーチ	4/15, 4/27	<2	<2	<0.5	<0.5	<0.5	8.2	8.2	>1	>1	なし	水質AA	水質AA	7/26, 7/28	<2	20	5	<0.5	0.7	0.6	8.0	8.2	>1	>1	なし	水質A	水質A
15	読谷村営残波 ビーチ	4/15, 4/27	<2	<2	<0.5	<0.5	<0.5	8.1	8.2	>1	>1	なし	水質AA	水質AA	7/26, 7/28	2	18	9	<0.5	0.8	0.6	8.0	8.2	>1	>1	なし	水質A	水質A
16	ニライビーチ	4/15, 4/27	<2	<2	<0.5	<0.5	<0.5	8.1	8.3	>1	>1	なし	水質AA	水質AA	7/26, 7/28	<2	30	8	<0.5	0.9	0.6	8.1	8.2	>1	>1	なし	水質A	水質A
17	直野海トロボカ ルビーチ	4/15, 4/27	<2	<2	<0.5	0.5	0.5	8.1	8.3	>1	>1	なし	水質AA	水質A	7/26, 7/28	<2	78	21	<0.5	1.5	0.8	8.0	8.2	>1	>1	なし	水質A	水質A
18	サンセットビー チ	4/15, 4/27	<2	28	<0.5	1.7	1.1	8.2	8.3	>1	>1	なし	水質A	水質AA	7/26, 7/28	<2	114	30	<0.5	0.9	0.6	8.0	8.2	>1	>1	なし	水質A	水質A
19	波の上ビーチ	4/26, 4/27	<2	<2	1.8	1.9	1.9	8.2	8.2	>1	>1	なし	水質AA	水質A	8/15, 8/16	<2	110	29	1.7	1.9	1.8	8.1	8.2	>1	>1	なし	水質A	水質A

番号	(ふりがな) 水浴場名	調査 月日	遊 泳 期 間 前						判定		調査 月日	遊 泳 期 間 中						判定														
			ふん便性 大腸菌数 (個/100mL)		COD (mg/L)		pH		透明度(m)			油 膜の 有無	ふん便性 大腸菌数 (個/100mL)		COD (mg/L)		pH		透明度(m)		油 膜の 有無											
			最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大			最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大		最小	最大									
20	新原ビーチ	4/5, 4/26	<2	2	<2	0.6	1.8	1.2	8.0	8.1	>1	>1	>1	>1	なし	<2	<2	<2	1.2	1.4	1.3	8.2	8.3	>1	>1	>1	なし	H28	H27	水質AA	水質A	
22	イーフビーチ	4/25, 4/26	<2	20	<2	1.0	1.5	1.3	7.9	8.1	>1	>1	>1	>1	なし	<2	<2	<2	1.3	1.5	1.5	7.9	8	>1	>1	>1	なし	水質A	水質AA	水質AA	水質AA	
23	前浜ビーチ	4/19, 5/10	<2	2	<2	0.5	0.8	0.7	8.1	8.5	>1	>1	>1	>1	なし	<2	<2	<2	0.5	0.9	0.8	8.1	8.3	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA	水質AA	水質AA	
24	ハイナガマビーチ	4/19, 5/10	<2	<2	<2	0.8	1.0	0.9	8.2	8.6	>1	>1	>1	>1	なし	<2	<2	<2	0.5	1.5	0.9	8	8.3	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA	水質AA	水質AA	
26	鹿地ビーチ	4/18, 4/20	<2	<2	<2	<0.5	0.7	0.6	8.0	8.2	>1	>1	>1	>1	なし	<2	<2	<2	1.2	2.0	1.5	7.9	8.2	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA	水質AA	水質AA	
27	真菜里ビーチ	4/18, 4/20	<2	<2	<2	<0.5	0.8	0.6	8.0	8.2	>1	>1	>1	>1	なし	<2	<2	<2	1.1	1.4	1.2	7.9	8.1	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA	水質AA	水質AA	
28	あざまサンサン ビーチ	4/5, 4/26	<2	24	<2	0.6	1.8	1.3	8.0	8.0	>1	>1	>1	>1	なし	<2	<2	<2	1.0	1.4	1.2	8.1	8.2	>1	>1	>1	なし	水質A	水質AA	水質AA	水質A	
29	アラハビーチ	4/15, 4/27	<2	4	<2	<0.5	0.9	0.6	8.2	8.3	>1	>1	>1	>1	なし	<2	<2	<2	0.5	1.3	1.1	8.1	8.2	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質A	水質A	水質A	
30	吉野海岸	4/19, 5/10	<2	2	<2	0.7	0.9	0.8	8.0	8.6	>1	>1	>1	>1	なし	<2	<2	<2	0.5	0.9	0.7	8.2	8.3	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA	水質AA	水質AA	
32	古座間味ビーチ	4/25, 4/26	<2	<2	<2	0.7	1.4	1.1	8.0	8.1	>1	>1	>1	>1	なし	<2	<2	<2	1.2	1.8	1.4	8.1	8.2	全透	全透	全透	全透	なし	水質AA	水質A	水質A	水質AA
33	美々ビーチ	4/5, 4/26	<2	4	<2	0.8	1.7	1.3	8.0	8.1	>1	>1	>1	>1	なし	<2	<2	<2	1.0	1.4	1.2	8.1	8.2	>1	>1	>1	なし	水質A	水質AA	水質AA	水質A	
34	阿波連ビーチ	4/25, 4/26	<2	2	<2	1.2	1.3	1.3	8.0	8.1	>1	>1	>1	>1	なし	<2	<2	<2	0.9	1.3	1.2	8.1	8.1	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA	水質AA	水質AA	
35	西原きらきら ビーチ	4/5, 4/26	<2	<2	<2	0.8	1.6	1.2	7.9	8.0	>1	>1	>1	>1	なし	<2	<2	<2	0.8	1.6	1.2	8.1	8.3	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA	水質AA	水質A	
36	クラブメッドカビ ラビーチ	4/18, 4/20	<2	<2	<2	<0.5	0.6	0.6	8.0	8.1	>1	>1	>1	>1	なし	<2	<2	<2	0.7	1.5	1.2	8.0	8.1	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA	水質AA	水質AA	
37	豊崎ちゅらSUN ビーチ	4/5, 4/26	<2	4	<2	1.3	1.7	1.5	8.0	8.1	>1	>1	>1	>1	なし	<2	<2	<2	1.6	2.2	1.9	8.2	8.3	>1	>1	>1	なし	水質A	水質AA	水質AA	水質A	

(11)平成28年度に発生した魚類のへい死事故

No	通報年月日	発生地点			へい死魚種数		備考	
		水域名	市町村名	管轄	魚種	魚数(匹)	死因	衛研や保健所の調査概要
1	H28/04/03	州崎・川田汽水域水路 (中城湾港新港地区)	うるま市	中部	ドロクイ	2000匹以上	酸欠・ 農業 疑い	溶存酸素、CODから水質悪化により酸欠状態が主原因と思われる。また死魚のエラから農業フェンバレートが検出され、酸欠とともに本件の要因の可能性。
2	H28/04/04	赤野海岸	うるま市	中部	不明	約30匹	不明	現場で細かな紙片のような白い浮遊物確認。情報によるともっと白濁していることがある。現場上流の製紙工場に立ち入り、敷地内に大量に保管されているペーパースラッジについて、飛散・流出しないよう管理指導。
3	H28/04/04	饒波川	南城市	南部	ウナギ テラピア	約10匹	不明	農業は不検出。溶存酸素、アンモニア態窒素などは生物が生息しにくい水環境とは言えないため、原因は不明。
4	H28/06/27	比謝川	沖縄市	中部	テラピア	約100匹	不明	農業は不検出。溶存酸素、アンモニア態窒素などは生物が生息しにくい水環境とは言えないため、原因は不明。
5	H28/07/13	雄樋川	南城市	南部	テラピア ウナギ カメ	約20匹	不明	農業は不検出。溶存酸素、アンモニア態窒素などは生物が生息しにくい水環境とは言えないため、原因は不明。
6	H28/07/15	比謝川	沖縄市	中部	テラピア	約50匹	DO過飽和	農業は不検出。溶存酸素が過飽和の状態、現場写真より藻類繁茂がみられ、日夜間の変動がかなり大きかったと考えられる。
7	H28/07/21	牧港川	浦添市	南部	テラピア オオウナギ	約10匹	不明	農業は不検出。溶存酸素、アンモニア態窒素などは生物が生息しにくい水環境とは言えないため、原因は不明。
8	H28/07/25	長堂川	南風原町	南部	テラピア	約20匹	アンモニア	農業は不検出。溶存酸素、アンモニア態窒素より生物が生息しにくい水環境であったと推測され、酸素不足及び遊離アンモニアによる呼吸障害と考えられる。
9	H28/08/29	牧港川	浦添市	南部	テラピア	約30匹	アンモニア	農業は不検出。溶存酸素、アンモニア態窒素より生物が生息しにくい水環境であったと推測され、遊離アンモニアによる呼吸障害と考えられる。
10	H28/11/16	億首川	金武町	中部	ボラ	約10匹	アンモニア	農業は不検出。溶存酸素、アンモニア態窒素から、アンモニアの毒性によるものと考えられる。
11	H28/11/25	長堂川	南風原町	南部	テラピア	約50匹	不明	農業は不検出。溶存酸素、アンモニア態窒素などは生物が生息しにくい水環境とは言えないため、原因は不明。
12	H28/12/01	億首川	恩納村	中部	テラピア	十数匹	農業	農業は、河川水からプロシミドンが、死魚からフェントエートが検出。フェントエートが過去の事例と値が同程度であることから、農業による中毒死と考えられる。
13	H28/12/06	饒波川	南城市	南部	テラピア	約20匹	アンモニア	農業は不検出。溶存酸素、アンモニア態窒素より生物が生息しにくい水環境であった。遊離アンモニアによる呼吸障害と考えられる。
14	H29/01/11	報得川	八重瀬町	南部	テラピア	約30匹	アンモニア	農業は不検出。溶存酸素、アンモニア態窒素より生物が生息しにくい水環境であった。前日から畜舎排水の臭いがするとの苦情あり。遊離アンモニアによる呼吸障害と考えられる。
15	H29/01/26	糸満海域	糸満市	南部	ボラ テラピア ウナギ	約50匹	不明	農業は不検出。溶存酸素、アンモニア態窒素などは生物が生息しにくい水環境とは言えないため、原因は不明。
16	H29/02/17	天願川	うるま市	中部	テラピア	数百匹	不明	農業は不検出。溶存酸素、アンモニア態窒素などは生物が生息しにくい水環境とは言えないため、原因は不明。

(12) 県内の公共用水域で発生した魚類へい死事故の原因（過去5年分）

年 度	発生数	発生原因及び発生数				
		急性中毒	急性中毒原因物質	呼吸障害	その他	不明
平成24年	19	1	・フェニトロチオン、プロチオホス、EPN	4	2	12
平成25年	13	2	・メチダチオン ・ペンディメタリン、テトラジホン、マラチオン	4	0	7
平成26年	13	0	—	5	0	8
平成27年	8	1	・メチダチオン	0	0	7
平成28年	16	2	・フェンバレレート ・フェントエート	5	1	8
計	69		6	18	3	42

(13) 水質汚濁に係る環境基準の水域類型指定状況

①河川

基準値単位：mg/L

河川 No.	河川名	水域 No.	環境基準類型指定水域名	類型	基準値 (旧類型)	水域の範囲	達成期間	利用目的	環境基準点	指 定 年月日	※当初指定 年月日	
1	比謝川	1	比謝川 (1)	B	3	比謝橋下流のえん堤から与那原川合流点までと長田川	口	上水道用水	比謝川ポンプ場	H16.3.30	S49.3.4	
		2	比謝川 (2)	C	5	トニー橋から与那原川合流点まで	口	環境保全	トニー橋			
		3	比謝川 (3)	C	5	D	与那原川合流点から上流とハンザ川の昭和橋まで	イ	工業用水			与那原川合流点
2	国場川	4	国場川 (1)	C	5	明治橋から真玉橋まで	口	工業用水	那覇大橋	S49.3.4		
		5	国場川 (2)	E	10	真玉橋から上流の一日橋までと長堂川の翔南製糖取水せきまで	ハ	環境保全	真玉橋			
3	満名川	6	満名川 (1)	A	2	B	伊野波川合流点から渡久地橋まで	イ	そのほか	渡久地橋	S50.3.6	
		7	満名川 (2)	A	2	イ	伊野波川合流点から上流	口	農業用水	伊野波川合流点		
4	福地川	8	福地川	A	2	福地ダム及び福地川上流	イ	上水道用水	福地ダム	S50.3.6		
5	天願川	9	天願川 (1)	B	3	C	川崎ポンプ場えん堤から河口まで	イ	工業農業用水	河口	S50.9.18	
		10	天願川 (2)	B	3	川崎ポンプ場えん堤より上流と川崎川上流カニカラン川合流点まで	口	上水道用水	合流点下流100m			
6	漢那川	11	漢那川	A	2	沖縄県企業局取水場跡から上流	イ	水道用水	漢那ダム	S51.3.18		
7	羽地大川	12	羽地大川	A	2	川上橋下せきから上流	イ	水道農業用水	名護市取水点	S51.3.18		
8	我部祖河川	13	我部祖河川 (1)	A	2	喜知留川合流点から上流	イ	水道用水	石橋 (山田橋)	S51.3.18		
		14	我部祖河川 (2)	A	2	D	喜知留川合流点から下流の奈佐田川合流点まで	イ	農業用水			奈佐田川合流点から上流100m
		15	我部祖河川 (3)	A	2	奈佐田川全域	口	水道用水	奈佐田川合流点から支川上流100m			
9	新川川	16	新川川 (1)	A	2	河口から新川ダムまで	イ	上水道用水	下流の高江橋	S52.4.25		
		17	新川川 (2)	A	2	新川ダムから上流	イ	水道用水	新川ダム			
10	安波川	18	安波川 (1)	A	2	B	河口から安波小中学校後方堰堤まで	イ	環境保全	安波大橋	S52.4.25	
		19	安波川 (2)	A	2	イ	安波小中学校後方堰堤から上流	イ	自然環境保全	安波小中学校後方		
11	普久川	20	普久川 (1)	A	2	B	安波川合流点から御拝橋上流400mの沢まで	イ	環境保全	御拝橋	S52.4.25	
		21	普久川 (2)	A	2	イ	御拝橋上流400mの沢から上流	イ	水道用水	御拝橋上流420mの沢		
12	汀間川	22	汀間川 (1)	A	2	B	河口から三原小学校前堰堤まで	イ	環境保全	嘉手苧橋から上流200m	S52.4.25	
		23	汀間川 (2)	A	2	イ	三原小学校前堰堤から上流	イ	水道用水	三原小中学校前堰堤上流50mの橋		
13	久茂地川	24	久茂地川	C	5	E	全域	イ	環境保全	泉崎橋	S53.3.15	
14	安里川	25	安里川	D	8	E	全域	イ	環境保全	蔡温橋下流200mの橋	S53.3.15	
15	安謝川	26	安謝川	C	5	E	全域	イ	環境保全	安謝橋	S53.3.15	
16	報得川	27	報得川	E	10	川尻橋から上流	口	環境保全	水位計設置点	S54.4.9		
17	牧港川	28	牧港川	C	5	宇地泊川合流点から上流の陽迎橋までと支川宇地泊川の比屋良川橋まで	イ	環境保全	牧港川取水場跡 宇地泊川取水場跡	S55.6.12		
18	辺野喜川	29	辺野喜川	A	2	辺野喜橋から上流	イ	水道用水	辺野喜橋	S57.7.12		
19	饒波川	30	饒波川	D	8	全域	ハ	農業用水	石火矢橋	S58.7.21		
20	源河川	31	源河川	A	2	全域 (支川も含む。)	イ	水道用水	取水場	S63.3.25		
21	平南川	32	平南川	A	2	全域 (支川も含む。)	イ	水道用水	アザカ橋下流30m	H1.4.25		
22	大保川	33	大保川	A	2	B	大保大橋から上流全域 (支川も含む。)	イ	水道用水	田港橋	H1.4.25	
23	宮良川	34	宮良川	A	2	支川を含む全域 (底原ダムを除く。)	イ	水道用水	平喜名橋	H2.1.16		
24	名蔵川	35	名蔵川	A	2	支川を含む全域	イ	水道用水	石糖取水場前	H2.1.16		
25	雄樋川	36	雄樋川	D	8	全域 (支流も含む。)	口	農業用水 環境保全	前川 (前川橋) 石川橋	H9.2.28		

※水域名下線表記地点は、平成16年度から類型見直し (上位類型に) を行った水域

※平成25年3月12日、比謝川の水域類型指定改正。比謝川 (2) を廃止し、比謝川 (1) 及び比謝川 (3) の2水域の指定に改正。

達成期間の分類は、次のとおりとする。 (1)「イ」は、直ちに達成、(2)「ロ」は、五年以内で可及的速やかに達成、(3)「ハ」は、五年を超える期間で可及的速やかに達成。

②海域

基準値単位：mg/L

海域No.	水域No.	環境基準類型指定水域名	類型	基準値	水域の範囲	達成期間	利用目的	環境基準点	指定期年月日
1	1	中城湾	A	2	勝連半島から南部知念半島に至る沿岸と沖合の離島久高島、津堅島に囲まれた全域	イ	水産資源 水浴	当添海岸 北緯26° 11′ 東経127° 47′ 湾内2 北緯26° 16′ 東経127° 50′ 湾内3 北緯26° 12′ 東経127° 50′	S50.3.6
2	2	与勝海域	A	2	勝連崎、北緯26° 16′ 東経128° 01′、北緯26° 25′ 東経128° 01′、北緯26° 25′ 東経128°、北緯26° 22′ 東経127° 56′、東経127° 56′・海中道路との交差点を結ぶ線と海中道路、勝連半島に囲まれた全域	イ	水産資源 水浴	埋立地西海岸 北緯26° 22′ 東経127° 57′	S50.3.6
3	3	金武湾	A	2	海中道路、海中道路・東経127° 56′、北緯26° 22′ 東経127° 56′、北緯26° 25′ 東経128°の各点と金武岬を結ぶ線とその沿岸に囲まれた全域	イ	水産資源 水浴	天願川河口地先 北緯26° 22′ 東経127° 53′ 石川ビーチ沖 北緯26° 25′ 東経127° 50′ 30″ 湾口中央 北緯26° 25′ 東経127° 58′	S50.3.6
4	4	那覇港海域	A	2	安謝埋立地北側先端、北緯26° 14′ 30″ 東経127° 39′ 30″（自謝加瀬）、北緯26° 13′ 東経127° 38′ 30″（浅ノ瀬）、北緯26° 12′ 30″ 東経127° 38′ 30″（儀間ノ瀬）、北緯26° 12′ 30″・陸地との交差点の各点を結ぶ線とその沿岸に囲まれた海域	口	港湾 水産資源	那覇港沖 北緯26° 13′ 15″ 東経127° 39′ 25″ 那覇港内 北緯26° 12′ 20″ 東経127° 40′ 20″ 那覇新港入口 北緯26° 13′ 50″ 東経127° 40′ 45″ 泊港内 北緯26° 13′ 15″ 東経127° 41′ 05″ 自謝加瀬東 北緯26° 14′ 30″ 東経127° 39′ 45″	S51.3.18
5	5	名護湾海域	A	2	部瀬名岬と名護市と本部町の境界を結ぶ線とその沿岸に囲まれた海域	イ	水産資源	名護海岸 北緯26° 35′ 00″ 東経127° 58′ 30″ 湾内 北緯26° 34′ 00″ 東経127° 57′ 00″ 部間海岸 北緯26° 36′ 00″ 東経127° 54′	S51.3.18
6	6	宮古海域 平良港海域	A	2	北緯24度48分48秒、東経125度17分を中心とする半径3.5kmの円内の海域	口	港湾 水産資源 水浴	第3埠頭北端から北へ300m 北緯24° 48′ 25″ 東経125° 16′ 34″	S52.4.25
7	7	八重山海域 石垣港海域	A	2	川ハナ三角点（北緯24度20分48秒、東経124度8分52秒）から方位角253度10分の向きに距離420mの地点を中心とする半径3.8kmの円内の海域	口	港湾 水産資源 水浴	浜崎地区南埠頭埋立予定地から西へ300m 北緯24° 20′ 03″ 東経124° 08′ 38″	S52.4.25
8	8	川平湾海域	A		点イと点ロを結ぶ直線、点ハと基点2を結ぶ直線及びその沿岸に囲まれた海域	イ	水産資源	小島南先端と双葉地先を結ぶ線上の中心点 北緯24° 27′ 00″ 東経124° 08′ 50″	S52.4.25
9	9	羽地内海 (1)	B	3	沖縄本島沿岸、奥武橋、奥武島沿岸、直線A1及び直線A2に囲まれた区域	口	水産資源	仲尾次漁港西埠頭から北西100m 北緯26° 37′ 30″ 東経128° 01′ 40″ 呉我船揚場から北400m 北緯26° 37′ 45″ 東経128° 00′ 30″	S57.6.3
	10	羽地内海 (2)	A	2	沖縄本島沿岸、直線A1、直線A2、奥武島、屋我地大橋、屋我地島沿岸及び直線Bに囲まれた区域	イ	水産資源	羽地内海中央 北緯26° 38′ 40″ 東経128° 00′ 45″ 内海北水路南端 北緯26° 39′ 25″ 東経127° 59′ 40″	S57.6.3

海域No.	水域No.	環境基準類型指定水域名	類型	基準値	水域の範囲	達成期間	利用目的	環境基準点	指 定年月日
10	11	糸満海域	A	2	北緯26° 09' 00" 東経127° 40' 11"、北緯26° 09' 00" 東経127° 38' 23"、北緯26° 06' 09" 東経127° 38' 23"、北緯26° 06' 09" 東経127° 39' 49" の各点を結ぶ線とその沿岸に囲まれた海域	イ	港湾 水産資源	糸満漁港 北緯26° 07' 33" 東経127° 39' 38" 糸満漁港沖 北緯26° 07' 24" 東経127° 39' 00" 岡波岩東 北緯26° 08' 15" 東経127° 38' 40"	S60. 9. 13
11	12	恩納海域	A	2	読谷村残波岬の北端、北緯26° 32' 29" 東経127° 54' 23" の点、名護市部瀬名岬の西端の各地点を結ぶ線とその沿岸に囲まれた海域	イ	水産資源 水浴	伊武部海岸地先 北緯26° 31' 30" 東経127° 55' 42" 恩納漁港地先 北緯26° 30' 00" 東経127° 51' 26" 富着海岸地先 北緯26° 27' 08" 東経127° 48' 38" 長浜海岸地先 北緯26° 25' 21" 東経127° 44' 26"	H6. 4. 22

(備考)

1. 類型の欄のA, B, C, D及びEには、河川に係るものにあつては昭和46年12月28日付け環境庁告示第59号別表2の1の(1)アの河川の表の類型、海域に係るものにあつては同告示別表2の2アの表の類型を示す。
2. 達成期間の分類は次のとおりとする。
「イ」は、直ちに達成
「ロ」は、5年以内で可及的速やかに達成
「ハ」は、5年を超える期間で可及的速やかに達成
3. 川平湾海域の基点及び点の位置
基点1 石垣市字川平地先 俗称 チャバンチキ離
基点2 石垣市大字川平小字仲筋1131-8地先の岩
点イ 基点1から123度9分412mの点
点ロ 基点1から304度1分25mの点
点ハ 基点2から352度36分42mの点
4. 羽地内海の直線
「直線A1」とは奥武島南端から東経128度00分55秒と沖縄本島沿岸との交点(点イ)に引いた直線。
「直線A2」とは点イから北緯26度38分と沖縄本島沿岸との交点に引いた直線。
「直線B」とは点イから北緯26度40分45秒と沖縄本島沿岸との交点と東経128度00分43秒と屋我地島との交点を結ぶ直線。
5. 北緯、東経の座標については、類型指定当時に使用されていた旧測地系(日本測地系)による

(14) 水質汚濁防止法の特定事業場数(各保健所別)

水濁法施行令別表第一の号番号	那覇市		南部保健所		中部保健所		北部保健所		宮古保健所		八重山保健所		小計		
	排水量 50m ³ / 日以上	有害 害	排水量 50m ³ / 日以上	有害 害	排水量 50m ³ / 日以上	有害 害	排水量 50m ³ / 日以上	有害 害	排水量 50m ³ / 日以上	有害 害	排水量 50m ³ / 日以上	有害 害	排水量 50m ³ / 日以上	有害 害	排水量 50m ³ / 日以上
1															
10/2			3	86	4	7	4	46			1	17	12	156	2
2			2	11	3	3	2	2	1		2	2	20	2	
3			1	11	1	1	4	4	3		3	3	13	2	
4				8	2	2	2	6	2		2	2	12		
5			3	8	1	2	3	2	5		6	18	12		
6				2	1	1	1	2	1		2	2	3		
7				56	7	7	25	1	1		3	6	94		
8				1	1	1	1	1	1		1	1	3		
9				10	13	3	15	3	6		13	10	58		
10				5	5	1	6	1	1		1	1	12		
11				5	1	1	1	1	1		1	1	3		
12				5	1	1	1	1	1		1	1	8		
16				5	1	1	1	1	1		1	1	3		
17				5	7	1	25	1	2		3	6	94		
18/2				1	1	1	1	1	1		1	1	3		
19				1	1	1	1	1	1		1	1	3		
20				1	1	1	1	1	1		1	1	3		
22				1	1	1	1	1	1		1	1	3		
23				2	1	1	1	1	1		1	1	2		
23/2				1	1	1	1	1	1		1	1	1		
27				1	1	1	1	1	1		1	1	1		
30				1	1	1	1	1	1		1	1	1		
49				1	1	1	1	1	1		1	1	1		
51				1	1	1	1	1	1		1	1	1		
53				9	7	7	9	2	7		7	7	18		
54				16	15	4	6	1	1		2	7	49		
55				3	1	1	1	1	1		1	1	1		
56				1	1	1	1	1	1		1	1	1		
57				1	1	1	1	1	1		1	1	1		
58				1	1	1	1	1	1		1	1	1		
59				1	1	1	1	1	1		1	1	1		
60				1	3	3	1	1	1		1	1	5		
61				1	1	1	1	1	1		1	1	1		
62				1	1	1	1	1	1		1	1	1		
63				1	1	1	1	1	1		1	1	1		
65/2				3	3	3	3	2	4		4	4	11		
65/3				1	1	1	1	1	1		1	1	1		
64/2				1	1	1	1	2	1		1	1	2		
65				1	1	1	1	1	1		1	1	2		
66				1	1	1	1	1	1		1	1	2		
66/2				7	26	30	45	10	24		15	72	192		
66/3				1	1	2	5	2	4		2	9	2		
66/4				1	1	1	1	1	1		1	1	2		
66/5				3	1	7	1	1	1		2	13	3		
66/6				4	22	5	16	1	4		1	3	1		
66/7				2	4	2	2	2	2		1	3	2		
67				6	2	5	5	1	1		1	1	11		
68				2	4	2	2	1	1		2	2	8		
68/2				2	1	1	1	1	1		2	1	6		
69				1	1	1	1	1	1		1	1	2		
70/2				10	62	62	15	3	3		5	5	164		
71				1	1	3	6	1	3		1	1	35		
71/2				1	1	1	1	1	1		1	1	3		
71/3				1	1	1	4	1	1		1	1	7		
71/4				1	2	1	1	1	1		1	2	2		
72				63	9	64	13	10	6		24	179	322		
73				6	4	3	4	1	1		3	19	3		
74				2	1	1	2	1	1		1	5	2		
				5	1	23	17	206	66		61	141	1009		
				128	6	147	9	271	93		202	8	1,442		
				28	2	335	28	271	93		202	8	1,442		

注 1. 2つ以上の業種を兼業する特定事業場については代表業種に属すとみなし、1つとして計上。
 2. 項目「有害」とは有害物質を排出するおそれがあるものの内数を表す。
 3. 合計欄の()は、有害物質を排出するおそれがあるものの内数を表す。

(15) 水質汚濁防止法に基づく改善命令等の発動状況

年 度	内 訳		命令後の状況
昭 50	改善命令	生コンクリート製造業 1件 電気メッキ業	改善済み 2件
	排水水の排出の 一時停止命令	電気メッキ業 1件	改善済み 1件
昭 51	改善命令	電気メッキ業 1件 と畜業 1件	改善済み 2件
昭 52	改善命令	検査業 1件 写真現像業 1件	改善済み 2件
昭 53	改善命令	飲料製造業 1件	改善済み 9件
		畜産農業 2件	
		果実の保存食料製造業 6件	
昭54~60	なし		
昭 61	改善命令	電気メッキ業 1件	改善済み 1件
昭62~平6	なし		
平 7	改善命令	食料品製造業 1件	改善済み 1件
平 8~9	なし		
平 10	改善命令	旅館業 1件	改善済み 1件
平11~23	なし		
平 24	改善命令	食料品製造業 1件	改善済み 1件
平 25~28	なし		

4 化学物質関係(ダイオキシン類)

(1) 大気環境

調査地点	夏	秋	冬	3回平均値	環境基準
	(pg-TEQ/m ³)				
1 石垣市役所	0.0046	0.0038	0.0054	0.0046	0.6 pg-TEQ/m ³ (年平均値)
2 沖縄県北部合同庁舎	0.0083	0.0068	0.0059	0.0070	
3 沖縄市農研センター	0.027	0.050	0.016	0.031	
4 南風原町中央公民館	0.0078	0.0045	0.0078	0.0067	
5 宮古島市役所	0.0043	0.0034	0.0042	0.0040	
			平均値	0.011	
			最大値	0.050	
			最小値	0.0034	

(2) 公共用水域(水質、底質)

調査地点	水質 (pg-TEQ/L)	環境基準(水質)	底質	環境基準(底質)
1 我部祖河川奈佐田川合流点から上流100m	0.17	1 pg-TEQ/L	0.55	150 pg-TEQ/g
2 比謝川ヨナバル川合流点	0.44		0.80	
3 報得川水位計設置点	0.060		0.83	
4 名蔵川石糖取水場前	0.16		0.29	
全体平均値	0.21		0.62	
全体最大値	0.44		0.83	
全体最小値	0.060		0.29	

(3) 地下水

調査地点	地下水 (pg-TEQ/L)	環境基準
1 伊平屋村 シンジャガー	0.032	1 pg-TEQ/L
2 伊是名村 ウフルガー	0.027	
3 読谷村 古堅ガー	0.020	
4 嘉手納町 ヌールガー	0.020	
5 北谷町 ホースガー	0.038	
6 北中城村 アガリヌカー	0.024	
7 中城村 ウブガー	0.035	
	平均値	0.028
	最大値	0.038
	最小値	0.020

(4) 土壌(一般環境)

一般環境	土壌 (pg-TEQ/g)	環境基準
1 伊平屋村 田名ふれあい広場	0.079	1000 pg-TEQ/g
2 伊是名村 勢理客農村公園	0.60	
3 読谷村 座喜味城跡公園	0.63	
4 嘉手納町 道の駅嘉手納	12	
5 北谷町 桑江総合運動公園	1.1	
6 北中城村 若松公園	0.13	
7 中城村 中城中学校	1.5	
	平均値	2.3
	最大値	12
	最小値	0.079

(5) 土壌(発生源周辺)

発生源周辺	土壌 (pg-TEQ/g)	環境基準
1 嘉手納町 嘉手納町民の家	2.5	1000 pg-TEQ/g
2 嘉手納町 嘉手納町陸上競技場	3.8	
3 嘉手納町 嘉手納町運動公園野	0.23	
4 嘉手納町 嘉手納町リサイクルセンター	12	
5 嘉手納町 嘉手納町葬斎場	3.1	
	平均値	4.3
	最大値	12
	最小値	0.23

5 騒音・振動・悪臭関係

(1) 騒音規制法に基づく特定施設の届出状況 (平成28年度末現在)

(単位：件)

特定施設の種類	名護市	うるま市	沖縄市	宜野湾市	浦添市	那覇市	豊見城市	南城市	糸満市	宮古島市	石垣市	本部町	嘉手納町	北谷町	西原町	南風原町	与那原町	八重瀬町	読谷村	北中城村	中城村	合計
金属加工機械	0	16	6	13	150	34	11	0	2	0	0	0	0	0	18	3	0	0	0	0	13	266
空気圧縮機等	6	431	318	298	285	632	110	0	25	0	0	0	6	10	99	19	2	0	0	6	19	2,266
土石用破砕機等	0	4	10	0	0	0	0	0	5	2	0	0	0	0	3	0	2	0	0	0	0	26
織機	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
建設用資材製造機械	0	5	3	2	2	3	8	0	3	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	34
穀物用製粉機	0	57	9	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	84
木材加工機械	0	7	4	0	1	6	6	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	2	0	34
抄紙機	0	0	0	2	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	22
印刷機	0	0	0	12	10	7	0	0	17	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	52
合成樹脂用射出成型機	0	1	1	0	0	0	0	0	21	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	25
鋳造型機	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定施設総数	6	521	351	345	448	682	135	0	92	2	0	0	14	10	131	28	4	0	0	10	32	2,811
特定工場等総数	5	146	73	84	125	86	31	0	69	2	0	0	10	4	29	8	1	0	0	8	7	688

(2) 騒音規制法に基づく特定建設作業の届出状況 (平成28年度末現在)

(単位：件)

特定建設作業の種類	名護市	うるま市	沖縄市	宜野湾市	浦添市	那覇市	豊見城市	南城市	糸満市	宮古島市	石垣市	本部町	嘉手納町	北谷町	西原町	南風原町	与那原町	八重瀬町	読谷村	北中城村	中城村	合計
くい打機等を使用する作業	2	1	2	1	6	10	2		1		2		6	6	7	4	1	2	1	3		57
びょう打機等を使用する作業					1										1							2
さく岩機を使用する作業	1	5	6	7	21	84	4		3		1			2	3	4		1	2	8		152
空気圧縮機を使用する作業		1	1	3	3	2								8	1	2					2	23
コンクリートプラットフォームを設ける作業																					4	4
バックホウを使用する作業		3	3	12	14		2		5	1	1		2	5	3	5	2				5	63
トラクターショベルを使用する作業				2																		2
ブルドーザーを使用する作業																						0
計	3	10	12	25	45	96	8	0	9	1	4	0	8	21	15	15	3	3	3	22	0	303

(3) 平成28年度自動車交通騒音測定結果(市町村実施)

No.	測定地点	環境基準 類型	測定 開始 年月日	測定 終了 年月日	道 路 名	車 線 数	車 道 端 か ら の 距 離	道 路 敷 地 境 界 か ら の 距 離	住 居 等 か ら の 距 離	地 上 高 さ	等価騒音 レベル (dB)		要請限度 値 (dB)		要請 限度 達成 状 況		環 境 基 準		環 境 基 準 達 成 状 況	
											昼 間	夜 間	昼 間	夜 間	昼 間	夜 間	昼 間	夜 間	昼 間	夜 間
1	那覇市長田1-24	A	平成28年12月14日	平成28年12月15日	県道46号線	2	2.5	0.0	4.0	1.2	67	64	75	70	○	○	70	65	○	○
2	那覇市宇栄原5-32	B	平成29年1月24日	平成29年1月25日	県道62号線	2	2.3	0.0	20.3	1.2	67	60	75	70	○	○	70	65	○	○
3	那覇市金城5-2-1	C	平成29年2月1日	平成29年2月2日	那覇内環状線	4	6.9	0.0	45.0	1.2	64	60	75	70	○	○	70	65	○	○
4	那覇市宇寄宮173付近	C	平成28年12月14日	平成28年12月15日	真地久茂地線	4	3.2	0.0	41.4	1.2	68	62	75	70	○	○	70	65	○	○
5	那覇市樋川1-4	C	平成28年12月6日	平成28年12月7日	真地久茂地線	2	4.5	0.0	3.9	1.2	67	63	75	70	○	○	70	65	○	○
6	那覇市宇国場1169-20	B	平成28年12月14日	平成28年12月15日	国場中央線	4	4.4	0.0	24.8	1.2	67	61	75	70	○	○	70	65	○	○
7	宜野湾市伊佐1丁目7	B	平成28年12月13日	平成28年12月14日	県道31号宜野湾北中環線(暫定)	2	0.5	-2.2	7.5	1.3	69	62	75	70	○	○	70	65	○	○
8	宜野湾市大謝宮5丁目3	C	平成28年12月15日	平成28年12月16日	県道34号宜野湾西原線	3	1.5	-2.6	2.0	1.3	68	65	75	70	○	○	70	65	○	○
9	宜野湾市我如古4丁目1	C	平成28年12月6日	平成28年12月7日	県道34号宜野湾西原線(旧道)	2	0.0	0.0	2.0	1.3	63	55	75	70	○	○	70	65	○	○
10	宜野湾市嘉敷4丁目23	A	平成28年11月16日	平成28年11月17日	県道251号那覇宜野湾線	2	6.1	0.0	4.5	1.3	62	56	75	70	○	○	70	65	○	○
11	石垣市宇石垣	C	平成29年2月15日	平成29年2月16日	石垣港伊原間線	2	3.0	0.0	2.5	1.0	62	54	75	70	○	○	70	65	○	○
12	浦添市内間1丁目11	C	平成28年11月14日	平成28年11月15日	県道251号那覇宜野湾線	2	4.9	0.0	4.0	1.3	66	62	75	70	○	○	70	65	○	○
13	浦添市伊祖4丁目1	B	平成28年11月10日	平成28年11月11日	県道251号那覇宜野湾線	2	3.6	0.0	4.5	1.3	64	60	75	70	○	○	70	65	○	○
14	浦添市牧港4丁目1	A	平成28年11月16日	平成28年11月17日	県道251号那覇宜野湾線	2	6.1	0.0	7.0	1.3	62	66	75	70	○	○	70	65	○	×
15	名護市宮里492付近	B	平成28年11月17日	平成28年11月18日	一般国道449号	2	3.0	0.0	19.3	1.2	70	64	75	70	○	○	70	65	○	○
16	糸満市宇北波平	X	平成28年12月7日	平成28年12月8日	県道奥武山米須線	2	6.5	0.0	40.6	1.2	67	59	75	70	○	○	70	65	○	○
17	沖縄市山内4丁目20	B	平成29年1月11日	平成29年1月12日	沖縄北谷線	4	3.5	0	20.7	1.2	65	58	75	70	○	○	70	65	○	○
18	沖縄市東2丁目3	C	平成29年1月17日	平成29年1月18日	沖縄石川線	4	2.9	0.0	14.3	1.2	66	62	75	70	○	○	70	65	○	○
19	沖縄市高原4丁目17	A	平成29年1月11日	平成29年1月12日	県道22号線	2	3.98	0	4.3	1.2	64	59	75	70	○	○	70	65	○	○
20	沖縄市山里1丁目7	C	平成29年1月11日	平成29年1月12日	県道24号線	2	3.5	0	2.0	1.2	63	58	75	70	○	○	70	65	○	○
21	沖縄市高原5丁目3	B	平成29年1月11日	平成29年1月12日	県道20号線	2	7.61	0	4.1	1.2	64	61	75	70	○	○	70	65	○	○
22	豊見城市宇名嘉地378-9	B	平成29年1月24日	平成29年1月25日	県道62号線	2	2.3	0	20.3	1.2	67	60	75	70	○	○	70	65	○	○
23	豊見城市宇我那覇670	B	平成29年1月25日	平成29年1月26日	県道68号線	4	7.4	0	8.2	1.2	60	51	75	70	○	○	70	65	○	○
24	うるま市勝連平安名1797-1	C	平成28年11月28日	平成28年11月29日	伊計平良川線	2	5.5	0.0	-	1.2	65	58	75	70	○	○	70	65	○	○
25	うるま市喜仲四丁目25-23	B	平成28年11月28日	平成28年11月29日	具志川環状線	2	4.1	0.0	-	1.2	68	60	75	70	○	○	70	65	○	○
26	宮古島市平良159-3	B	平成29年2月8日	平成29年2月9日	平良久松港線	2	3.0	0.0	5.3	1.2	59	56	75	70	○	○	70	65	○	○
27	宮古島市平良350	C	平成29年2月8日	平成29年2月9日	高野西里線	2	4.8	0.0	5.0	1.2	62	54	75	70	○	○	70	65	○	○
28	南城市大里仲間438	B	平成28年10月26日	平成28年10月27日	県道86号南風原知念線	2	2.6	0.0	50.0	1.3	66	59	75	70	○	○	70	65	○	○
29	南城市大里大城2005-1	B	平成28年10月24日	平成28年10月25日	県道86号南風原知念線	2	5.6	0.0	3.0	1.3	63	54	75	70	○	○	70	65	○	○
30	嘉手納町宇嘉手納50-3	C	平成28年12月8日	平成28年12月9日	国道58号線	4	4.4	0.0	4.3	1.2	66	60	75	70	○	○	70	65	○	○
31	嘉手納町宇水釜155-2	B	平成28年12月8日	平成28年12月9日	水釜大木線	2	2.3	0.0	1.0	1.2	64	61	75	70	○	○	65	60	○	×
32	嘉手納町宇屋良1058-1	C	平成28年12月8日	平成28年12月9日	久得牧原線	2	2.5	1.0	-	1.2	69	63	75	70	○	○	65	60	×	×
33	嘉手納町屋良1-2-12	B	平成28年12月8日	平成28年12月9日	県道74号線	4	6.3	0.0	2.1	1.2	67	61	75	70	○	○	70	65	○	○
34	北谷町宇吉原1188番地1	B	平成28年11月24日	平成28年11月25日	県道24号線	2	2.2	1.0	1.2	1.2	66	60	75	70	○	○	70	65	○	○
35	北谷町宇上勢頭820番地6	B	平成28年11月24日	平成28年11月25日	県道23号線	4	3.4	0.0	4.0	1.2	67	60	75	70	○	○	70	65	○	○
36	北中城村宇屋原245番地7	B	平成29年2月21日	平成29年2月22日	国道330号線	4	4.4	1.8	2.0	1.2	71	66	75	70	○	○	70	65	×	×
37	北中城村宇渡口84番地1	B	平成29年2月21日	平成29年2月22日	国道329号線	4	2.0	0.0	2.0	1.2	66	61	75	70	○	○	70	65	○	○
38	中城村宇南上原948	B	平成29年3月27日	平成29年3月28日	県道29号線	2	4.2	1.0	9.5	1.2	68	62	75	70	○	○	70	65	○	○
39	中城村宇添石297	B	平成29年3月27日	平成29年3月28日	国道328号	4	1.5	0.5	2.7	1.2	71	64	75	70	○	○	70	65	×	○
40	与那原町	C	平成28年12月6日	平成28年12月7日	国道329号	4	1.0	0.0	1.0	1.2	65	60	75	70	○	○	70	65	○	○
41	与那原町	B	平成28年12月6日	平成28年12月7日	県道77号線	4	11.5	0.0	3.0	1.2	58	49	75	70	○	○	70	65	○	○
42	南風原町宇津嘉山1321番地1	B	平成29年3月9日	平成29年3月10日	国道507号線	4	5.0	0.0	-	1.2	65	60	75	70	○	○	70	65	○	○
43	南風原町宇宮平666番地1	C	平成29年3月9日	平成29年3月10日	国道329号線	4	1.9	0.0	-	1.2	69	63	75	70	○	○	70	65	○	○
44	南風原町宇兼城603番地	C	平成29年3月9日	平成29年3月10日	国道329号線	4	2.0	0.0	-	1.2	68	62	75	70	○	○	70	65	○	○

(4) 平成28年度自動車交通騒音測定結果 (面的評価)

地点番号	評価対象道路				評価区間	測定地点の住所 ※2	測定地点の 等価騒音レベル (dB)		騒音測定 年度	評価区 間の延 長 (km)	環境基準達成戸数(戸)・環境基準達成確率(%)									
	(1) 路線 名	(2) 車 線 数	(3) 環 境 基 準 類 型 ※1	(4) 遮 音 壁 等 の 有 無			(5) 低 騒 音 舗 装 の 有 無	昼間			夜間	評価 対象 住居等 戸数	昼間・夜間と も 基準値以下		昼間のみ 基準値超過		夜間のみ 基準値超過		昼間・夜間と も 基準値超過	
													(戸)	(%)	(戸)	(%)	(戸)	(%)	(戸)	(%)
1	国道331号	4	B	無	無	南城市・与那原町境～糸満与那原線	与那原町板良敷1363	71	65	H28	2.2	822	699	100	0	0.0	123	0.0	0	0.0
2	国道331号	4	C	無	無	糸満与那原線～一般国道329号	与那原町与那原364-1	66	61	H28	0.6	346	346	100	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	国道449号	4	A	無	無	一般国道505号～名護本部線	本部町浜元234	69	58	H28	1.7	153	142	100	0	0.0	11	0.0	0	0.0
4	国道507号	4	B	無	無	一般国道507号～八重瀬町・南風原町境	八重瀬町友寄891-1	68	62	H28	0.7	29	29	95.5	0	0.0	0	0.0	0	4.5
5	国道507号	4	B	無	無	八重瀬町・南風原町境～那覇糸満線	-	-	-	-	1.1	26	26	100	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	国道507号	4	B	無	無	那覇糸満線～南風原町・那覇市境	南風原町津嘉山441	67	59	H28	2.1	245	245	100	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7	那覇北中城線	2	-	無	無	県道32号線～那覇北中城線	中城村南上原4	68	62	H28	2.5	224	223	100	0	0.0	1	0.0	0	0.0
8	那覇北中城線	2	B	無	無	宜野湾西原線～西原町・中城村境	-	-	-	0.3	11	11	100	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
9	那覇北中城線	2	B	無	無	西原町・中城村境～県道32号線	中城村南上原1018	67	62	H28	1.5	720	717	99.3	0	0.0	1	0.7	2	0.0
10	那覇北中城線	2	-	無	無	県道35号線～宜野湾市・北中城村境	中城村新垣1637-1	68	61	H28	1.6	109	109	100	0	0.0	0	0.0	0	0.0
11	名護本部線	2	B	無	無	渡久地港線～一般国道449号	本部町渡久地764	64	54	H28	0.6	23	23	100	0	0.0	0	0.0	0	0.0
12	南風原与那原線	2	B	無	無	国道329号南風原バイパス～南風原町・与那原町境	南風原町宮平460-1	70	65	H28	2.9	266	265	100	0	0.0	0	0.0	1	0.0
13	南風原与那原線	2	B	無	無	南風原町・与那原町境～一般国道329号	与那原町上与那原416-1	65	60	H28	0.5	146	146	100	0	0.0	0	0.0	0	0.0
												3120								

※1 環境基準類型のあてはめがない地点は「-」とし、Bの基準を当てはめた。

※2 「測定地点の住所」の欄に「-」の記載がある場合の「基準点の等価騒音レベル」の欄については、他の評価区間における測定結果を準用した。

(5) 振動規制法に基づく特定施設の届出状況 (平成28年度末現在)

(単位：件)

特定施設の種類	名護市	うるま市	沖縄市	宜野湾市	浦添市	那覇市	豊見城市	南城市	糸満市	宮古島市	石垣市	本部町	嘉手納町	北谷町	西原町	南風原町	与那原町	八重瀬町	読谷村	北中城村	中城村	合計
金属加工機械	0	7	5	1	144	0	11	0	1	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	175
圧縮機	4	45	87	79	154	19	56	0	0	2	0	0	2	5	8	7	2	0	0	3	10	483
破碎機等	0	3	4	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	13
織機	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
コンクリートブロックマシン等	0	0	1	0	2	0	7	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
木材加工機械	0	0	2	0	1	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	11
印刷機械	0	0	0	0	10	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	17
ゴム練用又は合成樹脂練用ロール機	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合成樹脂用射出成型機	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
鋳造機	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
特定施設総数	4	57	99	80	311	19	80	0	4	5	0	0	2	5	14	16	2	0	0	5	10	713
特定工場等総数	2	16	37	16	104	45	24	0	4	4	0	0	2	3	8	5	1	0	0	5	2	278

(6) 振動規制法に基づく特定建設作業施設の届出状況 (平成28年度末現在)

(単位：件)

特定施設の種類	名護市	うるま市	沖縄市	宜野湾市	浦添市	那覇市	豊見城市	南城市	糸満市	宮古島市	石垣市	本部町	嘉手納町	北谷町	西原町	南風原町	与那原町	八重瀬町	読谷村	北中城村	中城村	合計
くい打機等を使用する作業	8	8	8	3	8	21	11		13		2			11	16	6	4	6	1	7	3	136
鋼球を使用して破壊する作業																						0
舗装版破碎機を使用する作業				4																		4
ブレーカーを使用する作業	1	4	9	12	23	64	3		6	2	2			8	4	6	2	1	2	8		157
計	9	12	17	19	31	85	14	0	19	2	4	0	0	19	20	12	6	7	3	15	3	297

6 土壌・地下水・地盤関係

(1) 平成28年度 地下水質測定結果 (概況調査)

(単位: mg/L)

市 町 村 名		伊平屋村	伊是名村	読谷村	嘉手納町	北谷町	北中城村	中城村
地 区 名		田名	仲田	古堅	屋良	吉原	大城	泊
採 水 年 月 日		H28. 9. 8	H28. 9. 8	H28. 9. 13	H28. 12. 22	H28. 9. 6	H28. 9. 13	H28. 9. 13
pH	環境基準値	6.0	5.3	7.1	7.9	7.1	7.9	7.4
	カドミウム	0.003以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
全シアン	検出されないこと	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
鉛	0.01以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
六価クロム	0.05以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
砒素	0.01以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
総水銀	0.0005以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
アルキル水銀	検出されないこと	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
PCB	検出されないこと	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
ジクロロメタン	0.02以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
四塩化炭素	0.002以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
クロロエチレン (塩化ビニルモノマー)	0.002以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
1,2-ジクロロエタン	0.004以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
1,1-ジクロロエチレン	0.1以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
1,2-ジクロロエチレン	0.04以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
1,1,1-トリクロロエタン (MC)	1以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
1,1,2-トリクロロエタン	0.006以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
トリクロロエチレン(TCE)	0.01以下	不検出	不検出	不検出	0.0043	不検出	不検出	不検出
テトラクロロエチレン(PCE)	0.01以下	不検出	不検出	不検出	0.0006	不検出	不検出	不検出
1,3-ジクロロプロパン	0.002以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
チラウム	0.006以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
シマジン	0.003以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
チオベンカルブ	0.02以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
ベンゼン	0.01以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
セレン	0.01以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10以下	不検出	0.26	5.5	1.2	3.2	0.25	0.21
ふっ素	0.8以下	0.06	0.05	不検出	0.05	0.07	不検出	0.18
ほう素	1以下	0.02	0.02	0.03	0.02	0.04	0.03	0.03
1,4-ジオキサン	0.05以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出

(2) 平成28年度 地下水質測定結果 (継続監視調査) (単位: mg/L)

市町村	字	項目 採水日	砒素	トリクロ エチレン	テトラクロ エチレン	1,1,1-ト リクロエタン	クロロエ チレン (塩化ビ ニル/マー)	ほう素	硝酸性窒素 及び 亜硝酸性窒 素
			基準値 0.01 以下	0.01 以下	0.01 以下	1以下	0.002 以下	1以下	10以下
浦添市	屋富祖	H28. 9. 20	0.10	—	—	—	—	—	—
	当 山	H28. 9. 20	0.037	—	—	—	—	—	—
豊見城市	高 嶺	H28. 9. 20	—	不検出	不検出	不検出	不検出	—	—
沖縄市	与 儀	H28. 10. 12	0.004	—	—	—	—	—	—
北谷町	桑 江	H28. 10. 12	0.032	—	—	—	—	—	—
嘉手納町	屋 良	H28. 10. 12	—	0.0087	0.0009	不検出	不検出	—	—
読谷村	楚 辺	H28. 11. 14	0.004	—	—	—	—	0.30	—
うるま市	石川	H28. 10. 12	0.008	—	—	—	—	—	—
	与那城屋慶名	H28. 10. 12	0.009	—	—	—	—	—	—
恩納村	谷 茶	H28. 9. 20	0.004	—	—	—	—	—	—
宮古島市	伊良部仲地	H28. 11. 7	—	—	—	—	—	—	5.6
石垣市	登野城	H28. 8. 9	—	不検出	不検出	不検出	不検出	—	—

* 網掛けは基準超過

7 赤土関係

(1) 底質中懸濁物質含量 (SPSS) 測定結果 (定点観測調査結果)

単位: kg/m³

調査海域	調査地点	平成 24 年度			平成 25 年度			平成 26 年度			平成 27 年度			平成 28 年度		
		第1回調査	第2回調査	第3回調査	第1回調査	第2回調査	第3回調査	第1回調査	第2回調査	第3回調査	第1回調査	第2回調査	第3回調査	第1回調査	第2回調査	第3回調査
平南川 河口	調査日	H24.6.29	H24.11.10	H25.1.30	H25.6.25	H25.12.6	H26.1.29	H26.7.2	H26.11.28	H27.2.7	H27.6.29	H27.11.12	H28.2.4	H28.6.26	H28.11.5	H29.2.8
	013-No.1	16.9	2.4	2.7	70.7	3.6	2.9	47.6	7.0	28.6	22.3	9.9	8.1	283.0	2.3	0.4
	013-No.2	42.0	1.6	2.7	195.0	8.0	2.4	237.4	8.6	8.9	70.3	7.3	6.9	396.2	26.9	1.8
	013-No.3	17.4	2.0	1.6	4.3	1.9	3.5	8.5	7.3	8.0	4.1	4.4	7.5	30.1	8.8	6.4
	幾何平均	23.1	2.0	2.3	39.0	3.8	2.9	45.8	7.6	12.7	18.6	6.8	7.5	150.0	8.2	1.7
源河川 河口	調査日	H24.6.29	H24.11.10	H25.1.30	H25.6.25	H25.12.6	H26.1.29	H26.7.2	H26.11.28	H27.2.7	H27.6.29	H27.11.12	H28.2.4	H28.6.26	H28.11.5	H29.2.8
	035-No.1	45.8	5.1	6.4	21.7	18.5	11.1	25.1	18.6	8.2	41.6	15.1	9.6	48.4	17.3	2.2
	035-No.2	119.0	23.9	28.0	308.0	28.6	19.9	319.6	40.3	22.9	91.6	48.1	41.1	336.9	31.8	6.4
	035-No.3	7.2	2.9	2.3	3.6	3.8	2.5	5.5	7.4	2.4	9.1	4.3	6.3	39.3	3.8	1.1
	幾何平均	34.0	7.1	7.4	28.9	12.6	8.2	35.3	17.7	7.7	32.6	14.6	13.5	86.2	12.8	2.5
平良川 河口	調査日	H24.6.28	H24.11.9	H24.1.29	H25.6.25	H25.11.28	H26.1.31	H26.7.1	H26.12.1	H27.2.12	H27.7.1	H27.12.1	H28.2.8	H28.6.29	H28.11.19	H29.1.30
	016-01	79.9	10.3	83.2	93.3	40.8	34.7	84.5	32.4	38.5	96.8	48.8	48.3	516.4	110.3	75.1
	016-02	77.0	105.0	82.2	107.9	105.0	52.5	60.4	32.0	149.0	175.3	68.6	82.1	375.4	70.3	89.6
	016-03	45.9	17.7	41.3	100.0	70.7	96.3	100.7	29.5	36.3	55.4	32.6	45.0	492.2	30.2	96.7
	幾何平均	65.6	26.8	65.6	100.2	67.2	56.0	80.1	31.3	59.3	98.0	47.8	56.3	457.0	61.6	86.7
恩納村 赤瀬海域	調査日	H24.6.26	H24.12.11	H25.2.4	H25.6.26	H25.12.7	H26.1.30	H26.7.1	H26.11.29	H27.2.11	H27.6.26	H27.11.13	H28.2.9	H28.7.5	H28.11.8	H29.2.4
	039-No.1	73.7	2.6	17.9	35.9	14.1	7.4	45.1	16.8	11.6	48.8	35.6	2.3	27.7	6.2	1.8
	039-No.2	75.1	0.9	2.0	18.9	2.1	2.1	35.0	2.1	1.3	48.4	4.2	1.2	14.4	1.2	1.2
	039-No.3	37.1	1.2	2.9	18.3	6.8	6.3	33.6	7.0	5.5	43.1	13.8	1.9	7.7	6.0	1.6
	幾何平均	59.0	1.4	4.7	23.2	5.9	4.6	37.6	6.3	4.4	46.7	12.7	1.7	14.5	3.5	1.5
漢那中港 川河口	調査日	H24.6.28	H24.12.7	H25.1.30	H25.7.1	H25.11.29	H26.2.20	H26.7.3	H26.11.27	H27.2.9	H27.6.23	H27.12.11	H28.2.3	H28.7.5	H28.11.1	H29.2.2
	043-01	49.7	18.0	46.9	62.7	19.7	279.7	243.9	118.6	332.4	113.1	81.5	47.9	45.0	15.7	18.9
	043-No.2	34.3	9.9	4.6	3.5	2.3	10.4	28.0	10.3	4.5	23.5	7.7	8.2	44.3	12.2	61.7
	043-No.3	44.8	248.5	98.5	16.1	23.1	20.1	18.0	14.6	9.0	31.2	8.6	6.2	50.7	22.5	6.7
	幾何平均	42.4	35.4	27.7	15.2	10.2	38.8	49.7	26.1	23.8	43.6	17.5	13.5	46.6	16.3	19.8
加武川 河口	調査日	H24.7.1	H24.11.6	H25.1.28	H25.6.26	H25.12.5	H26.2.20	H26.7.3	H26.11.27	H27.2.9	H27.6.29	H27.11.13	H28.2.3	H28.7.3	H28.11.1	H29.1.30
	048-No.1	35.6	13.7	71.9	21.7	19.7	12.2	46.2	43.2	20.4	15.3	60.9	21.2	17.9	82.8	58.4
	048-No.2	21.8	18.3	23.6	12.0	30.1	14.6	56.3	46.2	30.9	126.7	19.4	12.4	27.1	22.1	27.2
	048-No.3	47.0	36.1	15.5	93.8	57.7	46.0	49.5	29.5	20.3	15.9	93.9	69.0	62.1	36.5	69.5
	幾何平均	33.2	20.8	29.7	29.0	32.5	20.2	50.5	38.9	23.4	31.4	48.1	26.3	31.1	40.6	48.0
石川川 河口	調査日	H24.7.1	H24.11.6	H25.1.28	H25.7.1	H25.12.5	H26.2.20	H26.7.1	H26.12.6	H27.2.11	H27.6.30	H27.11.27	H28.2.2	H28.7.2	H28.11.22	H29.2.9
	055-No.1	870.0	818.0	1041.0	615.3	699.7	873.5	737.3	703.0	737.3	1015.3	952.5	859.3	624.0	1095.1	1148.6
	055-No.2	23.4	9.3	26.1	18.5	9.8	7.0	43.5	43.5	6.1	25.1	14.2	14.4	79.0	27.0	7.4
	055-No.3	171.0	58.0	95.3	80.9	91.6	51.4	61.5	346.5	344.0	81.8	95.2	65.8	123.1	106.0	65.0
	幾何平均	151.6	76.1	137.3	97.3	85.6	68.0	125.4	219.6	115.7	127.7	108.8	93.4	182.4	146.3	82.1
アーン島 海域	調査日	H24.6.27	H24.11.7	H25.1.31	H25.7.3	H25.12.7	H26.2.21	H26.7.2	H26.12.5	H27.2.10	H27.6.26	H27.12.11	H28.2.9	H28.7.5	H28.11.8	H29.1.25
	068-No.1	78.5	23.8	26.1	79.8	36.5	47.4	81.1	73.1	65.0	149.0	95.2	54.3	194.5	67.5	104.1
	068-No.2	42.3	29.6	29.8	64.6	55.2	47.4	76.6	29.8	63.5	69.5	49.6	36.6	41.8	36.3	61.6
	068-No.3	43.8	31.5	26.9	70.6	35.6	59.6	39.1	52.5	17.9	56.2	47.7	63.0	65.6	34.6	68.1
	幾何平均	52.6	28.1	27.6	71.4	41.5	51.2	62.4	48.5	42.0	83.5	60.8	50.0	81.1	43.9	75.9
大度 海岸	調査日	H24.6.27	H25.12.6	H25.1.31	H25.7.3	H25.11.21	H26.2.21	H26.7.2	H26.12.2	H27.2.10	H27.6.25	H27.11.26	H28.2.1	H28.6.28	H28.11.2	H29.1.21
	066-No.1	7.2	5.2	9.1	86.8	12.1	9.1	27.2	7.8	5.5	8.1	13.3	6.6	55.4	13.3	9.0
	066-No.2	6.6	8.3	13.0	13.4	8.6	19.6	26.6	14.4	15.2	18.1	15.9	10.2	29.0	11.6	18.6
	066-No.3	9.2	14.7	12.1	26.2	18.3	15.8	29.5	10.4	20.8	21.9	8.3	18.5	24.1	10.0	9.3
	幾何平均	7.6	8.6	11.3	31.2	12.4	14.1	27.7	10.5	12.0	14.8	12.1	10.8	33.8	11.6	11.6
宮良川 河口	調査日	H24.6.28	H24.11.27	H25.1.30	H25.6.22	H25.12.2	H26.2.21	H26.6.28	H26.12.12	H27.2.9	H27.6.25	H27.12.3	H28.2.11	H28.6.25	H28.10.29	H29.1.31
	094-No.1	30.3	55.3	150.6	53.7	62.2	49.3	88.9	63.8	19.6	40.3	50.4	74.9	66.1	23.0	44.1
	094-02	563.0	737.3	160.9	700.7	98.3	238.2	583.6	137.7	101.7	89.2	238.9	329.1	199.6	129.1	59.0
	幾何平均	130.6	201.9	155.7	194.0	78.2	108.4	227.8	93.7	44.6	60.0	109.7	157.0	114.9	54.5	51.0
	調査日	H24.6.28	H24.11.23	H25.1.30	H25.6.23	H25.12.3	H26.2.2	H26.6.28	H26.12.13	H27.2.10	H27.6.26	H27.12.4	H28.2.9	H28.6.26	H28.10.29	H29.2.2
095-No.1	24.6	59.5	62.7	44.5	21.8	69.5	35.0	79.3	38.1	31.4	40.2	54.7	37.3	25.1	26.9	
095-No.2	159.0	31.9	65.4	246.3	13.3	56.0	101.3	70.7	36.4	55.4	25.1	55.2	33.6	14.7	14.3	
095-No.3	21.8	18.3	32.8	16.0	13.7	17.5	68.6	13.5	13.3	13.2	21.2	16.6	44.1	13.0	15.4	
098-No.4	25.6	15.0	45.3	28.9	15.3	37.0	48.1	26.2	18.6	13.9	20.5	17.5	37.3	26.4	13.0	
幾何平均	38.4	26.9	49.7	47.4	15.7	39.8	58.5	37.5	24.2	23.8	25.7	30.6	37.9	18.9	16.7	
阿嘉島 海域	調査日		H24.11.20			H25.11.7			H26.12.24			H27.12.19			H28.11.15	
	110-No.1		10.9			4.7			11.9			12.8			11.7	
	110-No.2		17.8			3.6			5.8			8.9			4.8	
	幾何平均		13.9			4.1			8.3			10.7			7.5	

(2) サンゴ調査結果概要（定点観測調査結果）

調査区域	生息環境	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		主な出現種（H28年度）
		種類数	被度(%)	種類数	被度(%)	種類数	被度(%)	種類数	被度(%)	種類数	被度(%)	種類数	被度(%)	
平南川 河口	No.2 水深5m岩盤	8	10.0	5	9.0	5	9.0	2	5.0	4	5.0	3	2.0	ハマサンゴ属(塊状)、カボクアサンゴモドキ(被覆状)、コメノキメイト(塊状)
	No.3 水深4m岩盤	11	3.0	10	3.0	9	3.0	10	3.0	11	3.0	11	5.0	ムカンサンゴ(被覆状)、ハマサンゴ属(塊状)、キメイト属(塊状)、カメノキメイト属(塊状)
源河川 河口	No.1 水深3m岩盤	10	3.0	10	3.0	12	4.0	11	4.0	11	4.0	10	4.0	コンサンゴ属(塊状)、ハマサンゴ属(塊状)、アミサンゴ(被覆状)、キメイト属(塊状)
	No.3 水深2m岩盤	7	1.0	4	1.0	4	1.0	3	1.0	4	1.0	3	0.1	ハマサンゴ属(塊状)、トゲキメイト属(被覆・塊状)、スリハサンゴ(葉状)
平良川 河口	No.2 水深4m岩盤	18	5.0	20	6.0	21	6.0	20	6.0	22	6.0	21	6.0	ユビエダハマサンゴ(樹枝状)、ハマサンゴ属(塊状)、アミサンゴ(塊状)、ホダノサンゴ(塊状)
	No.3 水深3.5m岩盤	4	1.0	4	1.0	4	1.0	1	1.0	1	1.0	1	0.1	ハマサンゴ属(塊状)
赤瀬 海域	No.2 水深2.5m岩盤	7	5.0	7	9.0	7	15.0	4	45.0	4	45.0	3	85.0	コンサンゴ属(樹枝状)、ミドリシ属(樹枝状)、アサンゴモドキ属(被覆状)
	No.3 水深2m岩盤	7	15.0	8	1.0	8	22.0	7	35.0	7	35.0	6	50.0	ムカンサンゴ属(被覆状)、コンサンゴ属(樹枝状)、コンサンゴ属(被覆状)、ハマサンゴ属(塊状)
漢那中港 川河口	No.1 水深1.5m岩盤	4	8.0	3	8.0	2	8.0	2	8.0	2	8.0	2	8.0	カメノキメイト(塊状)、キメイトモドキ(塊状)
	No.3 水深2.5m岩盤	5	0.2	3	0.2	2	0.1	2	0.1	2	0.1	3	0.1	ハマサンゴ属(塊状) ハヤサヤサンゴ(樹枝状)、アミサンゴ(塊状)
加武川 河口	No.2 水深2m岩盤	6	0.8	8	0.8	8	0.8	5	0.8	4	0.8	7	1.0	ハマサンゴ属(塊状)、ウスキメイト(塊状)、ハラハツサンゴ(塊状)、ムサンゴ属(塊状) キメイト属(塊状)
	No.3 水深1.5m岩盤	5	4.0	4	4.0	7	3.0	8	3.0	7	3.0	7	3.0	ハマサンゴ属(塊状)、キメイト属(塊状)、ムサンゴ属(塊状)、トゲキメイト(塊状)、カメノキメイト(塊状)
石川川 河口	No.2 水深2m岩盤	2	3.0	2	3.0	2	3.0	2	2.0	2	2.0	2	2.0	ハマサンゴ属(塊状)、ゴカキメイト(塊状)
	No.3 水深5m岩盤	10	19.0	10	19.0	10	19.0	10	19.0	10	19.0	9	27.0	ムカンサンゴ属(被覆状)、アサンゴ属(塊状)、ハマサンゴ属(塊状)、トゲリコサンゴ(葉状)
アージ島 海域	No.2 水深1m砂地	1	0.1	1	0.1	1	0.1	1	0.1	1	0.1	1	0.1	コブハマサンゴ(塊状)
	No.3 水深2m砂地	2	37.0	2	37.0	2	37.0	2	37.0	2	37.0	2	1.0	コブハマサンゴ(塊状)、アサンゴモドキ属(樹枝状)
大度 海岸	No.1 水深1m岩盤	4	0.3	5	0.3	2	0.2	1	0.1	1	0.1	2	0.1	ハラカメノキメイト(塊状)、ハマサンゴ属(塊状)
	No.2 水深3m砂地	7	33.0	9	36.0	6	33.0	6	20.0	8	20.0	9	25.0	エダコンサンゴ(樹枝状)、コンサンゴ属(被覆状)、チミウスコンサンゴ(葉状)、コンサンゴ属(樹枝状)
宮良川 河口	No.2 礁原の岩盤上	12	10.0	12	14.0	6	5.0	6	5.0	7	5.0	7	8.0	ハマサンゴ属(塊状)、アサンゴ(塊状)、カメノキメイト(塊状)、コメノキメイト属(塊状)
白保海域	No.1 モリヤマクチ近くの岩盤上	17	6.0	17	7.0	16	7.0	15	7.0	11	7.0	9	1.0	ハヤサヤサンゴ(樹枝状)、ミドリシ属(樹枝状)、ユビエダハマサンゴ(樹枝状)、ハマサンゴ属(塊状)
	No.2 礁地内の岩盤上	7	8.0	7	8.0	6	8.0	7	9.0	6	9.0	6	7.0	ハマサンゴ属(塊状)、カメノキメイト属(塊状)、ハラカメノキメイト(塊状)、ムサンゴ属(塊状)
	No.3 礁地内の岩盤上	18	16.0	18	36.0	16	46.0	13	48.0	13	48.0	11	42.0	ハヤサヤサンゴ(樹枝状)、ショウガサンゴ(樹枝状)、スキノミドリシ(樹枝状)、ユビエダハマサンゴ(樹枝状)
阿嘉島 海域	No.1 水深3m砂地	8	70.0	8	70.0	8	70.0	7	72.0	9	72.0	10	64.0	ハヤサヤサンゴ(樹枝状)、ミドリシ属(樹枝状)、ユビエダハマサンゴ(樹枝状)、コノハコサンゴ(葉状)
	No.2 水深3m礁原	9	3.0	11	3.0	14	5.0	14	5.0	12	5.0	14	7.0	ハヤサヤサンゴ属(樹枝状)、チミウスコンサンゴ(葉状)、ユビエダハマサンゴ(樹枝状)、ハラハマサンゴ(塊状)

備考

- ① 結果は、各定点の方形枠内（2m×2m）のサンゴの出現種、被覆度を表示
- ② 宮良川・白保海域は平成11年度から調査開始
- ③ 阿嘉島海域は、サンゴ状況の参考地点

(3) 底質中懸濁物質含量 (SPSS) 測定結果 (重点監視海域調査結果)

		平成 28年度			
調査海域	調査地点	第 1 回調査	第 2 回調査	第 3 回調査	
沖繩本島周辺	大井川河口	調査日	H28. 6. 30	H28. 11. 18	H29. 1. 29
		018-1	76. 3	40. 5	22. 1
		018-2	153. 2	66. 1	26. 1
		018-3	19. 7	165. 3	62. 1
		幾何平均	61. 3	76. 2	33. 0
	大小堀川河口	調査日	H28. 7. 3	H28. 11. 18	H29. 2. 7
		022-1	131. 7	60. 0	20. 5
		022-2	29. 4	21. 6	3. 9
		022-3	67. 8	67. 8	27. 8
		幾何平均	64. 0	44. 5	13. 1
	屋嘉田潟原	調査日	H28. 7. 7	H28. 11. 7	H29. 2. 10
		040-Y03	93. 4	61. 8	62. 4
		040-Y04	58. 3	54. 6	56. 2
		040-Y14	120. 2	79. 6	53. 0
		040-Y16	257. 0	36. 1	54. 6
		幾何平均	81. 3	41. 4	41. 5
	平良川河口	調査日	H28. 6. 29	H28. 11. 19	H29. 1. 30
		016-01	516. 4	110. 3	75. 1
		016-02	375. 4	70. 3	89. 6
		幾何平均	457. 0	61. 6	86. 7
	慶佐次川河口	調査日	H28. 6. 29	H28. 11. 19	H29. 1. 31
		015-1	182. 0	16. 8	8. 5
		015-2	448. 0	63. 7	215. 9
		幾何平均	384. 9	50. 0	67. 2
	漢那中港川河口	調査日	H28. 7. 5	H28. 11. 1	H29. 2. 2
		043-1	50. 7	22. 5	6. 7
		043-3	141. 1	23. 4	115. 8
		幾何平均	71. 3	24. 8	29. 7
池味地先	調査日	H28. 6. 30	H28. 11. 17	H29. 1. 25	
	053-1	121. 9	85. 9	49. 2	
	053-2	144. 3	171. 6	80. 9	
	幾何平均	132. 7	156. 6	78. 6	
大度海岸	調査日	H29. 6. 28	H28. 11. 2	H29. 1. 21	
	066-OD06	13. 2	3. 8	3. 4	
	066-OD38	87. 0	30. 5	95. 2	
	066-OD41	32. 4	8. 4	9. 8	
	幾何平均	21. 9	6. 0	9. 2	
ウフビシ (重要サンゴ群集等)			H28. 11. 11		
大度 (重要サンゴ群集等)			H28. 11. 2		
			7. 9		

		平成 28年度			
調査海域	調査地点	第 1 回調査	第 2 回調査	第 3 回調査	
久米島周辺	真謝川河口	調査日	H28. 7. 5	H28. 11. 12	H29. 2. 5
		071-1	52. 9	8. 7	9. 5
		071-2	218. 8	125. 7	33. 9
		071-3	107. 2	82. 1	8. 9
		幾何平均	107. 5	44. 8	14. 2
	儀間川河口	調査日	H28. 7. 5	H28. 11. 10	H29. 2. 5
		073-03	70. 3	42. 7	31. 3
		073-06	61. 0	12. 0	14. 3
		073-09	35. 3	65. 2	5. 4
		幾何平均	36. 7	18. 5	12. 0
慶良間周辺	渡嘉志久ビーチ (対照地点)		H28. 11. 14		
	安波連ビーチ (対照地点)		H28. 11. 14		
宮古島周辺	南静園地先海域 (対照地点)		H28. 11. 17		
	シギラ (対照地点)		H28. 11. 19		
西表島周辺	野崎川河口	調査日	H28. 7. 4	H28. 11. 11	H29. 2. 1
		085-1	63. 6	44. 7	39. 0
		085-2	37. 8	103. 4	12. 9
		幾何平均	37. 5	21. 7	17. 4
	与那良川河口	調査日	H28. 7. 5	H28. 11. 21	H29. 1. 31
		086-1	68. 2	86. 4	130. 3
		086-2	49. 0	48. 0	22. 7
		幾何平均	44. 2	37. 0	29. 7
	嘉弥真水道	調査日	H28. 7. 5	H28. 11. 8	H29. 1. 30
		088-1	79. 9	29. 3	49. 3
		088-2	130. 5	28. 3	19. 4
		幾何平均	75. 9	31. 9	39. 4
	浦内川河口 (096-2) (対照地点)			H28. 11. 9	
	浦内川河口 (096-3) (対照地点)			H28. 11. 9	
鳩間島南 (重要サンゴ群集等)			H28. 11. 11		
マルゲー (重要サンゴ群集等)			H28. 11. 8		
			7. 7		

調査海域	調査地点	平成 28年度		
		第 1 回調査	第 2 回調査	第 3 回調査
嘉良川 河口	調査日	H28. 6. 22	H28. 10. 25	H29. 2. 4
	083-1	44. 7	127. 2	12. 6
	083-2	13. 6	7. 2	4. 6
	083-3	5. 6	10. 2	8. 9
	幾何平均	15. 0	21. 1	8. 0
大浦川 河口	調査日	H28. 6. 22	H28. 10. 27	H29. 2. 4
	084-0U08	96. 8	31. 1	5. 0
	084-0U10	17. 4	62. 9	41. 3
	084-0U19	117. 6	64. 9	115. 4
	084-0U32	98. 3	41. 9	105. 9
	084-0U48	80. 5	18. 8	66. 0
	084-0U50	90. 3	77. 6	145. 3
	幾何平均	72. 2	44. 5	53. 8
吹通川 河口	調査日	H28. 6. 23	H28. 10. 26	H29. 2. 3
	085-1	2. 3	9. 5	1. 0
	085-2	50. 8	64. 3	38. 0
	085-3	55. 3	23. 1	4. 6
	幾何平均	18. 6	24. 2	5. 6
浦底湾	調査日	H28. 6. 23	H28. 10. 26	H29. 2. 3
	086-1	8. 7	6. 3	13. 5
	086-2	41. 4	32. 7	23. 5
	086-3	7. 7	16. 0	7. 0
	幾何平均	14. 0	14. 9	13. 0
川平湾	調査日	H28. 6. 24	H28. 10. 30	H29. 2. 5
	087-1	11. 6	19. 9	23. 6
	087-2	35. 8	42. 7	24. 8
	087-3	1. 7	10. 7	35. 2
	幾何平均	8. 9	20. 9	27. 4

調査海域	調査地点	平成 28年度		
		第 1 回調査	第 2 回調査	第 3 回調査
崎枝湾	調査日	H28. 6. 24	H28. 10. 30	H29. 2. 5
	088-1	37. 8	5. 8	33. 5
	088-2	27. 3	48. 8	41. 5
	088-3	18. 6	42. 7	22. 9
	幾何平均	26. 8	22. 9	31. 7
名蔵湾	調査日	H28. 6. 25	H28. 10. 31	H29. 2. 1
	090-1	91. 2	78. 8	65. 6
	090-2	21. 9	16. 0	13. 7
	090-3	79. 8	33. 8	14. 9
	幾何平均	54. 2	34. 9	23. 7
白保 海域	調査日	H28. 6. 26	H28. 10. 28	H29. 2. 2
	095-S07	24. 4	13. 7	19. 2
	095-S16	143. 0	51. 8	60. 3
	095-S19	49. 5	6. 1	13. 6
	095-S22	32. 8	8. 4	9. 6
宮良川 河口	調査日	H28. 6. 25	H28. 10. 29	H29. 1. 31
	094-1	135. 6	29. 5	58. 7
	094-2	199. 6	129. 1	59. 0
	094-3	22. 3	21. 6	22. 5
	094-4	119. 6	47. 0	47. 2
幾何平均	92. 2	44. 3	43. 8	
伊原間 (対照地点)			H28. 10. 26	
川平湾外 (対照地点)			H28. 10. 30	
白保アオサンゴ (重要サンゴ群集等)			H28. 10. 29	
			13. 8	

(4) 環境保全目標の達成状況

調査海域		環境保全目標（堆積指標）による評価				
		H21-23年度類型	H28年度類型用 SPSS値 (kg/m ³)	H28類型	目標類型	評価
沖繩本島周辺	大井川河口	サンゴ場C	76.3	サンゴ場C	サンゴ場A	△
	大小堀川河口	サンゴ場C	29.4	サンゴ場A	サンゴ場B	◎
	屋嘉田潟原	海草藻場B	120.2	海草藻場B	海草藻場A	△
	平良川河口	サンゴ場C	516.4	サンゴ場C	サンゴ場B	△
	慶佐次川河口	サンゴ場C	182.0	サンゴ場C	サンゴ場A	◎
	漢那中港川河口	サンゴ場C	141.1	サンゴ場C	サンゴ場A	△
	池味地先	海草藻場B	171.6	海草藻場B	海草藻場A	△
	大度海岸	サンゴ場C	32.4	サンゴ場B	サンゴ場A	◎
	ウブシ（重要サンゴ群集等）		3.2	サンゴ場AA	サンゴ場AA	▲
	大度（重要サンゴ群集等）		7.9	サンゴ場AA	サンゴ場AA	▲
久米島周辺	真謝川河口	サンゴ場C	52.9	サンゴ場C	サンゴ場A	○
	儀間川河口	サンゴ場C	12.0	サンゴ場A	サンゴ場A	◎
慶良間周辺	渡嘉志久ビーチ（対照地点）		7.6	サンゴ場AA	対照地点は目標なし	
	安波連ビーチ（対照地点）		37.3	サンゴ場B	対照地点は目標なし	
宮古島周辺	南静園地先（対照地点）		20.1	サンゴ場A	対照地点は目標なし	
	シギリ（対照地点）		26.0	サンゴ場A	対照地点は目標なし	
石垣島周辺	嘉良川河口	サンゴ場C	30.3	サンゴ場B	サンゴ場B	◎
	大浦川河口	サンゴ場C	95.9	サンゴ場C	サンゴ場B	△
	吹通川河口	サンゴ場C	53.0	サンゴ場C	サンゴ場B	◎
	浦底湾	サンゴ場C	14.9	サンゴ場A	サンゴ場B	◎
	川平湾	サンゴ場B	29.2	サンゴ場A	サンゴ場A	△
	崎枝湾	サンゴ場C	31.7	サンゴ場B	サンゴ場B	◎
	名蔵湾	サンゴ場C	44.7	サンゴ場B	サンゴ場B	◎
	白保海域	サンゴ場C	24.4	サンゴ場A	サンゴ場A	◎
	宮良川河口	サンゴ場C	199.6	サンゴ場C	サンゴ場B	△
	伊原間（対照地点）		131.2	サンゴ場C	対照地点は目標なし	
	川平湾外（対照地点）		6.2	サンゴ場AA	対照地点は目標なし	
	白保アオサンゴ（重要サンゴ群集等）		13.8	サンゴ場A	サンゴ場AA	▲
西表島周辺	野崎川河口	サンゴ場C	68.0	サンゴ場C	サンゴ場B	◎
	与那良川河口	サンゴ場C	130.3	サンゴ場C	サンゴ場A	△
	嘉弥真水道	サンゴ場C	75.9	サンゴ場C	サンゴ場B	△
	浦内川河口（096-2）（対照地点）		1.8	干潟A	対照地点は目標なし	
	浦内川河口（096-3）（対照地点）		75.7	干潟A	対照地点は目標なし	
	鳩間島南（重要サンゴ群集等）		8.1	サンゴ場AA	サンゴ場AA	▲
	マルグー（重要サンゴ群集等）		7.7	サンゴ場AA	サンゴ場AA	▲

集計	重点監視海域 （対照地点、重要サンゴ群集等地点除く）	目標達成海域（上記、◎）	8 海域	36%
		H21-23年度より改善海域（上記、○）	1 海域	5%
		H21-23年度から改善していない海域（上記、△）	13 海域	59%
		H21-23年度から悪化した海域（上記、×）	0 海域	0%
重要サンゴ群集等地点	目標達成地点（上記、●）	4 地点	80%	
	目標未達成地点（上記、▲）	1 地点	20%	

(5) 赤土等に係る環境保全目標類型

サンゴ場における環境保全目標類型

類型	堆積指標	海域の概観	主に見られる生物
	SPSS (kg/m ³)		
サンゴ場AA	1~10未満 (ランク3~4)	底質は、砂をかき混ぜると懸濁物質の舞い上がりが確認できる程度。 生き生きとしたサンゴ礁生態系が見られ、樹枝状のミドリイシ属やコモンサンゴ属の群落等がサンゴ場内に発達し、大規模群落を形成することもある。サンゴ群落内の岩盤には清浄域を好むヒメジャコ、サボテングサ等が局所的に生息し、群落横の砂地にはサツマビナ等の貝類が埋存する。また、周辺ではサンゴ類を利用するスズメダイ類やベラ類等の魚類が多く見られる他、色とりどりの魚類が遊泳する。	サンゴ類：ミドリイシ属(コクビミドリイシ、サンカクミドリイシ等)、コモンサンゴ属(エダコモンサンゴ、ノリコモンサンゴ等) ベントス類：サツマビナ、スナギンチャク科、ホンナガウニ、ヒメジャコ、ツマジロナガウニ 海藻草類：サボテングサ、ハイオオギ、ピロウドガラガラ属、アミジグサ属 魚類：スズメダイ科の内、デバスズメダイ、アオバスズメダイ、ミツボシクロスズメダイ、ロクセンスズメダイ等サンゴ上に生息する種群、ノドグロベラ、アカオビベラ、スジベラ、トカラベラ、カノコベラ
サンゴ場A	10~30未満 (ランク5a)	底質は注意して見ると懸濁物質の存在がわかる。 生き生きとしたサンゴ礁生態系が見られ、サンゴ類を中心とした良好な生態系が維持されている。樹枝状サンゴから塊状サンゴまで多種のサンゴ類が生息し、周辺には清浄域を好むベントス類・海藻類、およびサンゴ類を利用するスズメダイ類を中心とした魚類が遊泳する。	サンゴ類：キクメイシモドキ※ ベントス類：ニワトリガキ、カニノテムシロ、ケヤリムシ科、ウニシヤコ科 海藻草類：ヒメテングサ、コノハノリ科、アオノリ属、アオサ属 魚類：ハナナガモチノウオ、カザリハゼ、ホシハゼ、タカノハハゼ、シノビハセ属
サンゴ場B	30~50未満 (ランク5b)	底質の表面にホコリ状の懸濁物質がかぶさる。 透明度が悪くなり、サンゴ被度に影響が出始める。また、樹枝状サンゴの出現割合が減少し、塊状サンゴの出現割合が増加し始める。 サンゴ類を利用する魚類が減少し始め、カザリハゼ等の砂、砂泥に住む魚類の出現が増加し始める。	サンゴ類：なし ベントス類：ヒメクワノミカニモリ、フトコロガイ、フトコビシヤコ 海藻草類：リュウキュウアマモ、ミツデサボテングサ 魚類：サラサハゼ属、フェフキダイ属の幼魚、タイワンマトイシモチ
サンゴ場C	50以上 (ランク6~8)	一見して赤土等の堆積がわかる。底質攪拌で赤土等が色濃く懸濁。 明らかに人為的な赤土等の流出による汚染があると判断。 樹枝状サンゴ類の群落はほとんど見られず、塊状のサンゴが大半を占める。岩盤上にはキクメイシモドキ、ニワトリガキ、ヒメテングサ等、砂泥上にはカニノテムシロ等が出現し、泥底にはタカノハハゼ等の泥質依存のハゼ類が出現する。	サンゴ類：なし ベントス類：ヒメクワノミカニモリ、フトコロガイ、フトコビシヤコ 海藻草類：リュウキュウアマモ、ミツデサボテングサ 魚類：サラサハゼ属、フェフキダイ属の幼魚、タイワンマトイシモチ

注) 表中の数字は年間の最大値である。
※ キクメイシモドキは、主にSPSSランク7、8に出現する。

海藻藻場における環境保全目標類型

類型	堆積指標	海域の概観	主に見られる生物
	SPSS (kg/m ³)		
海藻藻場A	1~50未満 (ランク3~5b)	透明度は高く清浄な海域だが、海藻に捕捉された懸濁物質が藻場内にとどまることもある。 サンゴ類では、コモンサンゴ属(樹枝状)等が海藻とともに群落をなすことがある。 海藻藻場内にはクサイロカノコ、コブヒトデ、ハゴロモ等が局所的に住み、藻場脇の砂地にはタケノコガイ科等が埋存する。周辺ではキンセンシシモチ、ミツボシキウセン等の魚類が遊泳する。	サンゴ類：コモンサンゴ属(樹枝状) ベントス類：タケノコガイ科の内、ムシロタケ、リュウキュウタケ、カニモリタケ等礁池内砂底に生息する種群、クサイロカノコ、コブヒトデ 海藻草類：ハゴロモ、イトグサ属 魚類：キンセンシシモチ、ミツボシキウセン、ハラスジベラ
海藻藻場B	50以上 (ランク6~8)	一見して赤土等の堆積がわかり、海藻上に浮泥がかぶる。底質攪拌で赤土等が色濃く懸濁。 リュウキュウアマモ等の海藻藻場にはミツデサボテングサ等も混在し、局所的にヒメクワノミカニモリやフトコロガイ等の貝類が生息する。周辺ではサラサハゼ属等の泥質を好む魚類が生息する。	サンゴ類：なし ベントス類：ヒメクワノミカニモリ、フトコロガイ、フトコビシヤコ 海藻草類：リュウキュウアマモ、ミツデサボテングサ 魚類：サラサハゼ属、フェフキダイ属の幼魚、タイワンマトイシモチ

注) 表中の数字は年間の最大値である。

干潟における環境保全目標類型

類型	堆積指標	海域の概観	主に見られる生物
	SPSS (kg/m ³)		
干潟A	1~100未満 (ランク3~6)	底質の表面に懸濁物質がかぶさる。底質攪拌で赤土等が懸濁する。 SPSS値が100kg/m ³ に近づくに従い、種の多様性は高くなる。干潟の表面に甲殻類のミナミコメツギガニ、リュウキュウコメツギガニ、ミナミスナガニ等が見られる。	ベントス類：ミナミコメツギガニ、リュウキュウコメツギガニ、ミナミスナガニ
干潟B	100以上 (ランク6~8)	底質攪拌で赤土等が色濃く懸濁。 SPSS値が高くなるに従い、種の多様性は低下する。 干潟の表面に巻貝のウミナガオ属が見られ、泥内にはミナミメナガオサガニが生息する。点在する岩には、ヒバリガイモドキ、マルアマオブネ、シロスジフジツボ等が生息する。	ベントス類：シロスジフジツボ、ヒバリガイモドキ、マルアマオブネ、ウミナガオ属、カノコガイ、ミナミメナガオサガニ

注) 表中の数字は年間の最大値である。

8 基地公害関係

(1)平成28(2016)年度在日米軍施設・区域環境調査(公共用水域調査結果)

施設・区域名		キャンプ・シュワブ		キャンプ・ハンセン		
調査地点番号		60	60	64	64	
調査地点名		久志大川	久志大川	福地川	福地川	
調査項目	採水月日	2016/10/19	2016/11/30	2016/10/19	2016/11/30	
	採水時刻	10:45	10:54	11:20	11:23	
	天 候	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	
	気 温 (°C)	28.8	27.6	29.7	25.0	
	水 温 (°C)	27.5	20.2	28.4	19.9	
	色相	無	無	無	無	
	臭気	無	微土	無	微土	
	透視度 (cm)	>30	>30	>30	>30	
	電気伝導率 (μS/cm)	239	276	301	371	
	生活環境項目	pH	7.9	7.7	7.7	7.4
		DO (mg/L)	6.5	7.9	7.1	7.1
		SS (mg/L)	1	1	3	2
		BOD (mg/L)	0.9	0.5	<0.5	0.6
		大腸菌群数 (MPN/100ml)	1.3E+03	1.7E+03	2.6E+03	1.7E+03
		全亜鉛 (mg/L)	0.018	0.014	0.003	<0.003
	健康項目	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003
		全シアン (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		鉛 (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		六価クロム (mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		砒素 (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		総水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		7アルキル水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		PCB (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ジクロロメタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		四塩化炭素 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
	目	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		トリス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
トリクロロエチレン (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
テトラクロロエチレン (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
1,3-ジクロロプロパン (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
チウラム (mg/L)		<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	
シマジン (mg/L)		<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	
チオベンカルブ (mg/L)		<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	
ベンゼン (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
セレン (mg/L)		<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)		0.41	0.05	0.32	0.11	
ふっ素 (mg/L)	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08		
ほう素 (mg/L)	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
1,4-ジオキサ (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		

* 網掛けは基準超過

(1)平成28(2016)年度在日米軍施設・区域環境調査(公共用水域調査結果)

施設・区域名		キャンプ・ハンセン				
調査地点番号		61	61	65	65	
調査地点名		加武川西支流	加武川西支流	美徳川	美徳川	
調査項目	採水月日	2016/10/19	2016/11/30	2016/10/19	2016/11/30	
	採水時刻	12:00	11:55	12:25	12:20	
	天 候	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	
	気 温 (°C)	29.5	23.5	30.0	24.6	
	水 温 (°C)	28.2	20.3	25.8	19.2	
	色相	無	微茶、白濁	無	無	
	臭気	無	微土	無	微藻	
	透視度 (cm)	>30	>30	>30	>30	
	電気伝導率 ($\mu S/cm$)	178	444	219	227	
	生活環境項目	pH	7.9	7.7	7.9	7.7
		DO (mg/L)	8.0	9.6	6.7	8.0
		SS (mg/L)	<1	3	<1	<1
		BOD (mg/L)	0.6	0.5	<0.5	<0.5
		大腸菌群数 (MPN/100ml)	1.7E+03	4.9E+03	3.3E+03	7.9E+03
	健康項目	全亜鉛 (mg/L)	0.004	<0.003	<0.003	<0.003
		カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003
		全シアン (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		鉛 (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		六価クロム (mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		砒素 (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		総水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		7アルキル水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		PCB (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ジクロロメタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		四塩化炭素 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,2-ジクロロエタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		トリス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		トリクロロエチレン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		テトラクロロエチレン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,3-ジクロロプロパン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
目		チウラム (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
	シマジン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	
	チオベンカルブ (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	
	ベンゼン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
	セレン (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	0.23	0.06	0.27	0.07	
	ふっ素 (mg/L)	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	
	ほう素 (mg/L)	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
1,4-ジオキサ (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		

* 網掛けは基準超過

(1)平成28(2016)年度在日米軍施設・区域環境調査(公共用水域調査結果)

施設・区域名		嘉手納飛行場				
調査地点番号		11	11	63	63	
調査地点名		ダクジャク川	ダクジャク川	嘉手納消防本部裏側溝	嘉手納消防本部裏側溝	
調査項目	採水月日	2016/9/21	2016/11/9	2016/9/21	2016/11/9	
	採水時刻	10:30	11:45	10:50	12:05	
	天 候	曇	曇	曇	曇	
	気 温 (°C)	29.0	21.1	29.7	21.3	
	水 温 (°C)	26.3	22.8	26.9	21.7	
	色相	無	無	無	無	
	臭気	無	無	微藻	無	
	透視度 (cm)	>30	>30	>30	>30	
	電気伝導率 ($\mu S/cm$)	641	592	320	445	
	生活環境項目	pH	7.5	7.5	7.9	7.5
		DO (mg/L)	6.8	6.2	6.8	6.7
		SS (mg/L)	<1	1	2	1
		BOD (mg/L)	0.9	1.4	1.4	10
		大腸菌群数 (MPN/100ml)	2.4E+04	4.9E+03	5.4E+04	5.4E+05
	健康項目	全亜鉛 (mg/L)	<0.003	0.005	0.019	0.025
		カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003
		全シアン (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		鉛 (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		六価クロム (mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		砒素 (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		総水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		7アルキル水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		PCB (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ジクロロメタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		四塩化炭素 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,2-ジクロロエタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		トリス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
トリクロロエチレン (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
テトラクロロエチレン (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
1,3-ジクロロプロパン (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
目		チウラム (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
	シマジン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	
	チオベンカルブ (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	
	ベンゼン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
	セレン (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	0.84	1.0	0.2	0.36	
	ふっ素 (mg/L)	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	
	ほう素 (mg/L)	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
1,4-ジオキサ (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		

* 網掛けは基準超過

(1)平成28(2016)年度在日米軍施設・区域環境調査(公共用水域調査結果)

施設・区域名		キャンプ瑞慶覧			
調査地点番号		18	18	21	21
調査地点名		北谷南小川	北谷南小川	石川原川	石川原川
調 査 項 目	採水月日	2016/9/21	2016/11/9	2016/10/19	2016/11/9
	採水時刻	11:20	12:35	14:05	12:50
	天 候	晴れ	曇	晴れ	曇
	気 温 (°C)	29.5	22.5	31.5	23.0
	水 温 (°C)	28.7	23.0	28.7	22.5
	色相	無	無	無	無
	臭気	微下水	無	無	無
	透視度 (cm)	>30	>30	>30	>30
	電気伝導率 (μS/cm)	604	564	572	563
	pH	8.1	7.7	7.8	7.8
	生活環境項目				
	D0 (mg/L)	10	12	9.2	10
	SS (mg/L)	4	<1	2	>1
	BOD (mg/L)	<0.5	1.1	1.0	0.5
	大腸菌群数 (MPN/100ml)	1.1E+04	1.1E+04	9.2E+04	1.1E+04
	全亜鉛 (mg/L)	<0.003	<0.003	0.005	<0.003
	健				
	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003
	全シアン (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
	鉛 (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
	六価クロム (mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
	砒素 (mg/L)	0.004	<0.002	<0.002	<0.002
	総水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
	7アルキル水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
	PCB (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
	ジクロロメタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
	四塩化炭素 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
	康				
	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
	トリス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
トリクロロエチレン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
テトラクロロエチレン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
1,3-ジクロロプロパン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
目					
チウラム (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	
シマジン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	
チオベンカルブ (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	
ベンゼン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
セレン (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	0.85	0.8	2.1	2.4	
ふっ素 (mg/L)	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	
ほう素 (mg/L)	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
1,4-ジオキサ (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	

* 網掛けは基準超過

(1)平成28(2016)年度在日米軍施設・区域環境調査(公共用水域調査結果)

施設・区域名		キャンプ瑞慶覧				
調査地点番号		62	62	67	67	
調査地点名		白比川	白比川	白比川上流	白比川上流	
調査項目	採水月日	2016/9/21	2016/11/9	2016/9/21	2016/11/9	
	採水時刻	13:00	14:30	14:15	15:15	
	天候	晴れ	曇	晴れ	曇	
	気温 (°C)	28.5	22.2	31.0	22.2	
	水温 (°C)	26.8	22.1	29.4	21.9	
	色相	無	薄茶	無	無	
	臭気	無	無	無	無	
	透視度 (cm)	>30	>30	>30	>30	
	電気伝導率 ($\mu S/cm$)	762	712	633	611	
	生活環境項目	pH	8.1	7.8	8.8	8.2
		DO (mg/L)	8.7	7.2	10	8.8
		SS (mg/L)	1	4	1	<1
		BOD (mg/L)	0.9	3.1	1.0	6.8
		大腸菌群数 (MPN/100ml)	3.5E+04	1.1E+04	1.8E+04	4.9E+03
	健康項目	全亜鉛 (mg/L)	0.017	0.005	0.003	0.005
		カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003
		全シアン (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		鉛 (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		六価クロム (mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		砒素 (mg/L)	0.003	<0.002	<0.002	<0.002
		総水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		7アルキル水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		PCB (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ジクロロメタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		四塩化炭素 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,2-ジクロロエタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		トリス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
トリクロロエチレン (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
テトラクロロエチレン (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
1,3-ジクロロプロパン (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
目		チウラム (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
	シマジン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	
	チオベンカルブ (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	
	ベンゼン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
	セレン (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	2.4	2.5	2.1	3.0	
	ふっ素 (mg/L)	<0.08	0.08	<0.08	<0.08	
	ほう素 (mg/L)	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
1,4-ジオキサ (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		

* 網掛けは基準超過

(2)平成28(2016)年度基地周辺公共用水域監視調査(公共用水域調査結果)

調査地点番号		3	3	15	15	
調査地点名		徳首川	徳首川	第一ゲート横排水溝	第一ゲート横排水溝	
調査項目	採水月日	2016/7/20	2016/11/16	2016/7/6	2016/12/7	
	採水時刻	14:00	14:00	13:00	11:50	
	天候	晴	晴	曇	晴	
	気温 (°C)	32.0	26.2	34.0	21.5	
	水温 (°C)	32.5	27.4	32.5	19.4	
	色相	無	薄緑・白濁	無	無	
	臭気	無	下水臭	微藻	無	
	透視度 (cm)	>30	15.8	>30	>30	
	電気伝導率 (μ S/cm)	5,240	7,690	543	491	
	生活環境項目	pH	7.5	7.6	8.2	9.9
		DO (mg/L)	8.0	6.2	13	16
		BOD (mg/L)	<0.5	15	1.7	1.9
		SS (mg/L)	1	46	1	54
	健康項目	大腸菌群数 (MPN/100ml)	N. D.	N. D.	1.3E+04	1.1E+04
		全亜鉛 (mg/L)	0.003	0.02	0.003	0.011
		カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003
		全シアン (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		鉛 (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		六価クロム (mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		砒素 (mg/L)	0.003	<0.002	<0.002	<0.002
		総水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		アルキル水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		PCB (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ジクロロメタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		四塩化炭素 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,2-ジクロロエタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
トリクロロエチレン (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
テトラクロロエチレン (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
1,3-ジクロロプロパン (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
1,4-ジクロロベンゼン (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
チウラム (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001		
シマジン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001		
チオベンカルブ (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002		
ベンゼン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005		
セレン (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002		
ふっ素 (mg/L)	<0.08	<0.08	<0.08	0.15		
ほう素 (mg/L)	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	0.27	0.22	0.12	0.30		

(2)平成28(2016)年度基地周辺公共用水域監視調査(公共用水域調査結果)

調査地点番号		18	18	21	21	
調査地点名		北谷南小川	北谷南小川	石川原川	石川原川	
調査項目	採水月日	2016/7/6	2016/12/7	2016/7/6	2016/12/7	
	採水時刻	13:20	12:10	13:40	12:25	
	天候	曇	晴	曇	晴	
	気温 (°C)	30.9	21.5	31.0	22.5	
	水温 (°C)	32.5	23.9	29.2	22.7	
	色相	無	無	無	無	
	臭気	無	無	無	無	
	透視度 (cm)	>30	>30	>30	>30	
	電気伝導率 (μ S/cm)	535	679	553	620	
	生活環境項目	pH	8.1	8.5	8.0	7.9
		DO (mg/L)	11	14	9.3	11
		BOD (mg/L)	0.8	1.2	0.5	<0.5
		SS (mg/L)	<1	<1	<1	<1
	健康項目	大腸菌群数 (MPN/100ml)	2.2E+04	1.7E+04	1.8E+04	2.2E+04
		全亜鉛 (mg/L)	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003
		カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003
		全シアン (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		鉛 (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		六価クロム (mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		砒素 (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		総水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		メチル水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		PCB (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ジクロロメタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		四塩化炭素 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,2-ジクロロエタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
トリス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
トリクロロエチレン (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
テトラクロロエチレン (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
1,3-ジクロロプロペン (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
1,4-ジクロロベンゼン (mg/L)		<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
チウラム (mg/L)		<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	
シマジン (mg/L)		<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	
チオベンカルブ (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002		
ベンゼン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005		
セレン (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002		
ふっ素 (mg/L)	<0.08	0.17	<0.08	<0.08		
ほう素 (mg/L)	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	0.62	0.93	2.2	2.2		

(2)平成28(2016)年度基地周辺公共用水域監視調査(公共用水域調査結果)

調査地点番号		20	20	53	53	
調査地点名		普天間川下流 (基地外)	普天間川下流 (基地外)	オート川	オート川	
調査項目	採水月日	2016/7/19	2016/9/1	2016/7/20	2016/11/16	
	採水時刻	13:30	13:37	11:40	12:30	
	天候	晴	曇	晴	晴	
	気温 (°C)	33.0	31.0	29.5	23.1	
	水温 (°C)	33.2	32.1	28.1	21.6	
	色相	無	無	無	微白濁	
	臭気	無	無	無	無	
	透視度 (cm)	>30	26.4	>30	>30	
	電気伝導率 (μ S/cm)	1,474	826	343	250	
	生活環境項目	pH	8.4	8.2	7.7	7.4
		DO (mg/L)	11	8.7	7.0	8.3
		BOD (mg/L)	0.9	3.3	<0.5	<0.5
		SS (mg/L)	3	13	3	3
	健康項目	大腸菌群数 (MPN/100ml)	7.9E+03	5.4E+05	4.9E+03	1.7E+03
		全亜鉛 (mg/L)	0.006	0.026	0.011	<0.003
		カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003
		全シアン (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		鉛 (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		六価クロム (mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		砒素 (mg/L)	0.003	<0.002	<0.002	<0.002
		総水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		メチル水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		PCB (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ジクロロメタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		四塩化炭素 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,2-ジクロロエタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
トリス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
トリクロロエチレン (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
テトラクロロエチレン (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
健康項目		1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
	1,4-ジオキサン (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
	チウラム (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	
	シマジン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	
	チオベンカルブ (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	
	ベンゼン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
	セレン (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	
	ふっ素 (mg/L)	0.09	<0.08	<0.08	<0.08	
	ほう素 (mg/L)	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	1.0	1.5	0.21	0.44	

(3)平成28(2016)年度基地周辺公共用水域測定結果(地下水調査結果)

施設・区域名		普天間飛行場				
調査地点番号		50	51	52	68	
調査地点名		森川公園内湧水	フンシンガー	ヒヤカーガー	ヒージャガー	
調査項目	採水月日	2016/9/15	2016/9/15	2016/9/15	2016/9/15	
	採水時刻	13:45	10:00	14:10	13:55	
	天候	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	
	気温 (°C)	30.1	27.6	30.0	30.1	
	水温 (°C)	24.2	24.6	25.0	24.8	
	色相	無	無	無	無	
	臭気	無	無	無	無	
	透視度 (cm)	>30	>30	>30	>30	
	電気伝導率 ($\mu S/cm$)	531	722	604	673	
	pH	7.4	7.0	7.2	7.3	
	健康項目	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003
		全シアン (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		鉛 (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		六価クロム (mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		砒素 (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		総水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		アルキル水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		PCB (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ジクロロメタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		四塩化炭素 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		塩化ビニルモノマー (mg/L)	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
		1,2-ジクロロエタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		トリクロロエチレン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		テトラクロロエチレン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,3-ジクロロプロパン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,4-ジクロロベンゼン (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		チウラム (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
		シマジン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
		チオベンカルブ (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
ベンゼン (mg/L)		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
セレン (mg/L)		<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	
ふっ素 (mg/L)		<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	
ほう素 (mg/L)		<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	0.73	3.1	1.6	2.6		

(3)平成28(2016)年度基地周辺公共用水域測定結果(地下水調査結果)

施設・区域名		普天間飛行場		キャンプ瑞慶覧		
調査地点番号		70	71	56	69	
調査地点名		神山・愛知ヌールガー	宜野湾クワイーアブ	チュンナガー	クシヌカー	
調査項目	採水月日	2016/9/15	2016/9/15	2016/9/15	2016/9/15	
	採水時刻	11:15	11:45	10:30	12:20	
	天候	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	
	気温 (°C)	29.0	28.0	28.2	26.8	
	水温 (°C)	25.6	25.0	24.3	25.0	
	色相	無	無	無	無	
	臭気	微土	無	無	微藻	
	透視度 (cm)	>30	>30	>30	>30	
	電気伝導率 (μ S/cm)	488	762	694	598	
	pH	7.4	7.1	7.2	7.4	
	健康項目	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003
		全シアン (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		鉛 (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		六価クロム (mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		砒素 (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		総水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		アルキル水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		PCB (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ジクロロメタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		四塩化炭素 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		塩化ビニルモノマー (mg/L)	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
		1,2-ジクロロエタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		トリクロロエチレン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		テトラクロロエチレン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,3-ジクロロプロパン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,4-ジクロロベンゼン (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		チウラム (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
		シマジン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
		チオベンカルブ (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
	ベンゼン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	
	セレン (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	
	ふっ素 (mg/L)	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	
	ほう素 (mg/L)	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	0.17	1.0	3.0	3.6	

(4) 平成28年度 米軍基地周辺公共用水域監視調査(底質分析結果)

施設・区域名	キャンプ・ハンセン	嘉手納飛行場	牧港補給地区前海岸
調査地点番号	K-3	K-33	K-60
調査地点名	億首橋	大道川河口沖	牧港補給地区前海岸
採取年月日	2016/7/20	2016/7/19	2016/7/19
乾燥減量 (%)	23.7	20.8	30.6
カドミウム (mg/kg-dry)	0.29	0.17	0.08
鉛 (mg/kg-dry)	5.7	9.2	4.4
六価クロム (mg/kg-dry)	<2	<2	<2
砒素 (mg/kg-dry)	5.3	3.4	3.0
総水銀 (mg/kg-dry)	0.02	0.01	<0.01
PCB (mg/kg-dry)	<0.01	0.01	<0.01
クロルデン類 (mg/kg-dry)			<0.005
DDT類 (mg/kg-dry)			<0.005
ドリソ類 (mg/kg-dry)			<0.005
HCH類 (mg/kg-dry)			<0.005
HCB (mg/kg-dry)			<0.005

(5) 平成28年度 米軍基地周辺公共用水域監視調査(魚類分析結果)

採取場所	嘉手納海域				
	ボラ科	ニシン科	ブダイ科	カワハギ科	アジ科
検体名					
体長(cm)	33	18.0~21.5	31	24.0~29.0	20.5~29.5
体重(g)	640	142~223	916	330~588	200~628
カドミウム (mg/kg)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
鉛 (mg/kg)	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
砒素 (mg/kg)	0.95	0.76	0.49	11	0.33
総水銀 (mg/kg)	<0.01	0.01	<0.01	0.02	0.06
PCB (mg/kg)	0.02	0.05	<0.01	<0.01	0.02
総クロム (mg/kg)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
DDT類* (mg/kg)	0.006	0.016	<0.005	<0.005	0.013
クロルデン類* (mg/kg)	0.076	0.012	<0.005	<0.005	0.10
ドリソ類* (mg/kg)	0.010	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
HCH類* (mg/kg)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
HCB (mg/kg)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

* クロルデン類(7物質)、DDT類(6物質)、ドリソ類(3物質)及び、HCH類(4物質)の値は合計値。
<0.005とは、各成分とも0.005未満であることを示す。

(6) 平成28年度基地周辺公共用水域監視調査（ダイオキシン類）
 （底質分析結果）

施設区域名	採水地点	測定結果	環境基準値
		pg-TEQ/g	pg-TEQ/g
キャンプ瑞慶覧	石川原川	2.7	150
キャンプ瑞慶覧	普天間川	6.5	
キャンプ・マクトリアス	天願川	0.64	
嘉手納飛行場	大道川	0.94	
嘉手納飛行場	大道川	0.24	
嘉手納飛行場	比謝川	1.1	

(7) 嘉手納飛行場及び普天間飛行場周辺航空機騒音調査

ア 月別Ldenの推移

平成28年度における嘉手納飛行場及び普天間飛行場周辺の航空機騒音の月別Ldenは、それぞれ下表のとおりです。

表1 月別Ldenの推移（嘉手納飛行場周辺）

(dB)

測定地点	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 美原	63	62	62	62	62	60	64	62	64	63	63	62
2 昆布	54	60	56	53	55	53	59	61	62	62	61	60
3 上勢	48	51	52	51	51	47	50	54	54	55	57	54
4 宮城	54	55	61	56	55	51	53	54	56	57	55	56
5 北美	50	58	56	50	53	48	55	58	60	59	59	57
6 コザ	42	52	48	46	50	42	46	49	50	49	49	49
7 屋良A	60	61	60	56	60	56	63	61	63	63	63	61
8 砂辺	64	66	74	67	66	62	64	63	66	69	65	67
9 伊良皆	50	50	48	48	53	48	56	59	51	54	52	55
10 桑江	43	48	44	49	48	45	48	51	51	52	57	51
11 山内	42	46	46	45	46	42	45	51	49	50	51	49
12 知花	54	57	55	51	54	50	56	57	58	59	60	58
13 嘉手納	60	60	60	56	63	58	63	59	59	59	61	59
14 兼久	52	49	52	52	52	48	56	51	53	49	57	56
15 屋良B	71	69	70	69	67	66	71	68	70	69	65	65
16 宮里	41	40	41	41	45	37	40	42	44	42	41	43
17 北玉	43	44	42	42	42	41	43	47	46	46	48	44
18 みどり町	51	51	44	42	45	42	47	51	52	51	52	50
19 仲嶺	44	43	40	38	41	40	44	45	43	40	44	46
20 勝連南風原	54	47	53	51	51	48	49	50	52	51	52	53
21 座喜味	43	48	51	47	47	52	50	48	50	47	46	48

表2 月別Ldenの推移（普天間飛行場周辺）

(dB)

測定地点	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 野嵩	56	53	59	59	54	53	60	53	56	54	55	55
2 愛知	45	42	43	44	45	41	48	44	45	46	46	44
3 我如古	49	45	50	50	50	46	47	47	49	48	48	46
4 上大謝名	60	58	59	58	61	58	67	61	63	65	64	63
5 新城	57	52	58	57	54	53	58	52	55	53	53	52
6 宜野湾	53	52	54	52	50	45	50	48	50	50	50	48
7 真志喜	54	50	52	52	54	53	53	52	56	58	57	55
8 大山	54	50	52	51	53	52	52	52	55	57	56	54
9 荻道	53	50	56	56	53	50	55	51	53	53	53	54
10 大城	52	49	55	55	52	50	54	50	53	53	53	54
11 熱田	50	47	53	53	50	47	51	47	50	48	48	50
12 比屋根	51	43	48	49	44	40	41	43	43	40	45	43
13 牧港	40	37	39	31	38	30	39	38	34	31	31	25
14 当山	43	43	47	46	47	37	46	42	46	45	44	54
15 内間	47	46	46	35	31	22	51	30	21	26	欠測	欠測

イ 曜日別日平均騒音発生回数

嘉手納飛行場及び普天間飛行場周辺における曜日別日平均騒音発生回数は、平日（月曜日～金曜日）に多く、土曜日及び日曜日は少ない傾向にあります。

表1 曜日別日平均騒音発生回数（嘉手納飛行場周辺）

測定地点	日	月	火	水	木	金	土
1 美原	21.6	46.3	50.5	61.2	53.7	46.1	27.9
2 昆布	10.2	32.0	34.3	40.3	36.7	30.6	15.5
3 上勢	8.8	44.2	55.9	64.1	52.8	44.8	17.0
4 宮城	13.4	55.3	71.5	80.0	66.0	60.6	25.9
5 北美	7.6	26.9	33.3	42.3	34.5	27.7	12.1
6 コザ	3.6	25.1	33.5	37.1	29.9	25.3	8.0
7 屋良A	14.6	56.3	71.4	78.1	67.2	56.2	26.1
8 砂辺	12.0	65.6	81.0	92.9	78.8	67.1	27.6
9 伊良皆	3.1	29.8	35.3	41.0	33.4	29.6	8.7
10 桑江	2.1	15.0	22.3	23.9	20.1	14.5	3.9
11 山内	4.0	27.8	34.9	41.7	33.6	28.2	7.5
12 知花	10.6	46.6	61.0	70.2	59.8	49.2	21.2
13 嘉手納	6.5	37.0	43.8	52.1	45.2	35.6	10.4
14 兼久	0.7	16.4	17.8	22.4	18.8	14.3	1.9
15 屋良B	21.8	65.7	81.8	92.0	78.4	66.0	33.6
16 宮里	4.7	15.4	21.9	26.3	22.8	16.7	6.3
17 北玉	3.0	19.9	25.8	29.0	25.3	19.2	5.3
18 みどり町	1.1	5.3	7.7	8.0	6.9	4.7	1.7
19 仲嶺	0.8	2.7	4.9	4.5	4.1	2.4	1.4
20 勝連南風原	3.2	8.5	15.3	15.3	16.0	11.6	3.8
21 座喜味	2.6	28.0	36.0	39.8	34.6	30.1	9.6

表2 曜日別日平均騒音発生回数（普天間飛行場周辺）

測定地点	日	月	火	水	木	金	土
1 野嵩	3.3	21.2	32.9	35.4	35.5	25.9	7.0
2 愛知	4.4	14.7	20.1	22.2	24.2	15.6	5.8
3 我如古	3.2	14.4	19.1	21.2	23.0	13.6	3.9
4 上大謝名	4.7	29.7	42.3	45.3	48.5	31.9	9.2
5 新城	5.3	26.4	40.6	42.8	46.0	30.9	8.8
6 宜野湾	14.4	28.6	37.8	37.6	40.4	31.8	19.4
7 真志喜	3.4	20.2	34.3	38.3	37.2	23.8	5.3
8 大山	2.8	11.7	19.8	23.0	22.5	13.2	3.6
9 荻道	3.7	17.3	26.3	28.0	29.3	21.6	7.1
10 大城	10.3	19.8	29.6	32.0	34.5	25.6	12.0
11 熱田	3.9	14.0	22.7	23.8	24.4	17.8	5.3
12 比屋根	3.3	14.3	21.5	22.7	20.9	16.5	5.1
13 牧港	0.4	3.8	6.5	3.9	3.6	2.2	1.0
14 当山	0.5	2.2	3.3	4.5	3.3	2.4	0.7
15 内間	1.5	2.2	2.4	3.1	3.1	2.3	3.1

ウ 時間帯別平均騒音発生回数

嘉手納飛行場及び普天間飛行場周辺における時間帯別航空機騒音発生回数は、それぞれ下表のとおりです。両飛行場周辺とも、7時～19時における騒音発生比率が概ね80～90%を占めているものの、夜間・早朝にも発生しています。

表1 時間帯別月平均騒音発生回数（嘉手納飛行場周辺）

測定地点	N 1 (00時～07時)		N 2 (07時～19時)		N 3 (19時～22時)		N 4 (22時～24時)		終日	22時～06時
	回数	比率	回数	比率	回数	比率	回数	比率	回数	回数
1 美原	73.2	5.5%	1,032.8	77.3%	194.4	14.6%	35.7	2.7%	1,336.1	80.8
2 昆布	53.7	6.2%	705.5	81.4%	91.3	10.5%	16.5	1.9%	867.0	46.5
3 上勢	31.0	2.5%	1,036.0	83.0%	161.6	12.9%	19.5	1.6%	1,248.1	36.7
4 宮城	54.4	3.4%	1,320.3	81.5%	214.8	13.3%	30.9	1.9%	1,620.4	65.7
5 北美	48.7	6.1%	636.1	80.0%	95.3	12.0%	15.3	1.9%	795.3	42.6
6 コザ	22.7	3.2%	597.2	85.2%	69.7	9.9%	11.8	1.7%	701.3	23.3
7 屋良A	94.2	5.9%	1,265.2	78.7%	215.8	13.4%	33.0	2.1%	1,608.2	93.0
8 砂辺	53.7	2.9%	1,497.8	81.3%	255.8	13.9%	34.3	1.9%	1,841.6	70.0
9 伊良皆	28.0	3.6%	630.4	81.7%	105.4	13.7%	8.1	1.0%	771.9	24.9
10 桑江	4.8	1.2%	367.1	87.6%	43.8	10.4%	3.2	0.8%	418.8	4.3
11 山内	29.8	3.9%	647.7	84.9%	74.6	9.8%	10.5	1.4%	762.6	25.2
12 知花	53.4	3.9%	1,145.1	82.8%	169.8	12.3%	15.5	1.1%	1,383.8	41.4
13 嘉手納	67.3	6.7%	772.8	77.1%	113.6	11.3%	48.6	4.8%	1,002.2	90.2
14 兼久	12.5	3.1%	358.2	89.3%	26.9	6.7%	3.6	0.9%	401.2	8.6
15 屋良B	142.6	7.5%	1,497.0	78.4%	215.3	11.3%	54.0	2.8%	1,908.8	145.1
16 宮里	19.1	3.9%	394.7	80.0%	67.1	13.6%	12.4	2.5%	493.3	21.9
17 北玉	10.9	2.0%	461.5	85.3%	60.0	11.1%	8.7	1.6%	541.1	15.8
18 みどり町	7.6	4.9%	135.8	88.1%	8.5	5.5%	2.3	1.5%	154.2	4.6
19 仲嶺	4.8	5.4%	72.6	80.4%	10.6	11.7%	2.3	2.5%	90.3	4.3
20 勝連南風原	8.8	2.7%	265.4	82.6%	40.6	12.6%	6.6	2.1%	321.4	9.6
21 座喜味	12.3	1.6%	606.4	79.9%	135.1	17.8%	5.1	0.7%	758.8	12.1

表2 時間帯別月平均騒音発生回数（普天間飛行場周辺）

測定地点	N 1 (00時～07時)		N 2 (07時～19時)		N 3 (19時～22時)		N 4 (22時～24時)		終日	22時～06時
	回数	比率	回数	比率	回数	比率	回数	比率	回数	回数
1 野嵩	7.3	1.0%	568.4	82.2%	101.9	14.7%	14.2	2.0%	691.8	18.3
2 愛知	6.0	1.3%	362.8	79.2%	80.1	17.5%	9.3	2.0%	458.1	12.0
3 我如古	4.0	1.0%	322.6	79.6%	70.3	17.3%	8.6	2.1%	405.4	10.8
4 上大謝名	8.1	0.9%	739.8	81.1%	150.2	16.5%	14.2	1.6%	912.3	18.6
5 新城	7.1	0.8%	706.1	81.6%	134.9	15.6%	17.6	2.0%	865.7	21.3
6 宜野湾	16.5	1.8%	741.1	81.2%	138.7	15.2%	16.3	1.8%	912.6	25.1
7 真志喜	16.4	2.3%	534.0	76.5%	134.4	19.2%	13.5	1.9%	698.2	27.5
8 大山	20.1	4.9%	282.3	69.0%	95.3	23.3%	11.3	2.8%	409.0	28.5
9 荻道	7.1	1.2%	480.5	84.0%	71.3	12.5%	13.1	2.3%	571.9	16.1
10 大城	12.3	1.7%	583.8	82.4%	94.6	13.3%	17.8	2.5%	708.5	24.1
11 熱田	7.2	1.5%	388.5	81.0%	69.6	14.5%	14.4	3.0%	479.7	18.3
12 比屋根	9.7	2.2%	362.9	81.4%	60.4	13.6%	12.8	2.9%	445.8	17.0
13 牧港	2.1	2.2%	79.9	85.7%	9.8	10.5%	1.4	1.5%	93.3	2.8
14 当山	2.3	3.2%	56.1	76.4%	11.5	15.7%	3.5	4.8%	73.4	5.6
15 内間	3.1	3.4%	79.4	86.8%	8.1	8.8%	0.9	1.0%	91.4	3.1

(8) 環境放射能調査結果の概要

ア 降水（定時採取雨水）

おおよその放射能レベルを簡易に、かつ、迅速に確認するため、毎日午前9時に降水採取容器を回収・設置し、前日の午前9時から当日の午前9時までの24時間に降った雨水中の全ベータ放射能濃度を調査しています（ただし、平成23年3月の福島第一原子力発電所事故以降、平成23年12月末まで、定時採取雨水試料の全量を放射性核種を同定するためのガンマ線測定に供したため全ベータ放射能濃度を測定を一時中断しました）。

平成28年度において、降雨量が0.5mm以上のときに採取した調査試料数は103試料であり、年間の全ベータ放射能濃度は1.3MBq/km²です。なお、すべての試料において人工放射性核種は検出されていません。

表1-1 降水の全ベータ放射能濃度

採取場所：南城市大里		(定時採取量 0.5mm以上)			
採取年月	測定数	降雨量 (mm)	最低値 (Bq/L)	最高値 (Bq/L)	降下量 (MBq/km ²)
平成28年 4月	10	207.1	N. D.	N. D.	N. D.
5月	11	169.7	N. D.	0.77	1.31
6月	9	383.0	N. D.	N. D.	N. D.
7月	8	138.2	N. D.	N. D.	N. D.
8月	8	163.1	N. D.	N. D.	N. D.
9月	11	320.3	N. D.	N. D.	N. D.
10月	11	108.0	N. D.	N. D.	N. D.
11月	6	85.0	N. D.	N. D.	N. D.
12月	5	36.4	N. D.	N. D.	N. D.
平成29年 1月	8	93.6	N. D.	N. D.	N. D.
2月	5	35.5	N. D.	N. D.	N. D.
3月	11	102.4	N. D.	N. D.	N. D.

N. D. : 計測数値が計数誤差の3倍を下回るもの

表1-2 降水の全ベータ放射能濃度の年度推移

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
降下量 (MBq/km ²)	40.6	10.0	10.6	4.2	1.3

N. D. : 計測数値が計数誤差の3倍を下回るもの

イ 降下物（雨、ちり）

屋外露出した大型水盤に1か月間の降下物（雨水、ちり）を捕集し、その降下物中

に含まれる放射能濃度を調査しています。

降下物中に含まれる全ベータ放射能、ヨウ素-131、セシウム-134、セシウム-137および天然放射性核種のカリウム-40の月間降下量及び年度推移は以下のとおりです。

平成28年度において、全ベータ放射能、ヨウ素-131、セシウム-134、セシウム-137は検出されていません。また、すべての試料において人工放射性核種は検出されていません。

表2-1 降下物の全ベータ放射能、I-131、Cs-134、Cs-137、K-40

採取場所：うるま市勝連

採取年月	採取期間	日数	降雨量 (mm)	降下量 (MBq/km ²)				
				全ベータ	I-131	Cs-134	Cs-137	K-40
平成28年 4月	04/01 ~ 05/02	31	328.0	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.
5月	05/02 ~ 06/01	30	136.5	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.	1.0
6月	06/01 ~ 07/01	30	255.5	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.	1.2
7月	07/01 ~ 08/01	31	111.5	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.
8月	08/01 ~ 09/01	31	157.0	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.	0.70
9月	09/01 ~ 10/04	33	368.0	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.	2.4
10月	10/04 ~ 11/01	28	27.5	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.	0.98
11月	11/01 ~ 12/01	30	83.0	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.
12月	12/01 ~ 01/04	34	45.5	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.	1.5
平成29年 1月	01/04 ~ 02/01	28	109.0	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.
2月	02/01 ~ 03/01	28	89.5	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.	0.84
3月	03/01 ~ 04/01	31	86.5	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.	2.2

N. D. : 計測数値が計数誤差の3倍を下回るもの

表2-2 降下物の全ベータ放射能、I-131、Cs-134、Cs-137、K-40の
年度推移（年間累積値）

(単位：MBq/km²)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
全ベータ	N. D.	N. D.	16.3	N. D.	N. D.
I-131	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.
Cs-134	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.
Cs-137	0.12	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.
K-40	60	24	96	26	11

N. D. : 計測数値が計数誤差の3倍を下回るもの

ウ 上水、農産物、土壌

(ア) 上水（水道蛇口水）

上水は年1回、夏季（6月ごろ）に水道蛇口水より採取し、機器分析によるヨウ素-131、セシウム-134、セシウム-137及び天然放射性核種のカリウム-40を調査しています。

上水中のヨウ素-131、セシウム-134、セシウム-137濃度は検出限界以下となっています。

(イ) 農産物

人参、キャベツおよび米に含まれるヨウ素-131、セシウム-134、セシウム-137濃

度は、全試料とも検出限界以下となっています。

(ウ) 土壌

土壌中のセシウム-137濃度は、那覇市の土壌（草地）では表層部（0～5cm）で3.7Bq/kg乾土、深層部（5～20cm）で3.6Bq/kg乾土検出され、平成23年3月の福島第一原子力発電所事故以前と同等のレベルです。一方、うるま市の土壌（未耕土）では、前年度と同様、共に検出限界以下となっています。

表3 上水、農産物、土壌の核種分析結果

試料名	採取地	試料数	I-131	Cs-134	Cs-137	K-40	単位	
上水（蛇口水）	那覇市	1	N. D.	N. D.	N. D.	27	mBq/L	
米	精米	名護市	1	N. D.	N. D.	26	Bq/kg生	
野菜	人参	うるま市	1	N. D.	N. D.	55	Bq/kg生	
	キャベツ	うるま市	1	N. D.	N. D.	59	Bq/kg生	
土壌	(0～5cm)	那覇市	1	N. D.	N. D.	3.7	500	Bq/kg乾土
	(5～20cm)		1	N. D.	N. D.	3.6	500	Bq/kg乾土
	(0～5cm)	うるま市	1	N. D.	N. D.	N. D.	390	Bq/kg乾土
	(5～20cm)		1	N. D.	N. D.	N. D.	460	Bq/kg乾土

N. D. : 計測数値が計数誤差の3倍を下回るもの

エ 海水、海底土

(ア) 海水

海水中のヨウ素-131、セシウム-134およびセシウム-137濃度は、検出限界以下となっています。

(イ) 海底土

海底土中のヨウ素-131、セシウム-134およびセシウム-137濃度は、検出限界以下となっています。

表4 海水、海底土の核種分析結果

試料名	採取地	試料数	I-131	Cs-134	Cs-137	K-40	単位
海水	金武中城湾	1	N. D.	N. D.	N. D.	12,000	mBq/L
海底土	金武中城湾	1	N. D.	N. D.	N. D.	86	Bq/kg乾土

N. D. : 計測数値が計数誤差の3倍を下回るもの

オ 空間放射線量

外部からの放射線による人体への影響を評価し、外部被曝線量を推定することを目的として、モニタリングポストによる空間中の放射線量率の測定を行っています。県内各地域における空間放射線量率の測定を強化するため、平成24年度から、モニタリングポスト3局を新設し、既設局と合わせて4局体制（地域バランスを考慮し、北部（名護市）・中部（うるま市）・南部（那覇市）・離島（石垣市）に配置）で、常時監

視しています。

モニタリングポストにおける空間放射線量率は、うるま市：19～50nGy/h、那覇市：42～72nGy/h、名護市：24～56nGy/h、石垣市：14～43nGy/hの範囲となっています。なお、従来から測定を継続しているうるま市の測定結果は、平成23年3月の福島第一原子力発電所事故以前と同等の放射線レベルとなっています。

表5-1 モニタリングポストによる空間線量率

(単位：nGy/h)

測定地点 測定年月	うるま市			那覇市			名護市			石垣市		
	最低値	最高値	平均値	最低値	最高値	平均値	最低値	最高値	平均値	最低値	最高値	平均値
平成28年4月	20	33	22	42	57	44	24	42	25	14	29	15
5月	21	30	22	42	54	44	23	34	24	14	20	15
6月	21	39	22	42	63	44	24	36	25	14	20	15
7月	21	28	22	42	55	44	24	28	24	14	17	15
8月	21	26	23	42	57	44	24	30	24	14	25	15
9月	21	36	23	42	58	44	23	46	24	14	27	15
10月	22	32	23	42	54	44	23	35	24	14	22	15
11月	23	34	24	43	57	45	24	40	25	14	32	16
12月	23	33	24	43	52	44	24	37	26	14	23	15
平成29年1月	23	58	25	43	75	45	25	44	26	14	26	16
2月	23	38	24	43	59	44	25	36	26	15	23	16
3月	23	36	24	43	79	44	25	41	26	15	50	16

表5-2 モニタリングポストによる空間線量率（年平均値）の年度推移

(単位：nGy/h)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
うるま市	22	22	21	22	23
那覇市	45	44	44	44	44
名護市	26	26	26	26	25
石垣市	15	15	15	16	15

9 廃棄物関係

(1) 粗大ごみ処理施設整備状況

平成28年3月末現在

実施主体	構成市町村	規模 (t/日)	処理 方式	総事業費 (千円)	着工年月	竣工年月	備考
1 倉浜衛生施設組合	沖縄市、宜野湾市、北谷町	7	選別	—	H19.3	H22.3	リサイクルラ ガに含む
2 浦添市	浦添市	25	破碎	2,349,961	S55.9	S57.12	
3 比謝川行政事務組合	嘉手納町、読谷村	13	併用	666,672	H7.2	H10.3	
4 本部町・今帰仁村清掃 施設組合	本部町、今帰仁村	15	併用	330,969	H7.9	H10.3	
5 糸満市・豊見城市 清掃施設組合	糸満市、豊見城市	30	併用	1,862,782	H7.12	H10.3	
6 名護市	名護市	5	併用	426,570	H10.10	H11.3	
7 那覇市・南風原町 環境施設組合	那覇市、南風原町	39	併用	2,513,355	H14.8	H18.3	
合 計	13市町村	134		8,150,309			

※ 処理方式の併用とは、粗大ごみの破碎と圧縮の両方の処理を行うこと。

(2) 一般廃棄物最終処分場整備状況

平成28年3月末現在

実施主体	構成市町村	埋立 開始 年月	終了 予定 年月	埋立面積 (m ²)	埋立容量 (m ³)	平成26年度末		総事業費 (千円)
						残余容量(m ³)	残余年数(推計)	
1 比謝川行政事務組合	読谷村、嘉手納町	H20.4	H35.3	15,650	155,000	39,365	25.5	1,436,820
2 恩納村	恩納村、うるま市	H3.5	H24.3	12,300	100,000	42,346	26.4	583,220
3 伊江村	伊江村	H3.4	H24.3	25,382	72,400	45,862	160.9	160,734
4 宮古島市	宮古島市	H6.6	H26.3	10,600	81,000	37,132	18.1	893,114
5 名護市	名護市	H7.4	H22.3	20,000	185,000	6,890	17.2	1,148,470
6 倉浜衛生施設組合	沖縄市、宜野湾市、 北谷町	H9.2	H24.3	38,000	400,000	225,342	32.8	2,738,582
7 宮古島市	宮古島市	H9.3	H30.3	7,000	52,000	12,013	15.2	906,400
8 石垣市	石垣市	H11.2	H27.3	15,200	140,000	35,658	14.7	2,224,183
9 粟国村	粟国村	H11.3	H28.3	6,000	15,000	7,300	73.0	580,670
10 渡嘉敷村	渡嘉敷村	H14.2	H35.3	3,000	15,000	13,631	47.8	466,917
11 多良間村	多良間村	H14.7	H35.3	3,000	10,000	9,437	90.7	503,214
12 久米島町	久米島町	H16.3	H36.3	5,000	25,000	16,847	14.0	905,829
13 国頭地区行政事務組合	国頭村、東村、大宜味村	H18.4	H38.3	7,200	45,000	34,678	16.9	1,214,621
14 竹富町	竹富町	H18.4	H33.3	4,300	22,000	19,701	113.2	637,539
15 伊是名村	伊是名村	H18.11	H34.3	2,500	11,000	10,520	150.3	416,684
16 与那国町	与那国町	H19.4	H39.3	3,000	11,000	7,622	2.3	711,505
17 那覇市・南風原町 環境施設組合	那覇市、南風原町	H19.4	H33.3	13,000	107,000	63,356	15.5	4,338,657
18 本部町・今帰仁村 清掃施設組合	本部町、今帰仁村	H21.4	H35.3	8,800	67,000	61,136	73.5	1,545,206
19 北大東村	北大東村	H21.2	H41.2	900	2,000	1,577	8.0	291,689
20 南大東村	南大東村	H22.3	H37.3	1,330	4,500	3,249	24.4	627,430
合 計	27市町村			202,162	1,519,900	693,662	24.3	22,331,484

(3) 廃棄物再生利用施設整備状況

平成28年3月現在

	実施主体	構成市町村	施設規模	総事業費 (千円)	着工年月	竣工年月	備考
リサイクルプラザ							
1	那覇市	那覇市	53 t/8h	1,869,900	H6.2	H7.3	H20-23に拡充整備(総事業費1,286,709千円)
2	浦添市	浦添市	40 t/5h	3,515,978	H9.11	H11.3	
3	中城村北中城村 清掃事務組合	中城村、北中城村	9 t/5h	—	H12.12	H15.5	総事業費はごみ処理施設 に含む(防衛施設庁予算)
4	中部北環境施設組合	うるま市、恩納村	57 t/5h	3,163,983	H14.2	H16.3	
5	倉浜衛生施設組合	沖縄市、宜野湾市、北谷町	82 t/5h	2,582,873	H19.3	H22.3	
	小 計	9市村	241 t/日	11,132,734			
リサイクルセンター							
1	渡嘉敷村	渡嘉敷村	1 t/日	169,845	H12.9	H14.3	
2	多良間村	多良間村	1 t/日	175,486	H12.9	H14.3	
3	伊江村	伊江村	1 t/日	—	H14.10	H16.2	総事業費はごみ処理施設 に含む(防衛施設庁予算)
4	久米島町	久米島町	3 t/日	439,517	H15.1	H16.3	
5	国頭地区行政事務組合	国頭村、東村、大宜味村	4.8 t/日	544,339	H16.10	H18.3	
6	竹富町	竹富町	1.4 t/日	354,900	H16.11	H18.2	
7	与那国町	与那国町	1 t/日	416,120	H17.3	H18.11	
8	宮古島市(伊良部島)	宮古島市	1 t/日	213,691	H19.9	H20.3	
9	伊是名村	伊是名村	1 t/日	75,470	H22.7	H24.1	
	小 計	11町村	15.2 t/日	2,389,368			
ストックヤード							
1	石垣市	石垣市	576 m ²	107,520	H9.11	H10.3	
2	渡嘉敷村	渡嘉敷村	200 m ²	49,936	H10.10	H11.3	
3	糸満市	糸満市	631 m ²	104,749	H11.11	H12.3	
4	島尻消防清掃組合	南城市(旧:知念村、玉城 村、大里村)、八重瀬町	612 m ²	145,569	H12.3	H12.8	
5	多良間村	多良間村	234 m ²	54,295	H13.8	H14.3	
6	北大東村	北大東村	150 m ²	46,515	H14.4	H14.8	
7	国頭地区行政事務組合	国頭村、東村、大宜味村	450 m ²	81,375	H16.10	H18.3	
8	本部町今帰仁村清掃施設組合	本部町、今帰仁村	600 m ²	265,900	H18.2	H19.1	
9	中部北環境施設組合 (うるま市字栄野比地内)	うるま市、恩納村	150 m ²	186,060	H19.8	H20.3	
10	倉浜衛生施設組合	沖縄市、宜野湾市、北谷町	1700 m ²	273,803	H21.6	H22.1	
11	中部北環境施設組合 (うるま市石川伊波地内)	うるま市、恩納村	150 m ²	199,448	H21.7	H22.3	
12	那覇市	那覇市	300 m ²	33,942	H21.10	H23.2	
13	中部北環境施設組合 (うるま市勝連内間地内)	うるま市、恩納村	150 m ²	194,355	H23.7	H24.3	
	小 計	18市町村	5,903 m ²	1,743,467			
	合 計	27市町村		15,265,569			

(4) L尿処理施設整備状況

平成28年3月末現在

実施主体	構成市町村	規模 (kL/日)	処理方式	総事業費 (千円)	着工年月	竣工年月	平26年度 処理実績 (kL/年)
1 石垣市	石垣市	25	嫌消	80,317	昭46.6	昭47.6	13,615
2 名護市	名護市、国頭村(委託)、 東村(委託)、 大宜味村(委託)	40	二段活	115,997	昭47.8	昭48.3	13,823
3 東部清掃施設組合 (H27.3 廃止)	与那原町、西原町、南 城市(旧佐敷町)	30	嫌消	157,693	昭48.8	昭49.1	5,991
4 本部町今帰仁村 清掃施設組合	本部町、今帰仁村	35	〃	579,180	昭49.9	昭50.5	7,877
5 倉浜衛生施設組合	沖縄市、宜野湾市、北 谷町	130	〃	1,293,000	昭51.3	昭52.2	8,662
6 中城村北中城村 清掃事務組合	中城村、北中城村	30	〃	429,871	昭52.2	昭53.2	4,748
7 中部衛生施設組合	うるま市、嘉手納町、 読谷村、恩納村(事業 分)	80	二段活 (低希釈)	850,345	昭53.3	昭55.6	20,430
8 糸満市豊見城市 清掃施設組合	糸満市、豊見城市	65	〃	998,496	昭55.12	昭57.3	11,885
9 宮古島市(旧伊良 部町)	宮古島市(旧伊良部 町)	10	好気性 (低希釈)	242,000	昭56.1	昭58.3	0
10 多良間村	多良間村	3	二段活 (低希釈)	83,000	昭57.11	昭58.3	198
11 島尻消防清掃組合	南城市、(旧知念村、玉 城村、大里村)八重瀬 町(旧具志頭村)、南 風原町(委託)	30	二段活 (低希釈)	893,464	昭61.2	昭62.9	11,339
12 東部清掃施設組合 (H26.12供用開始)	与那原町、西原町、南 城市、南風原町、中城 村、北中城村	107	二段活 (低希釈)	1,263,134	平成24.12	平成26.12	6,924
合 計	25	585		6,986,497			105,492

10 自然環境関係

(1) 自然環境保全基礎調査一覧

	年 度	調 査 内 容 等	
第1回	S 48	現存植生と植生自然度	
第2回	53~54	現存植生（沖縄島北部地域、八重山諸島）	
		特定植物群落（県下101の貴重な又は代表的な群落）	
		動物分布調査 （哺乳類：シカ・イノシシ、淡水魚：タナゴモドキ、昆虫類、両生類、爬虫類分布）	
第3回	58	現存植生調査（沖縄島中南部地域・久米島・慶良間列島・南北大東島）	
	59	現存植生調査（宮古島・伊良部島・多良間島） 特定植物群落調査（追加調査35ヶ所） 海域生物環境調査	
	60	現存植生調査（硫黄島・粟国島） 特定植物群落調査（第2回調査で調査した全群落のフォロー調査） 海域生物環境調査	
	61	現存植生調査（魚釣島） 特定植物群落調査（追加調査29ヶ所、生育状況調査8ヶ所）	
	62	自然景観資源調査（沖縄県全域）	
	63	巨樹・巨木林調査（沖縄全域）	
	H元	藻場・干潟調査（沖縄全域）	
第4回	2	サンゴ礁調査（沖縄島）	
	3	サンゴ礁調査（八重山諸島） 湖沼調査（南大東島：大池）	
		生態系総合モニタリング調査（恩納村、名護市）	
	4	サンゴ礁調査（宮古諸島及び沖縄島周辺離島） 河川調査（西表島：仲間川・仲良川） 植生調査（植生図修正補完調査） 生態系総合モニタリング調査（詳細調査）	
		5	湿地調査（沖縄県全域） 動植物分布調査（沖縄県全域）
第5回	6	種の多様性調査（八重山地域）	
	7	種の多様性調査（宮古地域）	
	8	種の多様性調査（沖縄島北部地域） 生態系総合モニタリング調査	
		9	海辺調査 種の多様性調査（本島中南部）：動植物の分布調査 生態系総合モニタリング調査：経年変化状況調査 植生調査：第4回調査の追跡調査 特定植物群落調査：第3回調査の追跡調査
	10	種の多様性調査（伊平屋、伊是名、伊江、慶良間、久米島） 特定植物群落調査：第3回調査の追跡調査 河川調査：第4回調査の追跡調査	
		11	種の多様性調査（国頭村、沖縄島周辺諸島） 海棲動物調査（ウミガメ生息調査）（沖縄県全域）
第6回	12	種の多様性調査（沖縄全域） 哺乳類分布調査（シカ、イノシシ、マングース）（沖縄県全域）	
	13	種の多様性調査（沖縄全域） 哺乳類分布調査（シカ、イノシシ、マングース）（沖縄県全域）	
		14	種の多様性調査 哺乳類分布調査（シカ、イノシシ、マングース補完調査）（沖縄県全域）
	15	種の多様性調査 哺乳類分布調査（シカ、イノシシ、マングース補完調査）（沖縄県全域）	
第7回	16	植生調査 浅海域調査（藻場・干潟） 種の多様性調査 生物多様性地域調査 モニタリングサイト1000	
		17	植生調査 生態系多様性調査（浅海域生態系調査） モニタリングサイト1000
			18
	19	植生調査 浅海域生態系調査（干潟） モニタリングサイト1000 生物多様性調査	
		20	植生調査 浅海域生態系調査（藻場） モニタリングサイト1000 生物多様性調査
	21		植生調査

(2) 沖縄県自然環境保全地域の概要

表1 沖縄県自然環境保全地域

平成29年3月31日現在

地域名	位置	面積 (ヘクタール)			自然環境の特性	指定年月日
		特別地域	普通地域	計		
久部良岳自然環境保全地域	与那国町	13.21	117.04	130.25	ビロウ林がよく発達し、与那国島固有の群落である。また、与那国の動物の主要生息地である。	昭和55年10月6日
宇良部岳自然環境保全地域		46.98	168.27	215.25	山頂部にはウラジロガシの優占する林分があり、山頂部から南側傾斜面にかけてはイタジイ林が発達し、サンニヌ台から新川鼻にかけては、地形、地質、植生の上から極めて複雑な様相を呈している。	〃
東崎自然環境保全地域		—	43.57	43.57	隆起サンゴ礁に発達するコウライシバーソナレムグラ群集及び未風化の砂岩の平坦地によく発達するコウライシバーシマニシキソウ群集がみられる。	〃
比川地先自然環境保全地域		2.30	—	2.30	この地域は標高1mにあり、大潮時には一部冠水する凹凸のはげしい隆起サンゴ礁からなりたっている。常時海風をうけるミズガンピ群集は、風圧を直接うけているため、樹冠はかり込まれたような奇観を呈している。	〃
田名の久葉山自然環境保全地域	伊平屋村	13.06	16.00	29.06	北側斜面には風衝植生が発達し、南側斜面はビロウの単純林で占められ、特異の景観を呈している。	〃
後岳自然環境保全地域		—	109.91	109.91	伊平屋島の山は、タンナ山、後岳、アサ岳、腰岳、賀陽山、阿波岳と連なっており、山麓部から中腹にかけて、尾根部や稜線に沿ってリュウキュウマツが優占している。これらの山々は一体となって島を保全する上で重要な役割をはたしている。	
腰岳自然環境保全地域		6.84	56.43	63.27		
賀陽山自然環境保全地域		—	94.46	94.46		
阿波岳自然環境保全地域		—	53.16	53.16		
伊是名山自然環境保全地域	伊是名村	4.15	49.25	53.40		リュウキュウマツの純林、ウバメガシの純林が発達している。
嘉津宇岳・安和岳・八重岳自然環境保全地域	名護市	68.07	88.09	156.16	イスノキの優占する天然林、ヒナカンアオイ、カツウダケカンアオイ等の固有種がみられる。	平成元年3月3日
合計		154.61	796.18	950.79		

表2 自然環境保全地域 (国指定)

(平成29年3月31日現在)

地域名	位置	面積 (ヘクタール)			自然環境の特性	指定年月日
		特別地域	普通地域	計		
崎山湾・網取湾自然環境保全地域	竹富町	1,077.1	-	1,077.1	本地域はミドリイシ類をはじめとする他種のサンゴからなるサンゴ群集が発達し、湾内の深みにはアマトリセンベイサンゴの大規模な群集が存在するなど、豊富な海中生物相を有している。	平成27年2月17日

(3) 温泉利用状況

平成 29 年 3 月 31 日現在

管轄保健所名	市町村名	温泉地名	源泉総数 (A+B)	利用源泉数 (A)		未利用源泉数 (B)		温度別源泉数				湧出量L/分		宿泊 施設数	収容定員 (人)	年度延 泊利用 人員 (人)	温泉利 用の公 衆浴場 施設	国民保養 温泉地年 度延泊 利用人員	主たる 泉質名
				自噴	動力	自噴	動力	25℃未満	25℃以上 42℃未満	42℃以上	水蒸気 及びびガス	自噴	動力						
北部保健所	本部町	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	242	-	1	891	164,959	1	-	ナトリウム塩化 物強塩泉
	恩納村	-	1	1	-	-	1	-	-	150	-	-	-	1	1,138	278,547	1	-	含硫黄ナトリウ ム塩化物炭素水 泉
	恩納村	-	1	-	1	-	-	1	-	-	220	-	-	1	684	249,484	1	-	ナトリウム 塩化物泉
	宜野湾市	-	1	1	-	-	-	1	-	420	-	-	-	-	-	-	1	-	ナトリウム塩化 物泉
中部保健所	北谷町	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	326	-	-	-	-	1	-	ナトリウム炭酸 水素塩泉
	うるま市	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	80	-	-	-	-	1	-	ナトリウム炭酸 水素塩泉
	うるま市	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	240	-	-	372	48,800	1	-	ナトリウム塩化 物強塩泉
	金武町	-	1	-	1	-	-	1	-	-	400	-	-	-	-	-	1	-	ナトリウム塩化 物強塩泉
那覇保健所	那覇市	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	70	-	1	518	63,022	1	-	ナトリウム塩化 物泉
	那覇市	-	1	1	-	-	-	1	-	-	500	-	-	2	2,133	297,854	2	-	含ヨウ素塩化物 泉
南部保健所	浦添市	-	1	1	-	-	-	-	1	-	220	-	-	-	-	-	1	-	ナトリウム塩化 物泉
	南城市	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	184	-	1	235	47,628	2	-	ナトリウム塩化 物泉
	豊見城市	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	510	-	1	174	63,784	1	-	ナトリウム 塩化物強塩泉
	宮古島市	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	300	-	-	-	-	2	-	ナトリウム塩化 物泉
宮古保健所	宮古島市	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	456	-	-	-	-	1	-	ナトリウム塩化 物泉
	合計		15	4	11	0	0	1	8	6	0	1,290	3,028	8	6,145	1,214,078	18	-	

(4) 特殊鳥類等生息環境調査

4	沖縄島北部地域	これまでの調査結果の解析及び保護のあり方について検討
5	沖縄島	湿地・干潟に生息、飛来する渡り鳥等の生息分布、生息密度、生息環境及び植生等の調査
6	宮古諸島	
7	八重山諸島	
8	南北大東、伊平屋久米島	
9	沖縄全域	これまでの調査結果の検討
10, 11	沖縄島北部地域	マングースの生息、捕獲方法の調査
12	沖縄島北部地域	ヤンバルクイナの生息状況調査
14	沖縄島北部地域	ホントウアカヒゲの生息実態調査
15	宮古島	外来種のクジャクの調査
16, 17	沖縄島北部地域	ヤンバルクイナの生息実態調査 ヤンバルクイナのロードキル多発地点周辺環境状況等調査
18	沖縄島北部地域	カラスの生息実態調査
19	沖縄島北部地域	ホントウアカヒゲの生息実態調査
20	宮古島	インドクジャクの分布状況調査
21	沖縄全域	侵略的外来種の侵入状況調査
22	沖縄島北部地域	与那覇岳及びその周辺における侵略的外来種の侵入状況調査
23	栗国村、渡嘉敷村、豊見城市	県指定新規鳥獣保護区候補地における鳥類の生息状況調査
24	恩納村、座間味村	沖縄県指定山田鳥獣保護区及び沖縄県指定屋嘉比島鳥獣保護区における鳥獣の生息状況調査
25	宮古島市、久米島町	沖縄県指定狩俣・島尻、仲里、具志川の各鳥獣保護区における鳥獣の生息状況調査
26	国頭村	沖縄県指定西銘岳、佐手、与那覇岳の各鳥獣保護区における鳥獣の生息状況調査
27	渡嘉敷村	沖縄県指定チービシ鳥獣保護区におけるアジサシ類の飛来状況調査
28	渡嘉敷村	沖縄県指定チービシ鳥獣保護区におけるアジサシ類の飛来状況調査、沖縄本島北部地域における小型

(5) 国指定及び県指定鳥獣保護区

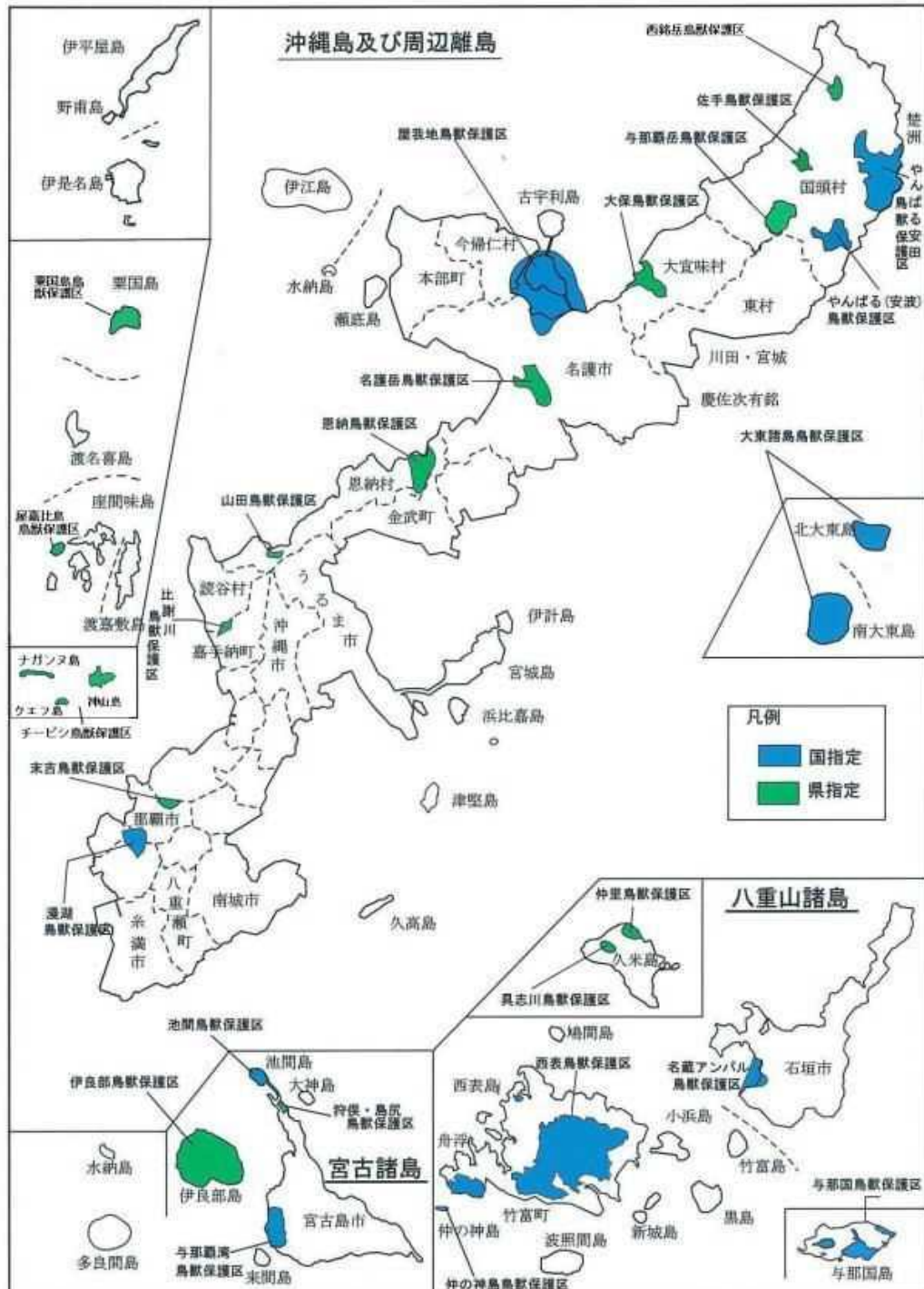
鳥獣保護区の指定状況

(H29. 3. 31現在)

種別	名称	所在地	鳥獣保護区					特別保護地区								
			面積(ヘクタール)					期間	面積(ヘクタール)					期間		
			国有地	公有地	私有地	水面	計		国有地	公有地	私有地	水面	計			
県指定	森林鳥獣生息地	1 仲里	久米島町		120	125		245	H27.11.15 H47.11.14						0	
		2 大保	大宜味村			60	180	240	H16.11.1 H36.10.31						0	
		3 名護岳	名護市		357	14		371	H27.11.1 H47.10.31		207			207	H27.11.1 H47.10.31	
		4 恩納	恩納村		295	163		458	H27.11.15 H47.11.14						0	
		5 山田	恩納村	5	154	27		186	H27.11.15 H47.11.14						0	
		6 比謝川	嘉手納町		4	2	2	8	H18.9.26 H38.9.25		4	2	2	8	H18.10.3 H38.10.2	
		7 具志川	久米島町		269		21	290	H27.11.15 H47.11.14				9	9	H27.11.15 H47.11.14	
	小計			5	1,199	391	203	1,798	7力所	0	211	2	11	224	3力所	
	集団渡来地	8 伊良部	宮古島市	2	1,199	2,717	933	4,851	H26.11.1 H46.10.31						0	
		9 粟国島	粟国村		44	720		764	H24.11.1 H44.10.31		0.4			0.4	H24.11.1 H44.10.31	
	小計			2	1,243	3,437	933	5,615	2力所	0	0		0	0	1力所	
	集団繁殖地 身近な鳥獣生息地	10 チービシ	渡嘉敷村		62			62	H24.11.1 H44.10.31		19			19	H24.11.1 H44.10.31	
		小計			62	0	0	62	1力所		19	0	0	19	1力所	
		11 狩俣・島尻	宮古島市			125	75	200	H27.11.15 H47.11.14						0	
		12 末吉	那覇市		18		1	19	H18.9.26 H38.9.25		18		1	19	H18.9.26 H38.9.25	
	小計			0	18	125	76	219	2力所	0	18	0	1	19	1力所	
希少鳥獣生息地	13 屋嘉比島	座間味村		129			129	H26.11.1 H46.10.31		129			129	H26.11.1 H46.10.31		
	14 西銘岳	国頭村	30	54			84	H27.11.1 H47.10.31	30				30	H27.11.1 H47.10.31		
	15 佐手	国頭村	58	70	30		158	H27.11.1 H47.10.31	58				58	H27.11.1 H47.10.31		
	16 与那覇岳	国頭村		647	19		666	H27.11.1 H47.10.31		23			23	H27.11.1 H47.10.31		
小計			88	900	49	0	1,037	4力所	88	152	0	0	240	4力所		
県指定合計				95	3,422	4,002	1,212	8,731	16力所	88	400	2	12	502	10力所	
国指定	集団渡来地	1 屋我地	名護市 今帰仁村	63	149	877	2,128	3,217	H28.11.1 H38.10.31			4	997	1,001	H28.11.1 H38.10.31	
		2 漫湖	那覇市 豊見城市	1	39	76	58	174	H19.11.1 H39.10.31				58	58	H19.11.1 H39.10.31	
		3 与那覇湾	宮古島市	3	100	540	723	1,366	H23.11.1 H43.10.31		1	4	699	704	H23.11.1 H43.10.31	
	小計			250	288	1,493	2,909	4,757	3力所	0	1	8	1,754	1,763	3力所	
	集団繁殖地	4 仲の神島	竹富町	18				18	H10.11.1 H30.10.31	18				18	H10.11.1 H30.10.31	
		5 池間	宮古島市		25	249	8	282	H23.11.1 H43.10.31					0		
	小計			18	25	249	8	300	2力所	18	0	0	0	18	1力所	
	希少鳥獣生息地	6 与那国	与那国町		878	155	7	1,040	H22.11.1 H42.10.31		59	4		63	H22.11.1 H42.10.31	
		7 西表	竹富町	10,218				10,218	H23.11.1 H43.10.31	9,999				9,999	H23.11.1 H43.10.31	
		8 名蔵アンパル	石垣市		8	151	986	1,145	H15.11.1 H35.10.31		97		60	157	H16.11.1 H35.10.31	
		9 大東諸島	南大東村 北大東村	13	1,661	2,577		4,251	H16.11.1 H36.10.31	3	231			234	H16.11.1 H36.10.31	
10 やんばる(安田)		国頭村	283	666		330	1,279	H21.11.1 H41.10.31	220				220	H21.11.1 H41.10.31		
11 やんばる(安波)	国頭村		405	23	37	465	H21.11.1 H41.10.31					0				
小計			10,514	3,618	2,906	1,360	18,398	6力所	10,222	387	4	60	10,673	5力所		
国指定合計				10,782	3,931	4,648	4,277	23,455	11力所	10,240	388	12	1,814	12,454	9力所	
沖縄県合計				10,877	7,353	8,650	5,489	32,186	27力所	10,328	788	14	1,826	12,956	19力所	

(6) 鳥獣保護区位置図

沖縄県内の鳥獣保護区



(7) 傷病鳥獣救護事業実績

(平成 29 年 3 月 31 日現在)

種別 年度別	収 受 数 量	放 鳥 獣	死 亡	救 護 中
24	690	234	274	134
25	553	163	225	20
26	590	162	281	58
27	547	153	263	50
28	541	132	309	64

※ 救護施設として、日本野鳥の会やんばる支部、沖縄県動物愛護管理センター、宮古野鳥の会、NPO 法人どうぶつたちの病院、カンムリワシリサーチが鳥獣救護を実施している。

※ 平成 29 年 3 月現在、県内 18 名の野生動物ドクターを認定している。

(8) 鳥獣保護管理員の配置状況

(平成 29 年 3 月 31 日現在)

地域別	員数 (人)	期間
北 部 地 域	8	1 カ年以内
中 ・ 南 部 地 域	15	〃
宮 古 地 域	4	〃
八 重 山 地 域	9	〃
計	36	

(9) 野生鳥獣飼養登録状況

(平成 29 年 3 月 31 日現在)

種別 年度別	メジロ	ウグイス	合計
24	592	0	592
25	477	0	477
26	408	0	408
27	325	0	325
28	284	0	284

(10) 沖縄県内に生息する国内希少野生動植物種(49種)

(平成29年3月現在)

<動物>

No	種名または亜種名	動物類	科名	主な生息地
1	アホウドリ	鳥類	アホウドリ科	東京都(鳥島)、尖閣列島の南島
2	カンムリフシ	"	"	石垣島、西表島
3	ヤンバルクイナ	"	クイナ科	沖縄島北部(国頭村、大宜味村、東村)
4	アマミヤマシギ	"	シギ科	奄美大島、徳之島、沖縄島北部、渡嘉敷島
5	キンハト	"	ハト科	石垣島、西表島、鳩間島、竹富島、小浜島、与那国島
6	ヨナクニカラスハト	"	"	石垣島、西表島、与那国島
7	ノグチゲラ	"	"	沖縄島北部(国頭村、大宜味村、東村)
8	アカヒゲ	"	ヒタキ科	鹿児島県(種子島、屋久島、奄美大島、徳之島)、沖縄諸島
9	ホントウアカヒゲ	"	"	沖縄島、慶良間諸島
10	ウスアカヒゲ	"	"	石垣島、西表島、与那国島
11	コウノリ	"	コウノリ科	ロシア極東南部ウスリー地方、アムール、中国東北部、沖縄諸島、宮古・与那国島
12	ハヤブサ	"	ハヤブサ科	東シベリアからオホーツク湾沿岸、カムチャツカ、サハリン、朝鮮半島等
13	ダイウオオコオモリ	ほ乳類	オオコオモリ科	北大東島、南大東島
14	イリオモテヤマネコ	"	"	西表島
15	ケナガネズミ	"	ネズミ科	鹿児島県、沖縄島北部
16	オキナワトゲネズミ	"	ネズミ科	沖縄島北部
17	キクザトサワヘビ	爬虫類	ヘビ科	久米島
18	クロイワトカゲモドキ	"	トカゲモドキ科	沖縄島、瀬底島、古宇利島
19	マダラトカゲモドキ	"	"	渡嘉敷島、阿嘉島、渡名喜島、伊江島
20	イヘヤトカゲモドキ	"	"	伊平屋島
21	クメトカゲモドキ	"	"	久米島
22	ミヤコカナヘビ	"	カナヘビ科	宮古島、池間島、伊良部島
23	ホルストガエル	両生類	アカガエル科	沖縄島、渡嘉敷島
24	ナミエガエル	"	"	沖縄島北部(国頭村、大宜味村、東村、本部町、名護市)
25	オキナワイシカワガエル	"	"	沖縄島北部(国頭村、大宜味村、東村、本部町、名護市)
26	イボイモリ	"	イモリ科	沖縄島、瀬底島、渡嘉敷島
27	アマノヤマトカマイマイ	陸産貝類	ナンバンマイマイ科	沖縄島南部
28	ウラキヤマトカマイマイ	"	"	宮古島と伊良部島
29	イヘヤマトカマイマイ	"	"	伊平屋島
30	カクレサワガニ	甲殻類	サワガニ科	渡嘉敷島
31	トカシキオオサワガニ	"	"	渡嘉敷島
32	ミヤコサワガニ	"	"	宮古島
33	ヒメユリサワガニ	"	"	沖縄島
34	イシガキニイ	昆虫類	セミ科	石垣島
35	◎ヤンバルテナゴコガネ	"	コガネムシ科	沖縄島北部(国頭村、大宜味村、東村)
36	◎ヨナグニマルバネクワガタ	"	コガネムシ科	与那国島
37	◎フチドリゲンゴロウ	"	ゲンゴロウ科	トカラ列島以南の琉球列島に広く分布
38	クメジマボタル	"	ボタル科	久米島
39	オキナワマルバネクワガタ	"	クワガタムシ科	沖縄島北部(国頭村)

<植物>

(平成29年3月現在)

No	種名または亜種名	植物類	科名	主な生育地
1	オキナワセッコク	種子植物	ラン科	沖縄島北部
2	クニガミトンボソウ	"	"	沖縄島北部
3	タカオオオスズムシラン	"	"	西表島
4	イリオモテトンボソウ	"	"	西表島
5	ミノボシラン	"	"	石垣島、西表島
6	キバナシユスラン	"	"	沖縄島北部、石垣島、西表島
7	コウシユンシユスラン	"	"	沖縄島北部、石垣島、西表島
8	オオスズムシラン	"	"	石垣島、西表島
9	ナンパンカモメラン	"	"	西表島
10	ヒメカクラン	"	"	沖縄島北部、石垣島、西表島
11	ハガクレナガミラン	"	"	西表島
12	ヤブミヨウガラ	"	"	沖縄島北部
13	テツオサギソウ	"	"	沖縄島北部、石垣島、与那国島
14	オオカゲロウラン	"	"	石垣島、与那国島
15	オオギミラン	"	"	沖縄島北部、西表島
16	ヤエヤマヒメウツギ	"	ユキノシタ科	西表島
17	サキシマハバカズラ	"	サトイモ科	西表島
18	オキナワナンテンショウ	"	"	沖縄島
19	ユズノハカズラ	"	"	北大東島、南大東島
20	ヒメハバカズラ	"	"	石垣島、西表島
21	オナガサイシン	"	"	沖縄島北部
22	ヒナカンアオイ	"	"	沖縄島北部
23	ホソバワジボグサ	"	マメ科	宮古島、石垣島、西表島、小浜島
24	サクヤアササゲ	"	"	沖縄島北部
25	ササキカズラ	"	キントラノオ科	沖縄島、宮古島、石垣島、西表島、与那国島、波照間島
26	リュウキュウヒメハギ	"	ヒメハギ科	久米島
27	アラゲタデ	"	タデ科	北大東島、南大東島
28	ダイトウサクラタデ	"	"	北大東島、南大東島
29	ヒメクロウメドキ	"	クロウメドキ科	沖縄島北部
30	ヨナクニトキホコリ	"	イラクサ科	与那国島
31	ナガバウスバシダ	シダ植物	ナナバケシダ科	石垣島
32	ヒメタニワタリ	"	チャセンシダ科	小笠原諸島、北大東島
33	マキノシダ	"	"	石垣島
34	イエジマチャセンシダ	"	"	伊江島
35	ウスイロホウビシダ	"	"	沖縄島南部、与那国島
36	ダイトウワダン	"	"	北大東島、南大東島
37	ナガミカズラ	"	イワタバコ科	西表島
38	ヒメヨウラクヒバ	"	ヒカゲノカズラ科	西表島
39	リュウキュウキジノオ	"	キジノオダ科	西表島
40	ボロジニシキソウ	"	トウダイグサ科	北大東島、南大東島

(11) 狩猟免許取得状況及び狩猟者登録状況（延べ）

年度	種別	狩猟免許取得状況(件)					狩猟者登録状況(件)				
		網	わな	第1種	第2種	計	網	わな	第1種	第2種	計
24		84	345	321	12	762	0	156	225	11	392
25		91	370	333	13	807	4	157	226	18	405
26		81	385	344	14	824	0	166	226	15	407
27		84	420	341	24	869	3	194	233	17	447
28		85	458	355	32	930	2	226	222	18	468

(12) 狩猟免許交付件数の内訳

年度	種別	新規(狩猟免許試験)					更新(狩猟者講習)					計
		網	わな	第一種	第二種	計	網	わな	第一種	第二種	計	
24		8	66	35	3	112	26	81	129	4	240	352
25		9	39	29	2	79	7	76	52	0	135	214
26		3	38	28	3	72	28	88	73	2	191	263
27		12	61	26	12	111	24	119	133	5	281	392
28		10	58	34	9	111	8	96	62	1	167	278

(13) 有害鳥獣捕獲実績

年度	獣類(頭)			鳥類(羽)					計
	イノシシ	その他	小計	カラス	ヒヨドリ	タイワンシロガシラ	その他	小計	
24	463	389	852	10,693	0	852	3,212	14,757	15,609
25	485	20	505	9,966	0	397	3,123	13,486	13,991
26	524	653	1,177	10,610	0	264	1,677	12,551	13,728
27	621	1802	2,423	14,546	0	324	1,563	16,433	18,856
28	924	1000	1,924	11,419	0	636	2,313	14,368	16,292

(14) オニヒトデの駆除実績

(単位:匹、千円)

年度	公園名、地区名	駆除箇所	駆除数	事業費	左の財源内訳		
					国庫支出金	県	市町村
H8	西表国立公園	石西礁湖	1,007	6,700	3,350	1,675	1,675
		恩納	81,220	3,200	1,600	800	800
	沖縄海岸国定公園	渡嘉敷	1,013	2,000	1,000	500	500
		座間味	5,397	2,500	1,250	625	625
9	西表国立公園	石西礁湖	3,249	6,700	3,350	1,675	1,675
		恩納	42,530	4,000	2,000	1,000	1,000
	沖縄海岸国定公園	渡嘉敷	895	1,660	830	415	415
		座間味	1,909	2,040	1,020	510	510
10	沖縄海岸国定公園	恩納	41,100	5,596	2,798	1,399	1,399
		渡嘉敷	1,046	2,881	1,441	720	720
		座間味	1,005	2,359	1,179	590	590
11	沖縄海岸国定公園	恩納	33,860	5,596	2,798	1,399	1,399
		渡嘉敷	938	2,881	1,441	720	720
		座間味	3,775	2,359	1,179	590	590
13	沖縄海岸国定公園	渡嘉敷	707	861	0	861	0
14	国頭	国頭村、東村	15,398	3,720	2,976	744	0
	恩納	恩納村	6,162	3,140	2,512	628	0
	読谷	読谷村	255				
	南部	前島	7,960	5,690	4,552	1,138	0
		チービシ	7,600				
	座間味	座間味島	11,126	10,360	—	—	0
		阿嘉島	10,728				
渡嘉敷	渡嘉敷島	10,494	6,270	5,016	1,254	0	
15	国頭	国頭村、東村	10,769				
	恩納	恩納村	6,101				
	南部	前島、チービシ	8,256	30,065	24,052	6,013	0
	座間味	座間味、阿嘉島	9,437				
	渡嘉敷	渡嘉敷島	4,390				
16	慶良間	座間味	5,954				
		渡嘉敷	1,208	29,984	23,987	5,997	0
	宮古	宮古群島	4,545				
	八重山	八重山群島	2,868				
17	慶良間	座間味	544				
		渡嘉敷	5,998	20,611	16,489	4,122	0
	宮古	宮古群島	7,847				
	八重山	八重山群島	1,645				
18	慶良間	渡嘉敷	283				
	宮古	宮古群島	1,395	9,343	7,474	1,869	0
	八重山	八重山群島	437				
21	恩納	恩納村	1,519				
	宮古	宮古群島	7,985	40,858	38,458	2,400	0
	八重山	八重山群島	60,509				
22	八重山	八重山群島	20,954	12,000	9,600	2,400	0
23	恩納	恩納村	4,593				
	読谷	読谷村	300				
	宮古	宮古群島	27,607	64,078	32,939	30,539	600
	八重山	八重山郡島	70,403				
24	恩納	恩納村	311				
	宮古	宮古群島	15,353	13,850	11,080	2,770	0
	八重山	八重山郡島	9,335				
25	恩納	恩納村	193				
	慶良間	座間味	140	20,350	16,280	4,070	0
	宮古	宮古群島	18,436				
26	慶良間	座間味	104				
		渡嘉敷	194	15,999	12,799	3,200	0
	宮古	宮古群島	7,937				
	八重山	八重山郡島	492				

(15) 本県の自然公園の概要

①西表石垣国立公園

西表石垣国立公園の区域は、西表島及び石垣島の一部、西表島と石垣島の周辺離島及び周辺海域を合わせた 122,150 ヘクタール(陸域 40,653 ヘクタール、海域 81,497 ヘクタール)です。西表島山地部のイタジイ、タブ、オキナワウラジロガン等に代表される亜熱帯照葉樹林と主要河川の塩沼地のマングローブ林は、我が国でも最も広く、しかも原始性にすぐれています。

また、我が国最大のサンゴ礁海域(石西礁湖)を擁するなど、海域景観にもすぐれた公園であり、竹富島タキドンチ・石西礁湖北礁海域公園をはじめとして 23 箇所の海域公園地区が指定されています。

②慶良間諸島国立公園

慶良間諸島国立公園は、平成 26 年3月5日(通称「サンゴの日」)に指定された自然公園です。

慶良間諸島国立公園の区域は、慶良間諸島及びその周辺海域を合わせた 93,995 ヘクタール(陸域 3,520 ヘクタール、海域 90,475 ヘクタール)です。慶良間諸島は、多様なサンゴが生育する海、ザトウクジラの繁殖海域、透明度の高い慶良間ブルーの海、多島海の景観、サンゴ砂の白い砂浜、悠久の大地の歴史を刻む地形地質、多様な生きものがみられる亜熱帯生態系を有する地域であり、国立公園の新規指定としては、1987 年(昭和 62 年)の釧路湿原国立公園以来 27 年ぶりで、全国 31 番目の国立公園の誕生となりました。

③やんばる国立公園

やんばる国立公園は、平成 28 年9月 15 日に指定された新しい自然公園で、その区域は、国頭村、大宜味村、東村の一部及びその周辺海域を合わせた 17,292 ヘクタール(陸域 13,622 ヘクタール、海域 3,670 ヘクタール)です。

やんばる地域は、国内最大級の亜熱帯照葉樹林が広がり、ヤンバルクイナやノグチゲラ、ヤンバルテナゴコガネなどの多くの希少動植物が生育・生息する世界的にもまれな動植物を育むこの森の生物多様性の豊かさが高く評価され、全国 33 番目の国立公園として指定されました。

④沖縄海岸国定公園

沖縄海岸国定公園は、読谷村残波岬から名護市世富慶までの海岸沿いと、嵐山及び屋我地島を含めた羽地内海から辺戸岬手前までの海岸一帯、名護岳を含めた区域、そして平成 18 年3月 28 日に区域拡張指定された本部町山里地区及び今帰仁村今泊地区を中心とする地域一帯を合わせた、15,857 ヘクタール(陸域 4,872 ヘクタール、海域 10,985 ヘクタール)の区域です。

沖縄特有の隆起石灰岩の海蝕崖とサンゴ礁の変化に富んだ海岸線は、常に水平線を望みながらのロードパークとも言えるものです。山岳地帯の与那覇岳一帯は、典型的な亜熱帯常緑広葉樹林を形成しており、ノグチゲラなど貴重な動物の生息地でもあります。また、本部町山里地区及び今帰仁村今泊地区を中心とする地域一帯には円錐カルストと呼ばれる特異な地形景観が広がっており、中国南部の桂林、フィリピンのボホール島、ベトナムのカオバンといった亜熱帯～熱帯地域によく発達している熱帯カルスト地形の一つとされ、円錐丘群と不規則な形をした溶食凹地群がまとまって分布する例は、我が国においてはこの地域において他になく、極めて重要な地形として評価を受けております。

なお、昭和 53 年 12 月9日に区域編入された慶良間諸島及び周辺海域については、平成 26 年3月 5 日に新たに慶良間諸島国立公園に、また、辺戸岬、塩屋湾、与那覇岳の周辺については、平成 28 年9 月 15 日にやんばる国立公園に指定されています。(国定公園からは削除)。

⑤沖縄戦跡国定公園

沖縄戦跡国定公園の区域は、糸満市摩文仁を中心とする糸満市、八重瀬町の一部及びこれらの地先海域を含めた 5,059 ヘクタール(陸域 3,127 ヘクタール、海域 1,932 ヘクタール)です。公園指定の趣旨は、第二次世界大戦における日米両国の激戦地として知られている本島南部の戦跡を保護することにより、戦争の悲惨さ、平和の尊さを認識し、20 万余りの戦没者の霊を慰めるとともに、延長 11 キロメートルにおよぶ雄大な海蝕崖景観の保護を目的に設けられた公園で、戦跡としての性格を有する国定公園としては我が国唯一のものであります。

⑥久米島県立自然公園

久米島県立自然公園は、本県初の県立自然公園として久米島のほぼ全域とその周辺海域を含む 11,868 ヘクタール(陸域 6,125 ヘクタール、海域 5,743 ヘクタール)を区域として、昭和 58 年5月 30 日に指定されました。久米島は島の随所に優れた景勝地を擁するとともに、歴史的、文化的遺産や風土的景観にも恵まれ、島全体が自然度を高く保有し自然公園的な環境を備え持つ特徴的な島です。その自然的、社会的諸条件は多島県である本県を代表するに足る島嶼の一つであるということから県立自然公園に指定されています。

⑦伊良部県立自然公園

伊良部県立自然公園は、伊良部島と下地島のほぼ全域とその周辺海域を含む 5,739 ヘクタール(陸域 3,415 ヘクタール、海域 2,324 ヘクタール)を区域として、平成7年9月1日に指定されました。

両島は、隆起サンゴ礁の特徴的な地形である海蝕崖や岩礫で構成され、その規模は本県においても有数のものです。特に下地島には、県天然記念物に指定された「通り池」に代表されるような鍾乳洞が崩壊してできた大小の池が散在し、テリハクサトベラやアダンなどの隆起サンゴ礁植生が発達する優れた風景地となっています。また、伊良部島と下地島の間の入江は、多くの小湾からなり本県では類のない地形景観を示し、河口域以外でマングローブが生育する干潟としても特異な自然環境を形成しています。

⑧渡名喜県立自然公園

渡名喜県立自然公園は、渡名喜島のほぼ全域とその周辺海域を含む 1,602 ヘクタール(陸域 342 ヘクタール、海域 1,260 ヘクタール)を区域として、平成9年8月1日に指定されました。

渡名喜島は、古生代二畳期(約2億5千万年前)の千枚岩や石灰岩、その他の地層が分布しており、いたる所で奇岩が露出するダイナミックで独特な景観を有しています。特に島の東側の長さ200m、高さ80mにおよぶ屏風のようにそそり立つ岩壁と高さ179mの岩山(大岳)は、県内では類のない規模です。また、台風を避けるために道路より低く掘り下げられた屋敷や、集落から丘陵へかけてのツワブキ、カワラナデシコ、テリハノイバラ、キバナノヒメユリ等の植生など、優れた風景地となっています。琉球王朝時代の地割制度の農地が一部保存されていることも、重要な歴史的遺産となっています。

⑨多良間県立自然公園

多良間県立自然公園は、多良間島と水納島のほぼ全域とその周辺海域を含む 5,300 ヘクタール(陸域 2,153 ヘクタール、海域 3,147 ヘクタール)を平成23年3月29日に指定したものです。

陸域においては、貴重な抱護林や大木の繁る自然豊かな森と御嶽、自然井戸等が残されており、優れた自然景観と生物多様性豊かな自然環境を有しています。また、海域においては多良間島、水納島ともに多数の海洋生物が見られる健全なサンゴ礁が発達しています。

(16) 市町村別自然公園面積

(平成 29 年 3 月 31 日現在)

単位:ha

分 区 公園名・市町村名	陸地面積				海域面積			合計
	特別保護 地区	特別地域	普通地域	計	海域公園 地区	普通地域	計	
石垣西表国立公園	5,181	28,814	6,658	40,653	15,923	65,574	81,497	122,150
① 竹 富 町	4,624	22,370	6,538	33,532				
② 石 垣 市	557	6,444	120	7,121				
慶良間諸島国立公園	305	2,962	253	3,520	8,290	82,185	90,475	93,995
① 渡 嘉 敷 村	77	1,662	153	1,892				
② 座 間 味 村	228	1,300	100	1,628				
やんばる国立公園	789	11,827	1,006	13,622	0	3,670	3,670	17,292
① 国 頭 村	786	8,595	887	10,268				
② 大 宜 味 村	3	2,476	85	2,564				
③ 東 村	0	756	34	790				
沖縄海岸国定公園	72	2,290	2,510	4,872	126	10,859	10,985	15,857
① 国 頭 村		183	335	518			0	518
② 大 宜 味 村		75	54	129			0	129
③ 今 帰 仁 村	40	403	486	929			0	929
④ 本 部 町	32	320	255	607				607
⑤ 名 護 市		861	1,032	1,893	76		76	1,969
⑥ 恩 納 村		430	286	716	50		50	766
⑦ 読 谷 村		18	62	80			0	80
沖縄戦跡国定公園	29	521	2,577	3,127	0	1,932	1,932	5,059
① 糸 満 市	29	431	2,126	2,586			0	2,586
② 八 重 瀬 町		90	451	541			0	541
久米島県立自然公園		3,383	2,742	6,125	0	5,743	5,743	11,868
① 久 米 島 町		3,383	2,742	6,125		5,743	5,743	11,868
伊良部県立自然公園		562	2,853	3,415	0	2,324	2,324	5,739
① 宮 古 島 市		562	2,853	3,415		2,324	2,324	5,739
渡名喜県立自然公園		251	91	342	0	1,260	1,260	1,602
① 渡 名 喜 村		251	91	342		1,260	1,260	1,602
多良間県立自然公園		332	1,821	2,153	0	3,147	3,147	5,300
① 多 良 間 村		332	1,821	2,153		3,147	3,147	5,300
9公園計	6,376	50,942	20,511	77,829	24,339	176,694	201,033	278,862

(17) 自然公園施設等状況

(平成 29 年 3 月 31 日現在)

公園名	市町村名	園地名等	整備年度	サイト造園		休憩所		公衆トイレ				駐車場 m ²	歩道 m	車道 m	シャワー室		備考	
				m ²	箇所	m ²	箇所	水洗		汲取					箇所	m ²		
								m ²	箇所	m ²	箇所							
やんばる 国立公園	国頭村	1 辺戸岬園地	S56,H6,H18	1,360	1	30						2,188	414					
		2 茅打バンタ園地	S60,H12	1,000	1	20	1	36				1,500	147					
	小計				2,360	2	50	1	36			3,688	561					
	大宜味村	3 塩屋園地	S59		1	20							77					
公園計				2,360	3	70	1	36			3,688	638						
西表石垣 国立公園	竹富町	4 竹富島園地 (コンドイ園地)	S63,H4,6 S51,63,H1	1,736	1	40	1	15				100			1	30		
		5 黒島棧橋園地	S52,H2,H21	2,030	4	30	1	18										
		小浜棧橋園地	S52-	4,300	4	30			4	20								H18廃止 H24一部環境省へ H28一部竹富町へ
		浦内川自然研究路	S53									2,300						
	6 大岳園地	S54,H13	890	1	20	1	20				30	1,000						
	7 南風見田園地	S55,H7	477	1	40													
	西表縦走線歩道	S56,61,H4,8,9		4	40			4	40								H28一部竹富町へ	
	8 黒島園地	S52,60,H2,H11	830	1	20	1	13					590		1	18			
	9 小浜園地	S62		1	20	1	20					151						
公園計				5,963	5	140	6	128			130	1,741		2	48			
慶良間諸島 国立公園	座間味村	11 高月山園地	S54,H10	4,740	1	30	1	30			101	620						
		古座間味園地	S57	4,000	4	20			4	40								廃止
		チシ園地	S62,H19,H20	320	1	20	1	10	4	40								
		13 神の浜園地	H2,H20,H21	500	1	20			1	10			84					
	14 越原園地	H3	300	1	20			1	17	100	130							
	小計				5,860	4	90	2	40	2	27	201	834					
渡嘉敷村	15 照山園地	S55,H14,H23	1,500	1	8	1	10	4	40			922						
	16 阿波連園地	H15・H16・H17	1,300	3	67	1	23				713	479						
小計				2,800	4	75	2	33			713	1,401						
公園計				8,660	8	165	4	73	2	27	914	2,235						
国立公園 合計				16,983	16	375	11	237	2	27	4,732	4,614		2	48			
沖縄海岸 国定公園	恩納村	17 真栄田岬園地	S48,61,H7		1	27	1	40							4	20		
		今帰仁村	18 運天森園地	S58		1	20					406						H19一部今帰仁村へ
	本部町	19 運天港園地	S59		1	20						312						
		20 本部ふるさと歩道	H20,H21,H24		2	40						312						
	小計					3	67	1	40			1,390						
公園計					3	67	1	40			1,702							
沖縄戦跡 国定公園	八重瀬町	21 具志頭園地	S56,63,H1,8,9,13		3	65	2	38			360	853	310					
		糸満市	22 喜屋武岬園地	H4		1	20	1	15			300						
	23 大度園地	H5,H20	915	1	30	1	16			574	141	55						
小計				915	2	50	2	31			874	141	55					
公園計				915	5	115	4	69			1,234	994	365					
国定公園 合計				915	8	182	5	109			1,234	2,696	365					
久米島県立 自然公園	久米島町	24 だるま山園地	S60,H1	10,617	3	95	1	23			1,360	551	1,342					
		25 五枝の松園地	H8,9	7,900	1	32	1	30			780	230	120					
		26 宇江城一仲村渠線歩道	H15	750	1	16	1	24			942	570						
		27 登武那覇園地	S59,H4	11,637	3	110	2	34			1,747	811	1,280	1	20			
小計				30,904	8	253	5	111			4,829	2,162	2,742	1	20			
公園計				30,904	8	253	5	111			4,829	2,162	2,742	1	20			
伊良部県立 自然公園	宮古島市	28 サハオキ園地	H8,9	9,856	2	75	1	18			536		302					
		29 国仲休憩所	H12,H13,H21,H25		4	43						201						H25一部撤去
公園計				9,856	2	75	1	18			536	201	302					
渡名喜県立 自然公園	渡名喜村	30 渡名喜島園地	H12	516	1	24					254	96						
		31 西森園地	H17	59	1	77						516						
小計				575	2	101					254	612						
公園計				575	2	101					254	612						
県立公園 合計				41,335	12	429	6	129			5,619	2,975	3,044	1	20			
合計				59,233	36	986	22	475	2	27	11,585	10,285	3,409	3	68			

注：他に環境省直轄事業として整備した竹富島ビジターセンター、黒島ビジターセンター、西表野生生物保護センター、やんばる野生生物保護センター、漫湖水鳥湿地センターがある。

(18) 自然公園区域における許認可などの状況

単位：件

公園名 \ 年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
沖縄海岸国定公園	36	28	61	53	37	51	59
沖縄戦跡国定公園	23	3	16	15	28	29	26
久米島県立自然公園	9	3	6	2	4	1	5
伊良部県立自然公園	3	4	4	2	4	8	11
渡名喜県立自然公園	0	0	0	0	0	0	2
多良間県立自然公園	-	1	0	1	0	3	0
計	71	39	87	73	73	92	103

(19) 自然公園利用状況

単位：千人

公園名 \ 年次	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
西表石垣国立公園	1,574	1,400	1,584	1,994	2,270	2,259	2,310
慶良間諸島国立公園	-	-	-	-	202	202	668
やんばる国立公園	-	-	-	-	-	-	234
沖縄海岸国定公園	7,810	7,459	7,795	8,258	8,774	9,338	9,747
沖縄戦跡国定公園	7,040	6,689	7,376	7,839	8,355	8,919	9,599
久米島県立自然公園	275	244	242	259	271	443	468
伊良部県立自然公園	86	99	95	115	118	140	192
渡名喜県立自然公園	9	9	12	12	8	8	10
多良間県立自然公園	-	9	12	12	13	13	13
計	16,794	15,909	17,116	18,489	20,011	21,322	23,241

11 共通的・基盤的施策関係

(1) 環境影響評価の実施状況(その1)

(平成29年3月31日現在)

年度 ¹⁾	事業名 ²⁾	実施主体	分類 ³⁾	根拠 ⁴⁾	備考
昭和62	那覇新都心土地区画整理事業	地域振興整備公団	面整備	閣議	
平成2	都市計画道路1.3.1那覇空港自動車道	国	道路	閣議	
	久米島空港拡張整備事業	県	飛行場	自主	
平成3	中城湾港(新港地区)公有水面埋立(第2次)	国及び県	埋立	閣議	
平成5	南風原町津嘉山北地区土地区画整理事業	南風原町	面整備	規程	
	北大東空港施設変更事業	県	飛行場	規程	
平成6	中城湾港(新港地区)公有水面埋立(第3次)	国及び県	埋立	閣議	
	八重山リゾート開発	民間	レク施設	規程	
	糸満市南浜地先公有水面埋立事業	市土開発公社	埋立	規程	
平成7	中城湾港(西原与那原地区)公有水面埋立事業	県	埋立	閣議	
	ムーンビーチワールド健康村開計画	民間	レク施設	規程	
	(仮称)中城ゴルフクラブ	民間	レク施設	規程	
	糸満市・豊見城村清掃施設組合ごみ焼却施設	施設組合	廃棄物処理施設	規程	
	沖縄製粉工場新設事業	民間	工場等	規程	
	浦添南第二土地区画整理事業	浦添市	面整備	規程	
	沖縄都市モノレール計画事業	県・那覇市	鉄道軌道	規程	
平成8	豊見城地先公有水面埋立事業	県土開発公社	埋立	閣議	
平成9	(仮称)はいむるぶしゴルフ場開発計画	民間	レク施設	規程	
	(仮称)宮古島リゾート開発事業	民間	レク施設	規程	
	(仮称)宜野座カントリー開発計画	民間	レク施設	規程	
	古宇利大橋整備事業	県	その他	規程	
平成10	国道331号豊見城糸満バイパス建設事業	国	道路	閣議	
	一般国道58号名護東道路建設事業	国	道路	自主	
平成11	(仮称)フセサザンリゾート開発計画	民間	レク施設	規程	
	新多良間空港整備事業	県	飛行場	規程	
	中城湾港(泡瀬地区)公有水面埋立事業	国及び県	埋立	閣議/法	乗移り ⁵⁾
平成12	一般国道329号沖縄バイパス建設事業	国	道路	法	方法書終了
	(仮称)琉球アネックス開発計画	民間	レク施設	規程/条例	乗移り ⁵⁾
	一般県道屋我地仲宗根線整備事業	県	道路	規程	
	パームヒルズゴルフリゾート9ホール開発計画	民間	レク施設	規程	
	(仮称)サンプラザ石垣開発計画	民間	レク施設	規程/条例	乗移り ⁵⁾
	大宜味村地先(塩屋湾外海)公有水面埋立事業	大宜味村	埋立	規程/条例	乗移り ⁵⁾
	中部北環境施設組合ごみ処理施設建設事業	施設組合	廃棄物処理施設	条例	乗移り ⁵⁾
平成13	与那国空港拡張整備事業	県	飛行場	法	
	那覇市・南風原町ごみ処理施設整備事業	施設組合	廃棄物処理施設	条例	乗移り ⁵⁾
	儀間川総合開発事業	県	ダム	条例	
	米軍泡瀬ゴルフ場移設事業	国	ゴルフ場	条例	

平成14	ヤエネシア村開発計画	民間	レク施設	条例	
	北部訓練場ヘリコプター着陸帯移設事業(仮称)	国	ヘリ着陸帯	自主	
	ホワイトビーチ地区艦船し尿処理施設建設事業	国	し尿処理施設	条例	
	八重山リゾート開発計画	民間	ゴルフ場	条例	
	県営畑地帯総合整備事業西原地区	県	農用地改良	条例	
	ベルビーチゴルフクラブ9ホール建設工事	民間	ゴルフ場	条例	事業廃止 ⁶⁾
	村道辺野喜楚洲線	県代行	道路	自主	
	伊良部大橋橋梁整備事業	県	道路	条例	
	吉の浦火力発電所 ⁶⁾	民間	発電所	法	
	新石垣空港整備事業	県	空港	法	
	倉浜衛生施設組合ごみ処理施設整備事業	施設組合	廃棄物処理施設	条例	
平成15	(仮称) 読谷ゴルフ倶楽部	民間	ゴルフ場	条例	
	吉の浦火力発電所 ⁷⁾	民間	発電所	法	
平成16	普天間飛行場代替施設建設事業	国	飛行場/埋立	法	事業廃止 ⁶⁾
平成17	沖縄科学技術大学院大学(仮称)整備事業	独立行政法人	大学の施設	自主	
	県道平和の道線(仮称)整備事業	県	道路	条例	
	産業廃棄物焼却溶融再資源化施設の整備事業	民間	廃棄物処理施設	条例	事業廃止 ⁶⁾
	那覇港(浦添ふ頭地区)公有水面埋立事業	浦添市土地開発公社那覇港管理組合	埋立	条例	
平成19	主要地方道南風原知念線整備事業	県	道路	条例	
	産業廃棄物焼却溶融再資源化施設の整備事業	民間	廃棄物処理施設	条例	
	普天間飛行場代替施設建設事業	国	埋立	法	
	普天間飛行場代替施設建設事業	国	飛行場	条例	
平成20	伊平屋空港整備事業	県	飛行場	条例	評価書終了
	宮古島市ごみ処理施設整備事業	宮古島市	廃棄物処理施設	条例	
平成21	アワセゴルフ場跡地土地区画整理事業	北中城村	土地区画整理事業	条例	
平成22	那覇空港滑走路増設事業	国	飛行場/埋立	法	
平成23	恩納通信所跡地リゾート計画	民間	レク施設	条例	
平成24	那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区公有水面埋立事業	浦添市土地開発公社那覇港管理組合	埋立	条例	方法書終了
平成26	(仮称) 西普天間住宅土地区画整理事業	宜野湾市	土地区画整理事業	条例	方法書終了
平成28	宮古広域公園整備事業	県	レク施設	条例	配慮書終了
	(仮称) 石垣リゾート&コミュニティ計画	民間	ゴルフ場	条例	

注1) 年度は手続が開始された年度を示す。

2) 網掛けされた事業は手続が継続しているもの

3) 分類 レク施設：レクリエーション施設

4) 根拠 閣議：閣議決定「環境影響評価の実施について」(昭和59年8月28日～平成11年6月11日)

法：環境影響評価法(平成11年6月12日～)

規程：沖縄県環境影響評価規程(平成5年2月1日～平成13年10月31日)

条例：沖縄県環境影響評価条例(平成13年11月1日～)

自主：環境影響評価法、沖縄県環境影響評価条例等の対象事業ではないが、事業者が自主的に環境影響評価の手続を実施するもの

5) 閣議決定に基づく手続から法に基づく手続へ移行した案件、又は規程に基づく手続から条例に基づく手続へ移行した案件

6) 環境影響評価の手続の途中で、事業が行われないこととなった案件

7) 平成14年度に方法書の手続が行われたが、事業内容の変更に伴い平成15年度に方法書手続が再度行われたため、同一案件として数えている。

(その2)－電源の立地に関する通産省通達－

実施年度	事業名	実施主体
昭和58年度	石川石炭火力発電所建設計画に伴う環境影響評価	電源開発(株)
平成2年度	具志川火力発電所建設に伴う環境影響評価	沖縄電力(株)
平成8年度	金武石炭火力発電所建設計画に伴う環境影響評価	沖縄電力(株)

(その3)－その他関係法令に基づくもの－ (平成28年度)

根拠法令等	公有水面埋立法	港湾法(港湾計画)	大規模小売店舗立地法 ^{注)}
件数	3	3	8

注) 店舗の新設及び変更の届出の際に騒音に関する予測・評価が行われる

(2) 公害苦情の受付状況等

表1 被害の種類別苦情件数（平成28年度）

	健康	財産	動植物	感覚的 心理的	その他	合計
件数	76	24	6	570	217	893
構成比(%)	8.5%	2.7%	0.7%	63.8%	24.3%	100.0%

表2 被害の用途地域別苦情件数（平成28年度）

	総数	都市計画法による都市計画区域									都市計 画区域 以外の 区域
		計	住居 地域	近隣 商業 地域	商業 地域	準工業 地域	工業 地域	工業 専用 地域	市街化 調整 区域	その他	
苦情 件数	893	784	563	13	57	9	4	0	102	36	109
構成比 (%)	100	87.8%	63.0%	1.5%	6.4%	1.0%	0.4%	0.0%	11.4%	4.0%	12.2%

表3 公害苦情の処理状況

年 度	処理件数		
	合計	新規受付件数	前年度からの繰越
H24	1,097	1,096	1
H25	943	940	3
H26	813	811	2
H27	716	712	4
H28	902	893	9

表4 機関別種類別新規受理件数（平成28年度）

種類 市町村名		総計	典 型 7 公 害								その他
			小計	大気汚染	水質汚濁	土壌汚染	騒音	振動	地盤沈下	悪臭	
1	那覇市	148	126	25	11	0	55	0	0	35	22
2	宜野湾市	43	34	5	5	0	9	0	0	15	9
3	石垣市	17	4	0	3	0	1	0	0	0	13
4	浦添市	27	26	2	2	0	17	0	0	5	1
5	名護市	19	19	1	1	0	1	1	0	15	0
6	糸満市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	沖縄市	20	19	3	2	0	10	0	0	4	1
8	豊見城市	62	47	2	2	0	18	1	1	23	15
9	うるま市	94	76	46	5	0	7	0	0	18	18
10	宮古島市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	南城市	2	2	0	0	0	0	0	0	2	0
小計(11市)		432	353	84	31	0	118	2	1	117	79
12	本部町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13	金武町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14	嘉手納町	232	232	0	0	0	165	0	0	67	0
15	北谷町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16	西原町	3	3	0	0	0	1	0	0	2	0
17	与那原町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	南風原町	103	28	2	0	0	5	1	0	20	75
19	久米島町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	八重瀬町	26	26	9	6	0	3	0	0	8	0
21	竹富町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22	与那国町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計(11町)		364	289	11	6	0	174	1	0	97	75
23	国頭村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24	大宜味村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25	東村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
26	今帰仁村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
27	恩納村	3	1	0	0	0	1	0	0	0	2
28	宜野座村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
29	伊江村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30	読谷村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31	北中城村	9	5	2	0	0	2	0	0	1	4
32	中城村	5	2	0	0	0	0	0	0	2	3
33	渡嘉敷村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34	座間味村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
35	粟国村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
36	渡名喜村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
37	南大東村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
38	北大東村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
39	伊平屋村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40	伊是名村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
41	多良間村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計(19村)		17	8	2	0	0	3	0	0	3	9
市町村合計		813	650	97	37	0	295	3	1	217	163
県の機関		80	27	4	14	0	0	0	0	9	53
合計		893	677	101	51	0	295	3	1	226	216

12 用語の解説

【あ】

アオコ（青粉）

富栄養化が進行した湖や池で、藍藻と呼ばれる種類の植物プランクトンが異常に繁殖し、水面に青緑色の粉を撒いたように見える現象のことです。アオコが発生すると、透明度が低下し、カビ臭を発したりするほか、有害な化学物質が作られることもあります。また、水中の溶存酸素が奪われるため、水生生物や魚類が死亡し、水産や観光上の被害をもたらすこともあります。

赤潮

プランクトンの異常増殖により海水が変色する現象のことです。有害プランクトンの発生や一時的に酸素消費量が増大することによる酸素欠乏のため、魚介類のへい死など漁業被害を伴うこともあります。発生のメカニズムは完全に究明されていませんが、水中の窒素、燐等の栄養塩類濃度、自然条件の諸要因が相互に関連して発生すると考えられています。

赤土等

沖縄県に分布するすべての土壌、これらに類する土壌母岩及びその砕屑物をいいます。主に国頭マーヅ、島尻マーヅ、ジャーガル及び沖積土壌の4種類からなり、これらが県全土に占める割合は、国頭マーヅ 55.1 %、島尻マーヅ 27.4 %、ジャーガル 8.0 %、その他 9.5 %となっています。

悪臭物質

悪臭防止法では、不快なにおいの原因となり、生活環境を損なうおそれのある物質として次の 22 物質を「特定悪臭物質」と定め、規制しています。

アンモニア $[\text{NH}_3]$

し尿のようなにおい

メチルメルカプタン $[\text{CH}_3\text{SH}]$

腐った玉ねぎのようなにおい

硫化水素 $[\text{H}_2\text{S}]$

腐った卵のようなにおい

硫化メチル $[(\text{CH}_3)_2\text{S}]$

腐ったキャベツのようなにおい

二硫化メチル $[\text{CH}_3\text{SSCH}_3]$

腐ったキャベツのようなにおい

トリメチルアミン $[(\text{CH}_3)_3\text{N}]$

腐った魚のようなにおい

アセトアルデヒド $[\text{CH}_3\text{CHO}]$

刺激的な青ぐさいにおい

プロピオンアルデヒド $[\text{CH}_3\text{CH}_2\text{CHO}]$

刺激的な甘酸っぱい焦げたにおい

ノルマルブチルアルデヒド $[\text{CH}_3(\text{CH}_2)_3\text{CHO}]$

刺激的な甘酸っぱい焦げたにおい

イソブチルアルデヒド $[(\text{CH}_3)_2\text{CHCHO}]$

刺激的な甘酸っぱい焦げたにおい

ノルマルバレアルデヒド $[\text{CH}_3(\text{CH}_2)_3\text{CHO}]$

むせるような甘酸っぱい焦げたにおい

イソバレアルデヒド $[(\text{CH}_3)_2\text{CHCH}_2\text{CHO}]$

むせるような甘酸っぱい焦げたにおい

イソブタノール $[(\text{CH}_3)_2\text{CHCH}_2\text{OH}]$

刺激的な発酵したにおい

酢酸エチル $[\text{CH}_3\text{CO}_2\text{C}_2\text{H}_5]$

刺激的なシンナーのようなにおい

メチルイソブチルケトン $[\text{CH}_3\text{COCH}_2\text{CH}(\text{CH}_3)_2]$

刺激的なシンナーのようなにおい

トルエン $[\text{C}_6\text{H}_5\text{CH}_3]$

ガソリンのようなにおい

スチレン $[\text{C}_6\text{H}_5\text{CH}=\text{CH}_2]$

都市ガスのようなにおい

キシレン $[\text{C}_6\text{H}_4(\text{CH}_3)_2]$

ガソリンのようなにおい

プロピオン酸 $[\text{CH}_3\text{CH}_2\text{COOH}]$

刺激的な酸っぱいにおい

ノルマル酪酸 $[\text{CH}_3(\text{CH}_2)_2\text{COOH}]$

汗くさいにおい

ノルマル吉草酸 $[\text{CH}_3(\text{CH}_2)_3\text{COOH}]$

むれた靴下のようなにおい

イソ吉草酸 $[(\text{CH}_3)_2\text{CHCH}_2\text{COOH}]$

むれた靴下のようなにおい

アスベスト（石綿）（Asbestos）

蛇紋岩や角せん石に含まれる極細の鉱物繊維です。熱や磨耗に強いため、フロアタイル等の建材、蒸気パイプの被覆、自動車のブレーキライニング、ビルの天井への吹き付けなどに使用されてきましたが、発がん性（肺がん）などの健康影響を有することから、その製造・使用が原則禁止されています。大気汚染防止法では、「特定粉じん」として、特定粉じんを発生する施設については規制基準が設定されています。また、吹きつけ石綿など特定建築材料が使用された建築物及び工作物の解体等に係る作業について、知事への届出や作業基準の遵守が義務づけられています。

アメニティ（amenity）

豊かな緑、さわやかな空気、静けさ、清らかな水辺、美しい町並み、歴史的な雰囲気など、身の回りのトータルな環境の快適さのこと。快適環境と訳されます。

アルキル水銀化合物（alkylmercuric compound）

有機水銀の一つで、この中に含まれているメチル、エチル水銀は人間の神経をおかします。「水俣病」の原因物質とされており、アルキル水銀による中毒症状は、知覚、聴力、言語障害、視野の狭窄、手足のまひなどの中枢神経障害を起し死亡する場合があります。排水基準では「検出されないこと」となっています。主な発生源は化学工場、乾電池製造業等です。

暗騒音

航空機や送風機など特定の発生源を対象とした騒音の測定を行うとき、測定地点で測定される対象とした発生源（航空機や送風機など）からの騒音以外のすべての騒音のことです。

言い換えると、対象とする発生源からの騒音がない場合の測定地点における騒音レベルです。従って、航空機騒音の場合は、航空機が飛行していないときにおける騒音レベルを示します。

【い】

硫黄酸化物（SO_x）

大気汚染物質としての硫黄酸化物は、二酸化硫黄、三酸化硫黄及び三酸化硫黄が大気中の水分と結合して生じる硫酸ミストを含めたものをいいます。石油や石炭などの化石燃料を燃焼するとき、あるいは黄鉄鉱や黄銅鉱のような硫化物鉱物を焙焼するときに排出され、水と反応すると強い酸性を示すため、酸性雨の原因になります。日本では、硫黄酸化物による大気汚染問題は、高煙突、重油脱硫技術、排煙脱硫技術、天然ガスなどへの燃料転換等の普及により沈静化していますが、途上国を中心に、依然、深刻な問題となっています。

二酸化硫黄の環境基準は「1時間値の1日平均が0.04ppm以下であり、かつ1時間値が0.1ppm以下」であることとなっています

1時間値（大気汚染）

測定している物質の1時間の平均濃度です。

1日平均値（大気汚染）

1日24時間の測定結果（24個の1時間値）の平均値です。ただし、1時間値のうち、欠側が4時間を超える時は、1日平均値に係る集計から除外しています。

一酸化炭素（CO）

一般には、燃料等の不完全燃焼によって発生しますが、都市における最大の発生源は、自動車の排出ガスです。一酸化炭素は、血液中のヘモグロビンと結合して、酸素運搬機能を阻害します。環境基準は、「1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ1時間値の8時間平均値が20ppm以下」とされています。

一酸化窒素（NO）

→「窒素酸化物」の項を参照

移動発生源と固定発生源

大気汚染物の発生源は、固定発生源と移動発生源に分類されます。固定発生源としては工場又は事業場のボイラーや焼却炉等があり、移動発生源としては自動車、船舶及び航空機等があります。

【う】

上乘せ基準

ばい煙又は排出水の排出の規制に関して環境省令で定める全国一律の排出基準又は排水基準にかえて適用するものとして、都道府県が条例で定めたより厳しい排出基準又は排水基準を言います。

【え】

栄養塩類

植物プランクトンや海藻が増殖するために必要な物質で、けい素、りん、窒素等の塩類の総称です。

SS（Suspended Solid）

→「浮遊物質」の項を参照

SPSS（Content of Suspended Particles in Sea Sediment）

懸濁物質含量。底質に含まれるシルト状微粒子量のことです。赤土等堆積の目安になります。

SPM（Suspended Particulate Matter）

→「浮遊粒子状物質」の項を参照

【お】

オゾン・オゾン層

オゾン(O₃)は、空気又は酸素中で放電するとき生じ、紫外線の照射、雷の放電などによって生成されます。酸化性の強い、臭気のある気体で、人体や植物に有害な光化学スモッグの原因となるオキシダントの主成分であるとされています。地表から15～50キロメートルの上空には、オゾンが高濃度に存在する層があり、太陽から来る有害紫外線を遮断し、地表の生物を保護する大切な役割を果たしています。

近年、極地上空のオゾン濃度が急激に減少していることが観測され、オゾン層を保護するため、特定フロン等の使用を削減する国際的な条件（ウィーン条約）が締結されています。

汚濁負荷量

河川や海域の水質を汚濁する物質の総量をいい、汚濁負荷量＝濃度×水量によって計算されます。代表的な指標としてBOD、CODがあります。

汚泥

工場排水等の処理後に残るでい状のもの、及び各種製造業の製造過程において生ずる泥状のものであって、有機性及び無機性のものすべてを含むものです。

音圧レベル

人間の耳に聞こえる音の大きさを物理量で表す場合、その範囲は最小可聴音から最大可聴音まで10¹²倍程度の広い範囲に及び、使用するのに不便なので対数で表すようにしたのが音圧レベルです。ある音の音圧レベルは、その音圧と基準音圧（0dB）との

比の常用対数の 10 倍をとり、(dB)(デシベル)で示します。

温室効果

大気による地表面の保温効果のことです。太陽から流入する日射を吸収して加熱された地表面は赤外線熱放射をしますが、大気中には赤外線を吸収する「温室効果ガス」と言われるガス(二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素等)があり、地表面からの熱をいったん吸収してしまいます。温室効果ガスを含む大気によって吸収された熱の一部は地表面に下向きに放射されて加熱するため、地表面はより高い温度となります。この効果を「温室効果」といいます。

温室効果は、二酸化炭素を1とすればメタンで約21、フロンで約1万といわれ、異常気象の頻発を始め地球環境へ様々な深刻な影響をもたらすことが懸念されており、温室効果ガスの排出削減が国際的な課題となっています。

【か】

COD (化学的酸素要求量、Chemical Oxygen Demand)

COD とは、海水中における有機物による汚濁の程度を示すもので、水の中に含まれている有機物質が酸化剤によって酸化されるときに消費される酸素の量(通常 mg/l で表わす)をいい、数値が高いほど有機物の量が多く、汚れが大きいことを示しています。

環境

一般的に、大気、水、土壌等の環境の自然的構成要素やそれらにより構成される自然環境、生活環境のことを言いますが、「環境」といった用語は、そもそも包括的な概念を指すもので、その範囲がはっきりしない面もあります。「環境基本法」の対象とする「環境」の範囲についても、環境政策に関する社会的ニーズや国民的意識の変化に伴って変遷していくものと考えられています。環境基本法においては、「環境」又は「環境の保全」は特に定義されていません。

環境影響評価 (環境アセスメント)

規模が大きく環境影響の程度が著しいものとなるおそれがある事業の実施に当たりあらかじめ事業者自らが、当該事業の実施が環境に及ぼす影響について調査、予測及び評価を行い、環境保全措置を検討し、この措置が講じられた場合における環境影響を総合的に評価することをいいます。

環境影響評価準備書

準備書は、事業者が、方法書に対する意見を勘案・配意して環境影響評価の項目・手法を選定し、環境影響評価を実施した後、この環境影響評価の結果について環境保全の見地からの意見を聴くための準備として作成する文書です。

環境影響評価その他の手続

環境影響評価は、「事業の実施に当たりあらかじめ

め、その事業の実施に係る環境への影響について、自ら適正に調査、予測及び評価を行い、環境保全措置を検討する」という事業者内部において行われる行為を指しますが、「環境影響評価その他の手続」とは、環境影響評価が適切かつ円滑に行われるための、方法書、準備書、評価書といった手続のことを言います。環境影響評価法や沖縄県環境影響評価条例においては、事業者外部の住民等(環境保全の見地から意見を有する者)の意見を聴く手続や、環境影響評価の結果を許認可等へ反映させる手続を定めておりますが、こうした手続は、「その他の手続」に該当するものです。

環境影響評価方法書

方法書は、事業者が環境影響評価を行うに当たって、環境影響評価の項目、調査・予測・評価の方法の案について、環境保全の見地からの意見を求めるために作成する文書です。

環境影響評価書

評価書は、準備書についての意見を勘案・配意して準備書について必要な修正を加え、事業者自らが実施した環境影響評価の結果を取りまとめた文書です。

環境基準

人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準として濃度や大きさなどの数値で定められるものです。大気汚染、水質汚濁、地下水、土壌汚染及び騒音について環境基準が定められています。ただし、環境施策に係る行政上の目標として定められているものであり、公害発生源を直接規制するための基準(規制基準)とは異なります。

環境保全型自然体験活動

その参加者が、地域の自然環境について知識を有する者から案内又は助言を受け、当該地域の自然環境の保全について配慮しつつ当該地域の自然と触れ合い、これに対する理解を深めるための活動のことです。

環境マネジメントシステム

事業者が、法令等の遵守に留まらず、環境保全のために自主的・積極的に行動を取るための仕組みです。その一つである ISO14000 シリーズは、国際統一規格としての環境マネジメント規格で、環境保全に関する方針、目標、計画等を自ら設定し、これらを実行、記録、点検して方針を見直すという一連の手続きを行い、目標達成に向けて取り組んでいくものです。環境負荷の低減に留まらず、省資源・省エネルギーを通じた経費削減、企業内部の管理体制の効率化に繋がるとも言われています。環境管理の有効な手段として多くの企業が環境マネジメントシステムを活用しています。

環境容量

一般的には環境汚染物質の収容力を指し、その環境を損なうことなく、受け入れることのできる人間の活動または汚染物質の量を表します。環境基準などを設定した上で、許容される排出総量を与えるものと、自然の浄化能力の限界量から考えるものがあります。

環境ラベル

製品やサービスの環境側面について、製品や包装ラベル、製品説明書、技術報告、広告、広報などに書かれた文言、シンボル又は図形・図表を通じて購入者に伝達するものを、幅広く指す用語です。代表例としては、文房具や印刷用紙など様々な商品に使用されているエコマーク、古紙の再生利用商品に表示されているグリーンマーク、自動車の排出ガス低減レベルを示す低排出ガス車ステッカー等が挙げられます。



低排出ガス車ステッカー

【き】

規制基準

工場又は事業所から排出される汚染物質や発生する騒音等について許容限度を定めた基準であり、この数値は、人体に影響を及ぼす限界あるいは農作物などに影響を及ぼす限界などを考慮して定められ、具体的な数値は、各規制法令に定められています。

近隣騒音

生活を通して発生する多種多様な音が騒音として問題になるケースの騒音をいいます。具体的には、商業宣伝の拡声器の音、飲食店での営業騒音、家庭でのピアノ、テレビ、エアコンの音、ペットの鳴き声、学校・幼稚園での騒ぎ声などを指します。近隣騒音の特徴は、音量は小さく限られた近隣生活者間の問題として現われること、誰も場合によっては被害者のみならず加害者になる可能性があること、もともと主観的な要素が絡む騒音の中で、特にその要素が一層強く出ること等があげられます。

揮発性有機化合物（VOC）

大気汚染防止法では「大気中に排出され、又は飛散したときに気体である有機化合物（浮遊粒子状物質及びオキシダントの生成の原因とならない物質とし

て政令で定めるものを除く。）」と定義されており、同法に基づく揮発性有機化合物排出施設に対して揮発性有機化合物の排出基準が定められている。

【く】

クチャ

ジャーガルの母岩。乾湿を繰り返すことにより風化が進み、細粒化して流出します。他の土壌よりも流出が顕著で、濁水となって流出する時の濃度も高くなっています。

国頭マージ

千枚岩、片岩、砂岩、珪岩、安山岩、花崗岩、結晶性石灰岩、国頭れき層など種々の母岩を持ちます。色は赤色～黄色で、一般的に強酸性を示します。粗粒質から細粒質まであり、下層土は緻密で透水性、通気性が悪くなっています。傾斜地に広く分布し、侵食を受けやすい受食性土壌です。一般的に赤土とは国頭マージのことを指します。

グリーン購入

製品やサービスを購入する際には、購入の必要性を十分に考慮し、品質や価格だけでなく環境のことを考え、環境負荷ができるだけ小さい製品やサービスを、環境負荷の低減に努める事業者から優先して購入することを言います。

国においては、平成 12 年5月に制定された「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律（通称グリーン購入法）」において、グリーン購入への取組が義務づけられています。

また、地方自治体においてはグリーン購入に積極的に取り組むよう努力義務が課せられたことから、本県においては平成 14 年3月に「沖縄県グリーン購入調達方針」を策定し、県の各機関におけるグリーン購入の推進に取り組んでいます。

【け】

健康項目

人の健康の保護に関する項目で有害物質を示すものであり、水質については次の 26 項目が挙げられます。

カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、PCB、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,3-ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素。

【こ】

公害防止管理者

「特定工場における公害防止組織の整備に関する法律」に定められた特定工場において、公害の防止に関する業務のうち技術的事項を管理する者をいい

ます。特定工場を設置している者は、ばい煙発生施設、汚水等排出施設、騒音発生施設、粉じん発生施設、振動発生施設及びダイオキシン類発生施設の区分ごとに、それぞれ異なる種類の公害防止管理者を選任しなければなりません。資格としては国家試験に合格するか、国の資格認定講習の課程を修了する必要があります。

なお、排出ガス量が毎時4万以上かつ排出水量が1日当たり1万以上の特定工場には公害防止主任管理者を選任するものとされています。また、資格の要件はありませんが、常時使用する従業人が21人以上の特定工場には公害防止総括者の選任が義務づけられています。

光化学オキシダント

大気中の窒素酸化物や炭化水素等が強い紫外線等により光化学反応を起こして二次的に生成される、オゾン、アルデヒド、PAN類(パーオキシアセチルナイトレート=RCO₂NO₂)などの刺激性を有する物質の総称です。光化学オキシダントの発生は、気温や風速、日射量などの気象条件の影響を受け、夏期の風の弱い日差しの強い日に高濃度で発生しやすい。粘膜を刺激する性質を持ち、光化学オキシダントの高濃度汚染や視程の低下を招く粒子状物質(エアロゾル)を生成するような状態のことを「光化学スモッグ」と呼びます。

環境基準は「1時間値が0.06ppm以下」であることとなっています。

降下ばいじん

大気中に排出されたばいじんや風により地表から舞い上がった粉じんなどのうち、比較的粒径が大きく重いために大気中で浮かんでいられずに落下(降下)するもの、あるいは雨や雪などに取り込まれて降下するものをいい、その量はt/km²・月で表されま

公害防止協定

地方公共団体と企業、住民団体と企業などの間で、公害防止のために必要な措置を取り決める協定のことをいいます。地域の特殊性に応じた有効な公害規制を弾力的に実施するのに適するため、法律や条例の規制と並ぶ有力な公害防止上の手段として広く利用されています。

固定発生源

→「移動発生源」の項を参照

公共用水域

水質汚濁防止法では、「公共用水域とは河川、湖沼、港湾、沿岸海域その他公共の用に供される水域及びこれに接続する公共溝きよ、かんがい用水路その他公共の用に供される水路(「下水道法」第2条第3号及び第4号に規定する公共下水道及び流域下水道)であって、同条第6号に規定する終末処理場を

設置しているもの(その流域下水道に接続する公共下水道を含む。)を除く。)をいう。」と定義されています。

コンポスト化

下水汚泥、ごみ、家畜ふん尿、木屑などの有機物を微生物により発酵させ堆肥化し、肥料や土壌改良材として農業用に再生利用することをいいます。

【さ】

最終処分場

一般廃棄物及び産業廃棄物を埋立処理するために必要な場所及び施設・設備の総体をいいます。産業廃棄物最終処分場には、安定型(廃プラスチック等)、管理型(汚でい等)、しゃ断型(有機物質を埋立基準以上含む廃棄物)があります。

再生紙

製紙原料に古紙を配合した紙。急増する紙ごみの減量化や森林資源の保護のため、近年、企業や官庁におけるコピー用紙や出版物への利用が増加しています。本県でもコピー用紙等への再生紙利用を図っています。

サステイナブル・ディベロップメント (Sustainable Development)

わが国では「持続可能な開発」と訳されています。1987年4月に公表されたWCED(環境と開発に関する世界委員会)の報告書「Our Common Future」の中心的考え方として取り上げられ、環境と開発とを相反するものとしてではなく互いに依存するものとしてとらえ、環境を保全してこそ将来にわたっての開発を実現できるとの考え方は広く世界の支持を得ています。

産業廃棄物

産業廃棄物とは、事業活動に伴って生じる廃棄物のうち、廃棄物処理法で指定された燃えがら、汚泥、廃油、廃酸、廃プラスチック、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず、ガラス陶磁器くず、鉱さい、動物のふん尿、動物の死体、ばいじん等の20種類をいいます。産業廃棄物以外の廃棄物を一般廃棄物といい、家庭ごみやし尿も含まれません。

酸性雨

化石燃料などの燃焼により大気中に放出された硫黄酸化物や窒素酸化物などから生成した硫酸や硝酸が溶解した酸性の強い(pH5.6以下の)雨や雪、霧(湿性沈着)のほか、地上に降下する酸性の粒子状物質やガス状の酸(乾性沈着)も含めて酸性雨と呼んでいます。

【し】

COD(化学的酸素要求量、Chemical Oxygen Demand)

→「化学的酸素要求量」の項を参照

島尻マージ

琉球石灰岩を母岩とし、黄褐色～暗褐色で一般的に弱アルカリ性を示します。細粒質の重粘土で透水性は高くなっています。平坦地に分布し、侵食性の低い耐食性土壌です。土層厚は変化に富み、浅い部分ではれき質で基岩の露出するところがあります。

シミュレーション (Simulation)

模擬実験のこと。社会現象のテスト、自然現象の観察、工業団地の計画など、実際には自由に試してみることのできないことを、実際とよく似たモデルを作り、コンピューター等を使って実験してみることです。

自動車排出ガス

自動車の運行に伴い発生するガスで、人の健康や生活環境の汚染に関わる物質として、一酸化炭素、炭化水素類、窒素酸化物及び粒子状物質などがあります。近年では、自動車排出ガスが主要な大気汚染源となっています。

ジャーガル

島尻層群の泥岩(クチャ)を母岩とし、黄緑褐色～灰色で、アルカリ性を示します。細粒質の重粘性土壌で、透水性は著しく低くなっています。緩傾斜地から平坦地に分布し、傾斜地では地滑りや崖崩を受けやすい性質があります。乾燥した表土は雨に流されやすく、高濃度の濁水の発生源となっています。

重金属

比重 4.0 以上の金属をいい、水銀、カドミウム、銅、鉛、クロム等生体に入ると微量でも有害なものが多くあります。

浄化槽 (= 合併処理浄化槽)

便所と連結してし尿と生活雑排水(台所や風呂等からの排水)を併せて処理して放流するための設備・施設であって、下水道、し尿処理施設以外のものをいいます。

従来、し尿のみを処理する「単独処理浄化槽」についても浄化槽の定義に含めてましたが、浄化槽法の改正(平成 12 年6月改正[平成 13 年4月施行])により、浄化槽の定義を変更し、「合併処理浄化槽」のみを指すものとなりました。

浄化槽法改正以前に設置された「単独処理浄化槽」については、浄化槽のみなし施設・設備として従来どおり浄化槽法の適用対象としています。

【す】

水域類型

水質汚濁に係る環境基準のうち、生活環境の保全に関する環境基準については、河川、湖沼、海域別に利水目的に応じた水域を区切って AA、A、B 等の類型を設けています。pH、BOD 等の項目について、それぞれの水域類型ごとに環境基準値を定め、

各公共用水域に水域類型のあてはめを行うことにより当該水域の環境基準値が具体的に示されます。

水銀 (Hg)

常温で液体の唯一の金属です。湿った空気中で酸化物になりやすく、有毒で一般粉じん中 0.1mg/m³ が限度です。神経系をおかし、手足のふるえを起こしたり言語障害、食欲不振、聴力視力の減退をもたらします。

なお、水銀化合物の種類は多く、生体に対する作用のうえからは、無機水銀と有機水銀に大別されます。無機水銀化合物には金属水銀並びに塩化第二水銀が主なものであり、その他、硫化水銀、酸化水銀、硝酸水銀、雷酸水銀等があります。有機水銀化合物の種類は非常に多く、酢酸フェニール水銀やアルキル水銀であるメチル水銀、エチル水銀、ジメチル水銀、ジエチル水銀等があり、メチル水銀が「水俣病」の原因物質であることが知られています。

水質基準

一般に水質を保全するための基準としては、公共用水域の水質が、人の健康の保護並びに生活環境保全のために維持されることが望ましい基準として定められる環境基準と、工場又は事業場などから公共用水域に排出される水の水質許容限度として定められる排水基準の二つがあります。水質基準としては、まず水域の利用目的等による環境基準が定められ、この基準を達成するためのものとして排水基準が定められています。

【せ】

生物化学的酸素要求量 (BOD: Biochemical Oxygen Demand)

河川などの水の中の汚染物質(有機物)が微生物によって無機化あるいはガス化されるときに必要な酸素量のことで、単位は一般的に mg/l で表します。この数値が大きくなれば、その河川などの水中には汚染物質(有機物)が多く、水質が汚濁されていることを意味します。

生活環境項目

水質汚濁物質の中で、生活環境に悪影響を及ぼすおそれがあるものとして定められた pH、BOD、COD、SS、DO、大腸菌群数、全窒素、全りん、n-ヘキサン抽出物質及び亜鉛の項目をいいます。

生態系サービス

生物や生態系に由来した人類に利益となる機能のことです。栄養や土壌形成などの基盤サービス、食品や燃料などの供給サービス、気候や洪水制御などの調整サービス、レクリエーションや知的・文化的要素の文化サービスに大別され、生物多様性に支えられた生態系が、人類に多大な利益をもたらすことを理解するために用いられています。

生物指標

化学的酸素要求量（COD）のような理化学的な指標に対して、どのような生物が生息しているかを調べることにより、水質の状況を知る指標のことをいいます。水のきれいさにより生息する生物が異なることから、生息している生物を調べることで水質の状況を総合的に知ることができる特色があります。

生物多様性

生きものたちの豊かな個性とつながりを表す言葉です。地球上の生きものは40億年という長い歴史の中で、さまざまな環境に適応して進化し、3,000万種ともいわれる多様な生きものが生まれました。これらの生命は一つひとつに個性があり、全て直接に、間接的に支えあって生きています。生物多様性条約では、生態系の多様性・種の多様性・遺伝子の多様性という3つのレベルで多様性があるとされています。

戦略的環境影響評価

（SEA：Strategic Environment Assessment）

事業は、概念的には、政策段階、計画段階、事業段階の順に意思決定がなされます。環境影響評価法及び沖縄県環境影響評価条例における環境影響評価は、事業段階において、「事業の実施に当たりあらかじめ行う」もので、「事業アセスメント」と言われています。

これに対し、戦略的環境影響評価は、政策段階、計画段階での意思決定における環境影響評価を確実なものとする体系的なプロセスのことを言い、特に計画段階で行うものを計画アセスメントと言います。その目的は、意思決定のできるだけ早い適切な段階で、経済的・社会的な配慮と同時に、環境の配慮が十分に行われ、その結果適切な対策が取られることを確実にすることです。

国や沖縄県においては、戦略的環境影響評価の制度化に向けた検討を進めておりますが、東京都や埼玉県、京都市などの先進的な制度・事例も見られます。

【そ】

総量規則

大気汚染や水質汚濁の防止を図るため、工場又は事業場が集合し、ばい煙や汚水等の発生（排出）施設ごとの排出規制では環境基準の達成が困難である場合に、地域全体の排出総量を削減するために用いられる規制手法のことをいいます。地域を指定し、総量削減計画に基づいて、個々の発生施設ごとの排出基準又は排水基準より厳しい基準が設けられます。

【た】

大腸菌群数

大腸菌群とは、乳糖を分解し酸とガスを形成する好気性又は通性嫌気性の菌の総称です。大腸菌群が水中に存在するということは、多くの場合、その水

が人畜のし尿などで汚染されている可能性を示すものであることから、水質汚濁の指標とされています。

WECPNL (Weighted Equivalent Continuous Perceived Noised Level)

ある場所における1日あたりの航空機騒音の大きさを表す単位で、1機ごとの騒音レベルだけでなく、飛来時間や機数をも考慮したものです。まず1日に飛来した航空機の騒音レベルをすべてパワー平均し、更に時間帯別機数について、夕方に飛来した機数を3倍、夜に飛来した機数を10倍（同じ大きさの騒音でも昼と夜とでは、夜の方がうるさく感じられる）にして計算します。

[計算方法]

$$\text{WECPNL} = \overline{\text{dB(A)}} + 10 \cdot f \cdot N - 27$$

$\overline{\text{dB(A)}}$ ：1日に飛来した飛行機の騒音レベルを全てパワー平均したもの

N：飛来時間ごとに補正された機数

$$N = N_2 + 3 N_3 + 10(N_1 + N_4)$$

N_1 ：0時～7時に飛来した機数

N_2 ：7時～19時に飛来した機数

N_3 ：19時～22時に飛来した機数

N_4 ：22時～24時に飛来した機数

短期的評価（大気汚染）

1時間値、1日平均値、あるいは8時間平均値について測定結果を環境基準に比較して行う評価方法で、高濃度の出現状況の把握に利用されます。

【ち】

地球温暖化

人間活動によって二酸化炭素、メタン、フロン等の温室効果ガスが人為的に大量に排出されることで、大気中の温室効果ガス濃度が上昇して温室効果が強まり、その結果気温が上昇し、人類を含む生態系がその基盤をおいている気候が変動することをいいます。

窒素酸化物（NOx）

大気汚染物質としての窒素酸化物は、一酸化窒素や二酸化窒素が主です。工場の煙や自動車排気ガスなどの窒素酸化物の大部分は一酸化窒素ですが、これが大気環境中で紫外線などにより酸素やオゾンなどと反応し二酸化窒素に酸化します。そこで、健康影響を考慮した大気環境基準は二酸化窒素について定められていますが、排出基準は窒素酸化物として基準値が決められています。

長期的評価（大気汚染）

主として1年を単位とする平均的な評価で、汚染の実態や推移を把握するものです。なお、一般に環境基準の達成、未達成という場合は長期的評価を指しています。

【て】

D0 (Dissolved Oxygen)

→「溶存酸素量」の項を参照

底質

生物をとりまく外圍物質(媒質)のうち固体の場合をいいます。陸上では岩石や土壌、水界では汚泥、岩石が代表的な底質であり、底質は生物の分布を左右する最も重要な環境要因の一つです。

典型7公害

環境基本法第2条第3項に定義されている、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭の7種類の公害のことを指します。ただし、近年は低周波騒音、日照、通風阻害、光害などの典型7公害に含まれない公害が増加傾向にあります。

【と】

特定施設

公害規制法令で規制の対象になっている施設で、汚水を排出する施設、大気汚染物質や騒音・振動を発生する施設等をいいます。

特定フロン

1985年3月、オゾン層の保護に関するウィーン条約が採択され、同条約に対する「モントリオール議定書」が1987年9月に採択され、1989年1月に発効しました。この議定書ではフロン11、フロン12、フロン113、フロン114、フロン115の5種類が規制の対象となり、1998年までに1986年の消費量の50%に削減することが決まり、後に1992年11月の国連環境計画のコペンハーゲン会議で1996年に全廃することが採択されました。この5種類のフロンを特定フロンと呼んでいます。

都市・生活型公害

自動車の排出ガスによる大気汚染、自動車の騒音、生活排水等による河川の汚濁、地下水の過剰汲み上げ等による地盤沈下など都市における生活活動や産業活動が環境に過度の負荷をかけることによって発生する公害のことです。

トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン

トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタンは、不燃性で水に溶解難く、エーテル、エタノール等の有機溶剤によく溶解、脱脂力が強く、金属部分の脱脂洗浄、半導体のプリント基盤及びドライクリーニングの洗浄剤などに利用されています。肝機能障害や中枢神経障害等を起こし、発がん性の疑いもあります。

公共用水域の水質汚濁に係る環境基準は、トリクロロエチレン 0.03mg/l 以下、テトラクロロエチレン 0.01mg/l 以下、1,1,1-トリクロロエタン 1 mg/l 以下と定められています。

【な】

ナショナル・トラスト活動

開発等による環境破壊から貴重な自然環境や文化遺産等を保存するために、寄付を募って土地や建造物を取得する等の方法によってこれらを保存・管理・公開する市民運動。19世紀末のイギリスで始まり、現在日本各地でも広く行われています。

鉛 (Pb)

青みを帯びた、あるいは銀白色の軟らかい金属である。水や海水に耐食性があります。

人体に対する影響としては、1日 0.5mg 以上の摂取で毒性を示し、その 1000 倍の 0.5 g 以上の摂取で致命的な障害を起こすといわれている。水質汚濁に係る環境基準値は 0.01mg/l 以下と定められています。

【に】

二酸化硫黄 (SO₂)

→「硫黄酸化物(SO_x)」の項を参照

二酸化窒素 (NO₂)

→「窒素酸化物(NO_x)」の項を参照

環境基準は、「1時間値の1日平均値 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下」であることとなっています。

日平均値の2%除外値 (大気汚染)

1年間に得られた1日平均値を整理し、高い方から2%の範囲にある測定値(365日の1日平均値があれば7日分のもの)を除外した後の最高値で、二酸化硫黄(SO₂)、一酸化炭素(CO)及び浮遊粒子状物質(SPM)の長期的評価に用いられます。

日平均値の年間98%値 (大気汚染)

1年間に得られた1日平均値を整理し、低い方から98%に相当する値(365日の1日平均値があれば358番目の1日平均値)で、二酸化窒素(NO₂)の長期的評価に用いられます。

人間環境宣言

1972年スウェーデンのストックホルムで開催された人間環境会議で採択された宣言で、「人間環境の保全と向上に関し、世界の人々を励まし、導くため共通の見解と原則が必要である」として人種差別排除、天然資源の適切な保護等 26 項目の原則を表明しました。

【ね】

熱帯林

概ね南北回帰線にはさまれた地域に分布する森林で、熱帯多雨林、熱帯季節林、サバナ林に大別されます。地球の肺として酸素供給、二酸化炭素の固定化等地球規模での環境保全・調整機能を有するとともに極めて多種多様な動植物を育む生態系でもあ

ります。地球上の陸地面積の約6%にすぎませんが地球上の生物種の少なくとも半分は熱帯林に生育、生息していると言われており、未知の遺伝子資源の宝庫でもあります。

年平均値（大気汚染）

1年間に測定した1時間値の和を測定時間で除した値です。

ただし、年間の測定時間が 6,000 時間未満のものは参考にとどめています(1年間は 8,760 時間)。

【の】

ノルマルヘキサン抽出物質

ノルマンヘキサン抽出物質とは、水の中に含まれる比較的揮発しにくい炭化水素、炭化水素誘導体、グリース油状物質等を総称しています。通常「油分」といわれており、鉱油及び動物油等の油分の量をあらわす指標として使用されています。

【は】

廃棄物

廃棄物とは、その物を占有している者が自ら利用し、又は他人に有償で売却することができないため不用となった物をいい、ごみ、し尿などの固形状又は液状のものをいいます。

ばい煙

大気汚染防止法では、次の物質をいいます。

- (1) 燃料等の燃料に伴い発生するいおう酸化物
- (2) 燃料等の燃焼又は電気炉等の使用に伴い発生するばいじん
- (3) 物の燃焼、合成、分解等の処理に伴い発生するカドミウム及びその化合物、塩素及び塩化水素、弗素、弗化水素及び弗化珪素、鉛及びその化合物、窒素酸化物

ばいじん

工場又は事業場から発生する粒子状物質のうち、燃料その他の物の燃焼等に伴い発生する物質をいいます。

バーゼル条約

UNEP が 1989 年 3 月に採択した「有害廃棄物の越境移動及びその規制に関するバーゼル条約」のことです。有害廃棄物の越境移動の原則禁止、自国内処分原則、越境移動の際の事前通報義務違反な越境移動の場合に廃棄物発生国が再輸入の措置をとること、開発途上国への技術協力などのための基金の設立などを主な内容としています。

8 時間平均値（大気汚染）

8 時間平均値とは、1 日を 0 時 00 分～8 時 00 分、8 時 00 分～16 時 00 分、16 時 00 分～24 時 00 分と 8 時間ごとに 3 つの時間帯に区分したとき、それぞれの時間帯（8 時間）における 1 時間値の平均値であ

り、1 日につき 3 個存在します。

【ひ】

pH（水素イオン濃度）

溶液の中の水素イオン（H⁺）の濃度を pH という記号で表示します。pH は 0 から 14 で 7.0 を中性とし、酸性の場合は 7 より小さく、アルカリ性では 7 より大きい。

PCB（Polychlorinated biphenyls）

ポリ塩化ビフェニルと称される。不燃性で化学的にも安定であり、熱安定性にも優れた物質でその使用範囲は、絶縁油、潤滑油、ノーカーボン紙、インク等多数にわたっています。カネミ油事件の原因物質で、皮膚障害や肝臓障害を引き起こし、昭和 47 年以降製造は中止されています。

ppm（Parts Per Million）

ppb（Parts Per Billion）

濃度を表す単位で、ppm は 100 万分の 1、ppb は 10 億分の 1 を示します。例えば、1 ppm は 1 mg/kg、1 mg/l、1 cm³/m³ を意味します。

PPP（Polluter Pays Principle）

環境汚染防止の費用は汚染者が支払うべきであるとの考えであって、一般的には汚染者負担の原則といわれています。

BOD（生物化学的酸素要求量、Biochemical Oxygen Demand）

→「生物化学的酸素要求量」の項を参照

微小粒子状物質（PM_{2.5}）

粒径 2.5 μm 以下の大気中に浮遊する粒子状物質で、呼吸器疾患、循環器疾患及び肺がんの疾患に関して総体として人々の健康に一定の影響を与えていると言われています。ディーゼル車の排気ガスなどから発生します。

環境基準は「1 年平均値が 15 μg/m³ 以下であり、かつ、1 日平均値が 35 μg/m³ 以下であること。」となっています。

【ふ】

富栄養化

湖水や海水に流入する工場排水等により水の中の窒素、りんなど栄養塩類の濃度が高くなり、植物プランクトン等の異常増殖（アオコ等の発生）をもたらす現象をいいます。

複合汚染

2 種類以上の汚染物質が共存して、人の健康や生活環境に相加的、相乗的な影響を及ぼすことをいいます。

浮遊物質 (SS : Suspended Solid (懸濁物質))

水中に浮遊している物質の量をいい、一定量の水をろ紙でこし、乾燥させてその重量を測ることとされており、数値(mg/l)が大きいほど水質汚濁の著しいことを示しています。

浮遊粉じん

大気中の粒子状物質は、「降下ばいじん」と「浮遊粉じん」に大別され、さらに「浮遊粉じん」は、環境基準の設定されている粒径 10 μ m 以下の浮遊粒子状物質とそれ以外に区別されます。

浮遊粒子状物質 (SPM : Suspended Particulate Matter)

大気中に浮遊している 10 μ m 以下の粒子状物質で、代表的な「大気汚染物質」のひとつ。環境基準は「1時間値の1日平均値が 0.10mg/m³ 以下であり、かつ、1時間値が 0.20mg/m³ 以下」と定められています。発生源は、工場のばい煙、自動車排出ガスなどの人の活動に伴うもののほか、自然界由来(黄砂、火山、森林火災など)のものがあります。

粉じん

大気環境中に浮遊する微細な粒子状の物質の総称として呼ばれる場合と、大気汚染防止法が大気汚染物質の発生源を規制するために定義しているものがあります。また、労働安全衛生法は作業環境における粉じんによる健康被害を防止する規制を行っています。大気環境中の粉じんには粒径、成分のさまざまなものがあり、降下ばいじんは 10 μ m 程度かあるいはそれ以上で比較的粒子が大きく、人の肺機能に影響すると考えられている 10 μ m 以下のものは浮遊粒子状物質と呼ばれています。

【へ】

閉鎖性水域

地形等により水の交換が少ない内湾、内海、湖沼等の水域をいいます。栄養塩類が流入すれば富栄養化が進みやすい水域です。

【ほ】

ポリ塩化ビフェニル (PCB : Polychlorinated Biphenyls)

→「PCB」の頁を参照

保全利用協定制度

沖縄県において環境保全型自然体験活動(いわゆる「エコツアー」に該当)に係る案内及び助言を業として行う物(以下「事業者」という。)が、環境保全型自然体験活動を行う場所の保全を目的として策定・締結するルールの中で、その内容が適切なものであれば、沖縄県知事がこれを適当なものとして認定することができる制度です。同制度は、沖縄振興特別措置法に盛り込まれている制度であり、地域の資源の保全と利用に責任がもてる事業者の活動を支援

することで、エコツーリズムの理念に沿った自然体験活動が促進されることを目的としています。

【や行】

有機溶剤

工場の生産工程において、有機溶剤は広範囲に使用されており、例えば、塗装工程におけるトルエン、キシレン等のシンナー類、金属の脱脂工程におけるトリクロロエチレン、テトラクロロエチレン等の塩素系有機溶剤等があります。蒸発し、気体として排出される窒素酸化物とともに光化学スモッグの原因となり、また、それ自体有害性もあり、悪臭の原因となる物質も含まれています。

有機りん

りん有機物の化合物の総称で、毒性のものが多。パラチオンは、その代表的なものです。水質汚濁防止法では、有機りんのうち4物質(パラチオン、メチルパラチオン、メチルジメトン、EPN)を、人の健康に係る被害を生ずるおそれがある物質と定め、その許容限度は1 mg/l 以下と定められています。

USLE 式 (Universal Soil Loss Equation)

土壌流出を予測する式としてアメリカ農務省で開発され、広く国内でも一般的に用いられています。降雨係数(R)、土壌係数(K)、地形係数(LS)、保全係数(P)及び作物係数(C)の5つの係数の積から算出され、地域におけるこれらの係数を調査して求めることにより赤土等流出量(A)を予測します。

$$A [t / ha / 年] = R \cdot K \cdot LS \cdot P \cdot C$$

溶存酸素量 (DO : Dissolved Oxygen)

水中に溶けている酸素量のことをいい、溶存酸素は水の自浄作用や水中の生物にとって必要不可欠なものです。溶解量を左右するのは水温、気圧、塩分などで、汚染度の高い水中では消費される酸素の量が多いので溶存する酸素量は少なくなります。きれいな水ほど酸素は多く含まれ、水温が急激に上昇したり、藻類が著しく繁殖するときは過飽和の状態になります。

【ら行】

ラムサール条約

正式には「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といい、1975年に発効しました。イランのラムサールで採択されたことからこう呼ばれます。特に水鳥に注目し、その生息地として国際的に重要な湿地及びその動植物の保全を進めると、湿地の適正な利用を進めることを目的としています。

日本は1980年に加入し、2012年現在、全国で46カ所の湿地が登録されています。沖縄県内では、1999年に漫湖(那覇市・豊見城市)、2005年に慶良間諸島海域(渡嘉敷村・座間味村)と名蔵アンパル(石垣市)、2008年に久米島の溪流・湿地(久米島

町)、2012年に与那覇湾(宮古島市)が登録され、北海道に次ぎ全国でも登録湿地の多い県となっております。

リモートセンシング

人工衛星や航空機から地球表面を調査すること。農業、林業、土地利用、地下資源、水資源、防災、水産、環境保全など広範な分類にわたって重要な役割を果たしています。リモートセンシングの本来の意味は、直接手をふれないで、離れたところから物体を識別したり、その状態を調べたりすることです。

類型あてはめ(類型指定)

水質汚濁の生活環境項目及び騒音の環境基準については、全国一律の環境基準値が設定されておらず、国において類型別に基準値が示され、これに基づき都道府県知事が河川等の状況や、騒音に係る地域の土地利用の状況や時間帯に応じてあてはめ、指定していくことをいいます。

【わ】

ワシントン条約(CITES: Convention on International Trade in Endangered Species of Wild Fauna and Flora)

正式には「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条例」といい、1975年に発効しました。野生動植物の国際取引を輸出国と輸入国が協力して規制することにより、絶滅のおそれのある野生動植物の保護を図ることを目的としています。日本は1980年に加入し、1987年に「絶滅のおそれのある野生動植物の譲渡の規制等に関する法律」を試行しました。

13 環境についての問い合わせ先

環境についてのお問い合わせは、県の環境各課、各保健所の担当窓口又は市町村の環境担当課までお願いいたします。

(1) 県の機関

課所名	TEL及びFAX	内容
環境政策課	TEL：098-866-2183 FAX：098-866-2308	環境基本計画に関すること 環境影響評価制度（環境アセスメント）に関すること 公害紛争に関すること 石綿健康被害救済制度に関すること
環境保全課	TEL：098-866-2236 FAX：098-866-2240	大気汚染に関すること 騒音・振動・悪臭に関すること 赤土等流出防止対策に関すること 水質汚濁に関すること 土壌汚染及び地盤沈下に関すること 化学物質に関すること 放射能調査に関すること
環境整備課	TEL：098-866-2231 FAX：098-866-2235	一般廃棄物に関すること 産業廃棄物に関すること リサイクル対策に関すること ごみの散乱防止に関すること 浄化槽に関すること そ族昆虫の駆除に関すること
自然保護課	TEL：098-866-2243 FAX：098-866-2855	国立公園、国定公園、県立自然公園に関すること 自然環境の保全に関すること 鳥獣の保護及び狩猟に関すること 温泉に関すること 野生動植物の保護に関すること
環境再生課	TEL：098-866-2064 FAX：098-866-2497	地球温暖化対策に関すること 環境教育に関すること 緑化の推進に関すること
北部保健所	TEL：0980-52-2636 FAX：0980-53-2505	廃棄物処理の監視・指導に関すること 自動車リサイクル法に関すること
中部保健所	TEL：098-938-9787 FAX：098-938-9779	浄化槽に関すること そ族昆虫及び衛生害虫の駆除指導に関すること
南部保健所	TEL：098-889-6799 FAX：098-888-1348	温泉に関すること 公害の監視及び調査に関すること
宮古保健所	TEL：0980-72-2420 FAX：0980-72-8446	
八重山保健所	TEL：0980-82-3243 FAX：0980-83-0474	

(2)市町村環境担当部署一覽

No.	市町村名	担当課	電話
1	那覇市	環境部環境保全課	098-951-3229
2	宜野湾市	市民經濟部環境対策課	098-893-4411
3	石垣市	市民保健部環境課	0980-82-1285
4	浦添市	市民部環境保全課	098-876-1234
5	名護市	企画部環境対策課	0980-52-0003
6	糸満市	市民保健部市民生活環境課	098-840-8124
7	沖繩市	市民部環境課	098-939-1212
8	豊見城市	市民健康部生活環境課	098-850-5520
9	うるま市	市民部環境課	098-973-5594
10	宮古島市	生活環境部環境衛生課	0980-75-5339
11	南城市	市民部生活環境課	098-946-8981
12	国頭村	福祉課	0980-41-2765
13	大宜味村	建設環境課	0980-44-3280
14	東村	建設環境課	0980-43-2205
15	今帰仁村	住民課	0980-56-2102
16	本部町	保険予防課	0980-47-5602
17	恩納村	村民課	098-966-1205
18	宜野座村	住民生活課	098-968-8501
19	金武町	住民生活課	098-968-2460
20	伊江村	建設課	0980-49-3162
21	読谷村	総務部生活環境課	098-982-9214
22	嘉手納町	産業環境課	098-956-1111
23	北谷町	住民福祉部保健衛生課	098-982-7033
24	北中城村	住民生活課	098-935-2233
25	中城村	住民生活課	098-895-2131
26	西原町	総務部生活環境安全課	098-945-5018
27	与那原町	生活環境安全課	098-945-4688
28	南風原町	総務部住民環境課	098-889-1797
29	渡嘉敷村	民生課	098-987-2322
30	座間味村	総務・福祉課	098-987-2311
31	粟国村	民生課	098-988-2017
32	渡名喜村	民生課	098-989-2317
33	南大東村	福祉衛生課	0980-22-2036
34	北大東村	福祉衛生課	0980-23-4055
35	伊平屋村	住民課	0980-46-2142
36	伊是名村	建設環境課	0980-45-2004
37	久米島町	環境保全課	098-985-7126
38	八重瀬町	住民環境課	098-998-8203
39	多良間村	住民福祉課	0980-79-2623
40	竹富町	自然環境課	0980-82-6191
41	与那国町	まちづくり課	0980-87-3580